

向 原 遺 跡

長野原工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996年3月

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

序 文

現在、長野原町では八ツ場ダム建設という大事業に全町を上げて取り組んでおります。

その中で、貴重な文化遺産も後世に正しく伝えるべく調査し、保存、活用を行なえる様考えております。

本町では、群馬県教育委員会文化財保護課の指導のもと、全町を対象にした遺跡詳細分布調査を3ヵ年間かけ実施しました。その結果、数多くの遺跡があることが確認されています。

今回の向原遺跡発掘調査は、この調査結果を踏まえた上で長野原工業団地造成に関連する調査であります。この調査により縄文時代の敷石住居跡や土坑、陥し穴の跡が確認されました。また、奈良・平安時代のものと思われる墨書き土器の出土など、予想を上まわる貴重な成果を得ることができました。長野原町の原始古代史に新たな1頁を加えられたことは、大変喜ぶべきことです。

この調査を実施するにあたり、町当局を始めご指導の先生方、作業に取り組まれたみなさんならびに関係各位に対し、厚く御礼申し上げるとともに、本書が広く活用され文化財保護に役立つことを願い序文といたします。

平成8年3月

長野原町教育委員会

教育長 市 村 仁

例　　言

1. 本書は、長野原工業団地造成に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び整理業務は、群馬県企業局開発課から委託を受け、長野原町教育委員会が実施した。
3. 遺跡名及び所在地・調査期間は、次の通りである。

遺跡名　　向原遺跡

所在地　　長野原町大字長野原字向原丙1392番地ほか

調査期間　発掘調査　　平成5年7月1日～平成6年3月31日

整理業務　　平成6年4月1日～平成8年3月31日

4. 発掘調査担当者は、長野原教育委員会社会教育課主事白石光男が担当した。
5. 遺構の写真撮影は白石光男が行う。遺跡の航空写真は青高館に、測量は(株)測研に委託した。
6. 整理業務は白石光男を中心に行った。遺物の整理を萩原仁、野口修男、内海吉朗が行う。遺物写真撮影を嶋村和作が行い、トレースを竹渕みづゑ、市村智恵、桜井佳世子が行った。
7. 本遺跡出土遺物及び記録類は群馬県吾妻郡長野原町教育委員会が管理、保管している。
8. 発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の方々にご意見、ご指導を戴いた。(敬称略)

群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県企業局開発課、八ッ場ダム工事事務所、久保誠二、
坂寄富士夫、(有)前橋文化財研究所

9. 発掘調査に協力してくれた方々は、次の通りです。(敬称略　順不同)

小出庫雄、萩原　仁、嶋村和作、竹渕みづゑ、市村智恵、桜井佳世子、野口修男、内海吉朗、
山口正太郎、篠原なみ江、黒岩峰吉、唐沢弘子、黒岩兵衛、小林一子、干川ミツ子、佐藤二郎、
篠原喜久、桜井光昭、足立千代子、竹渕由紀子、浦野友次、浦野多恵、浅見二司（地元の方々）
豊田茂光、山本健二、野口裕治、小林　理（大学生）
高橋悟史、西本範晃、湯浅和子、篠　博典、野口幹也、橋爪邦彦、唐沢千絵、豊田真理子、竹渕優治、
冨沢香里、中島亜企子、大西伸幸、飯塚　勇、斎藤雪彦、宮腰俊寛、山口沙織、上原幸子、中島真也、
山口智和、松本邦明（高校生）

目 次

序
例言
報告書抄録

I 発掘調査と遺跡の概要

1 調査に至る経緯	1
2 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
3 調査方法	1

II 検出された遺構と遺物

1 壴穴住居	3
2 埋甕	29
3 土坑	31
4 遺構外出土遺物	42
遺物観察表	44
写真図版	

報 告 書 抄 錄

ふりがな	むかいばらいせき
書名	向原遺跡
副書名	長野原工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	長野原町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第5集
編著者名	白石 光男
編集機関	群馬県吾妻郡長野原町教育委員会
編集機関所在地	〒377-13 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋174 TEL 0279-82-4517
発行年月日	西暦1996年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北 緯 ° ′ ″	東 綏 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むかいばら 向原遺跡	ぐんまけんあがつまぐん 群馬県吾妻郡 ながの はらまちおおあざ 長野原町大字 ながのはら あざむかいばら 長野原字向原	10424	75	36 度 32 分 43 秒	138 度 38 分 43 秒	1993.07.21～ 1994.03.25	14,226	工業団地造 成に伴う事 前調査

所収遺跡名	種 别	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
向原	集落	縄文	竪穴住居	3軒	縄文土器、敲石、打製石斧、 多孔石、石皿、石鏃、剝片
			敷石住居 埋甕 陥し穴	2軒 2基 14基	
	集落	平安 年代不明	竪穴住居	10軒	土師器、須恵器、灰釉陶器、 黒色土器、鐵器、砥石
			竪穴住居	1軒	

I 発掘調査と遺跡の概要

1 調査に至る経緯

長野原町は、近年若年労働者の流失が著しく、若者の雇用の場の確保が地域住民の念願であり、加えて八ツ場ダム建設計画が進み、ダムの基本的取り組みとして、現地再建をめざすことが重要な課題である。このことから雇用の場の安定確保及び生活再建を行うべく、長野原工業団地造成事業が実施される運びとなった。

群馬県教育委員会文化財保護課と町教育委員会は町内遺跡詳細分布調査を基に、工業団地造成地が遺跡包蔵地に含まれているか検討した。その結果、造成地が包蔵地指定されていることが確認された。県の文化財保護課と町教育委員会は、開発事業者である群馬県企業局と協議を重ねた結果、工事に先駆けて事前調査(試掘調査)を実施することとなった。

試掘調査は、平成5年3月に行われ、造成地より土坑及び陥し穴・住居跡と思われる遺構が確認された。また、縄文時代や平安時代の遺物も検出したため、遺跡の取り扱いについて協議を重ねた。協議の結果、遺跡を破壊する恐れがあるため、記録保存を講じることになり、平成5年7月より発掘調査を実施した。長野原町教育委員会は白石光男を発掘調査担当とし、県教育委員会文化財保護課の指導のもと調査を行った。

2 遺跡の立地と周辺の遺跡

長野原町は、群馬県北西部吾妻郡内の西南に位置する。町北部は高間、白根の両山系からなり、吾妻川が西から東へ流れ河川流域を形成している。南部は浅間山により形成された裾野が広がり、浅間高原地帯となっている。今回発掘調査対象となった遺跡は、吾妻川流域地帯に立地する。

向原遺跡は吾妻川右岸の河岸段丘上に位置し、対岸には長野原町の町並みを臨み、標高は約640mを測る。この段丘は南西から北西にかけて緩やかに傾斜しており約65,000m²の平坦な地形である。平成2年から平成4年にかけて行った地質調査によると、この段丘は上位段丘に属し約21,000年前に流れてきた応桑泥流堆積物により形成され、その上に関東ローム層が重なり段丘面ができたとされている。同様の段丘面は、林地区の中棚の段丘・長野原駅北側の段丘及び与喜屋地区山村開発センターの段丘などがある。

ローム層中には、浅間火山の噴出物で草津黄色軽石層が1m前後堆積しており、今から約11,000年前の堆積物と想定されている。

長野原町における遺跡の状況については、昭和48年群馬県教育委員会刊行の『群馬県遺跡地図』があるが、詳細な遺跡の状況はなお不十分であった。

長野原町教育委員会は、県教育委員会文化財保護課の指導のもと昭和62年度より3ヵ年かけ、全町を対象とした遺跡詳細分布調査を実施し、199の遺跡包蔵地(指定史跡等を含む)を確認した。今回発掘調査の対象となった向原遺跡周辺にも、分布調査による包蔵地がある。

3 調査方法

向原遺跡の発掘調査は試掘調査から始まる。試掘調査は平成5年3月15日～31日にかけて実施した。

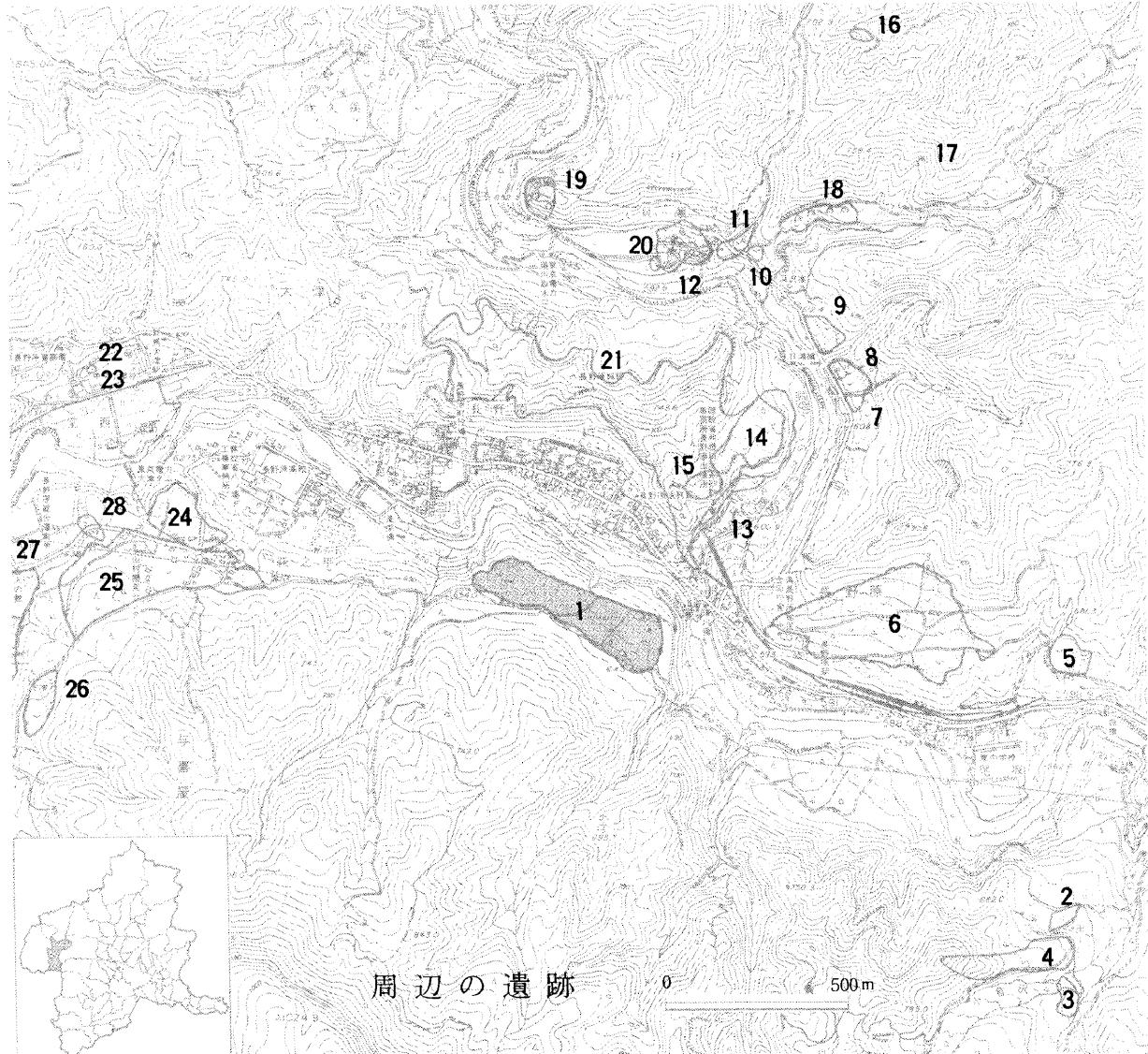
重機により筋堀り(トレンチ)を東西方向に4本、南北方向に39本入れ、遺構・遺物確認を行った。結果23本のトレンチから遺構・遺物が検出したため、調査対象地約14,200m²を発掘調査することとなった。

発掘調査は、遺構・遺物の試掘状況からA(900m²)・B(6,300m²)・C(2,200m²)・D(4,800m²)の4区域に

分け、表土剥ぎ作業を行う。その後ジョレン精査作業を行い遺構の確認に努めた。同時に公共座標を基にメッシュ坑を調査地内に打ち、グリット設定を行った。各グリット呼び方は、緯線A.B.C.……Nまで、経線を0.1.2.……20まで定め、その北西隅の交点をグリット名とした。また、水準点より高さを5箇所設け(BM1=640.00m、BM2=637.74m、BM3=640.40m、BM4=640.17m、BM5=647.00m)測量の基準とした。

各遺構は土層観察後、精査を行い図面に記録した。出土遺物は、確認時のものは確認一括及びグリット名で取り上げ、遺構に伴うものは、図面に記録し取り上げた。写真撮影は、遺跡全体及び各遺構ごとに撮り、最後に空中より撮影を行った。使用フィルムは白黒、リバーサルフィルムを用い記録した。

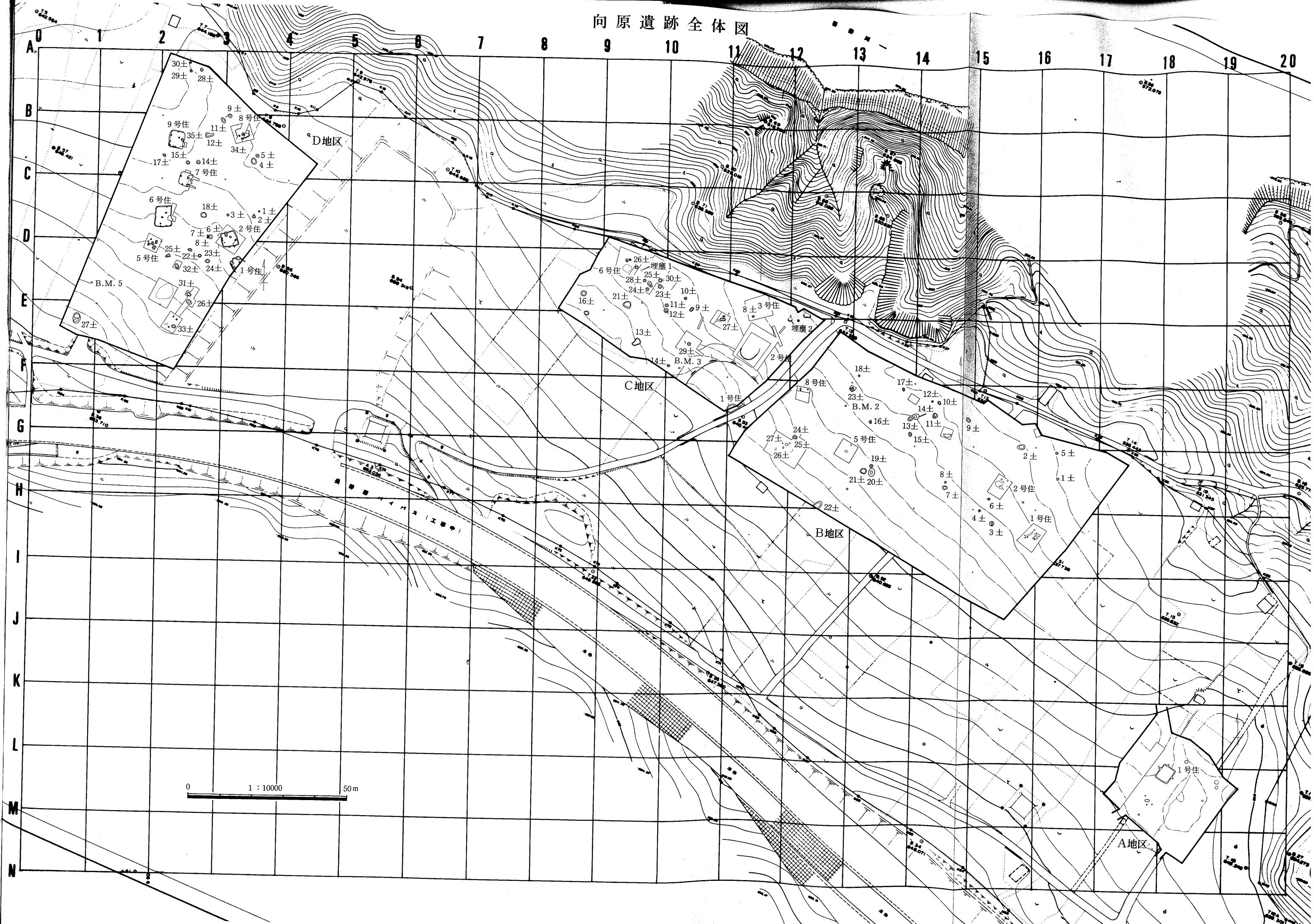
尚、遺跡名については、長野原町教育委員会刊行の『長野原町の遺跡』より使用した。



No.	遺跡名	種別	備考	包蔵地番号
1	向原遺跡	集落跡	縄文時代中・後期、平安時代	75
2	西久保Ⅱ遺跡	包蔵地	平安時代	32
3	西久保Ⅲ遺跡	包蔵地		33
4	柳沢城跡	城館跡		35
5	幸神遺跡	包蔵地	縄文中期、平安、江戸時代	62
6	一本松遺跡	包蔵地	縄文時代前・中・後期	63
7	東貝瀬Ⅰ遺跡	包蔵地	縄文時代中期	64
8	東貝瀬Ⅱ遺跡	包蔵地	縄文時代中期	65
9	東貝瀬Ⅲ遺跡	包蔵地	縄文時代中期	66
10	貝瀬Ⅰ遺跡	包蔵地	縄文時代前・中期、平安時代	67
11	貝瀬Ⅱ遺跡	包蔵地	縄文時代中期	68
12	貝瀬Ⅲ遺跡	包蔵地	縄文時代中・後期、平安時代	69
13	鳴木Ⅰ遺跡	包蔵地	平安時代	72
14	鳴木Ⅱ遺跡	包蔵地	縄文時代中期、平安時代	73

No.	遺跡名	種別	備考	包蔵地番号
15	鳴木Ⅲ遺跡	包蔵地	縄文時代中期	74
16	とち洞岩陰	岩陰		77
17	ガン沢岩陰	岩陰		79
18	居家以岩陰群	岩陰	縄文時代前期、弥生時代	80
19	油郎岩陰群	岩陰		81
20	貝瀬岩陰群	岩陰		82
21	長野原城跡	城館跡	室町時代	85
22	瓦塔	その他	平安時代	109
23	板碑	その他	室町時代	110
24	長畝Ⅰ遺跡	包蔵地	縄文時代中期	126
25	長畝Ⅱ遺跡	包蔵地	縄文時代中期	127
26	長畝Ⅲ遺跡	包蔵地	平安時代	128
27	萩原Ⅰ遺跡	包蔵地	平安時代	129
28	旧新井村跡	その他	江戸時代	143

向原遺跡全体図

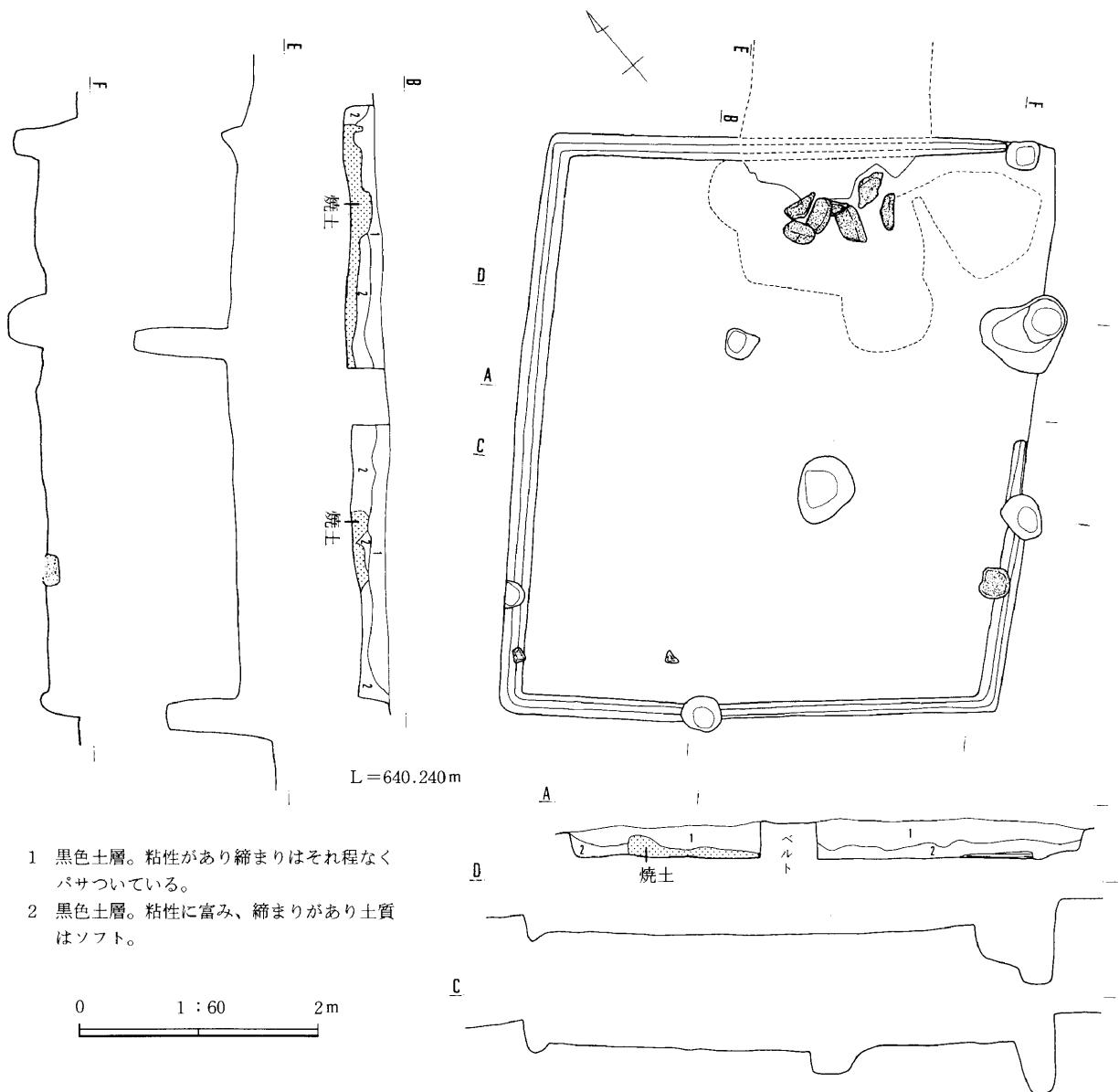


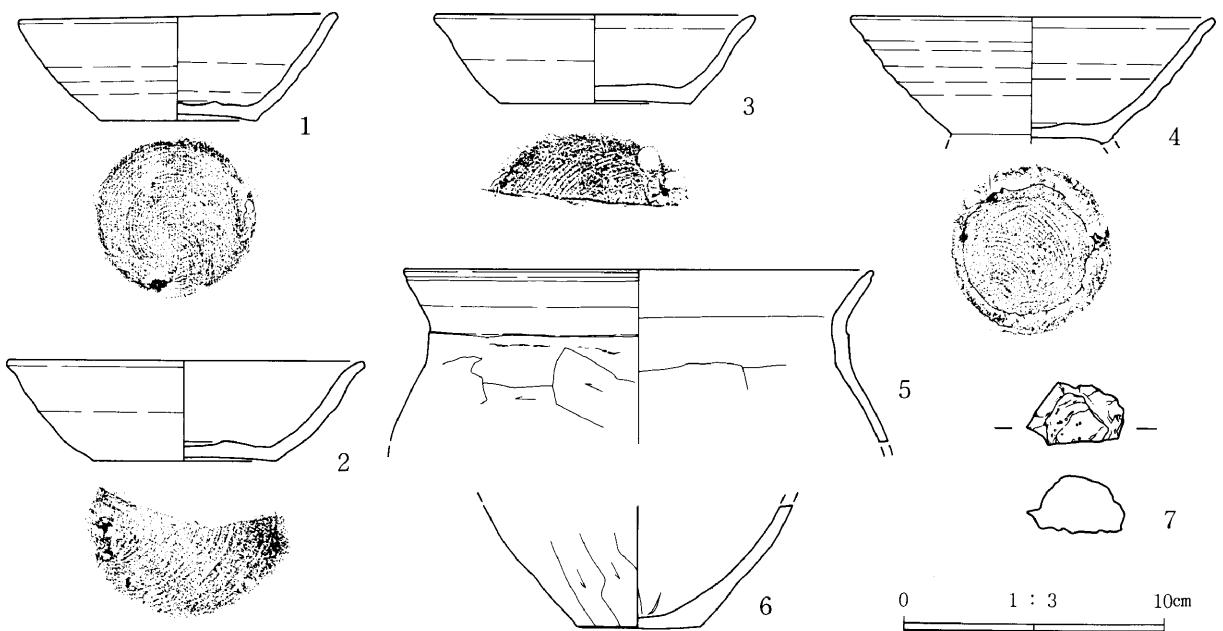
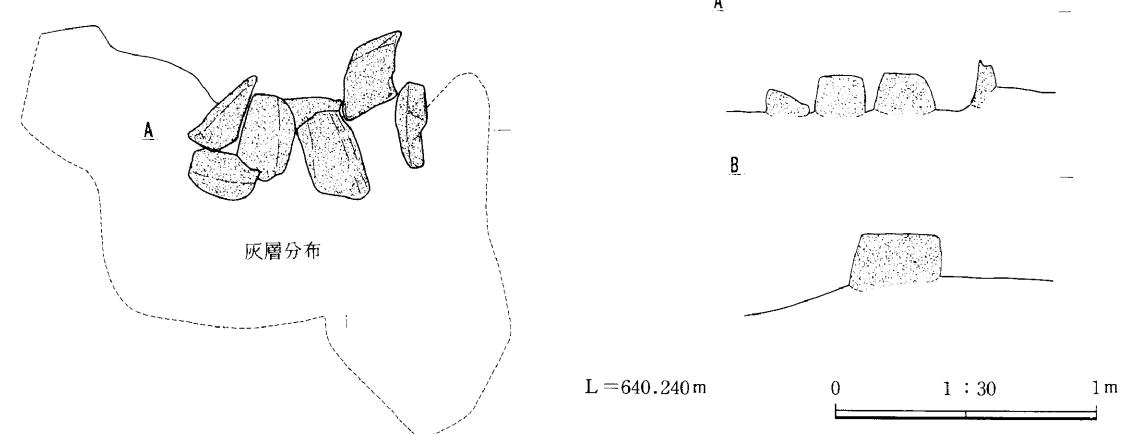
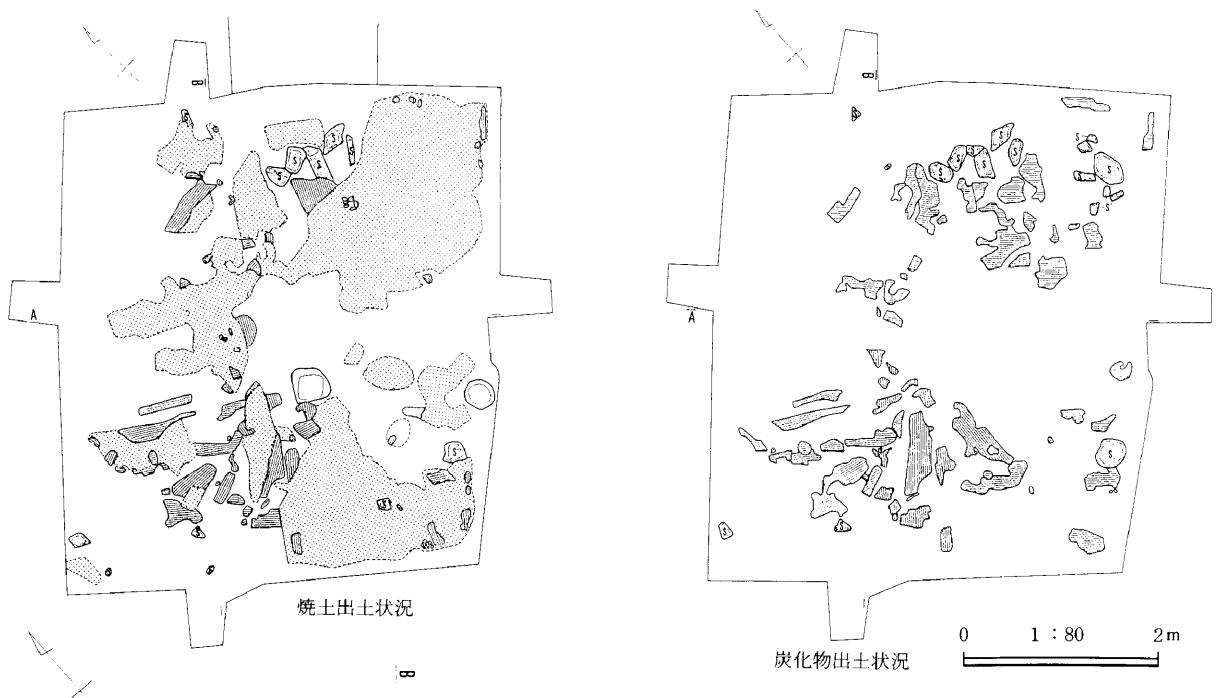
II 検出された遺構と遺物

1. 積穴住居

A区 1号住居址（観察表44、図版2・13）

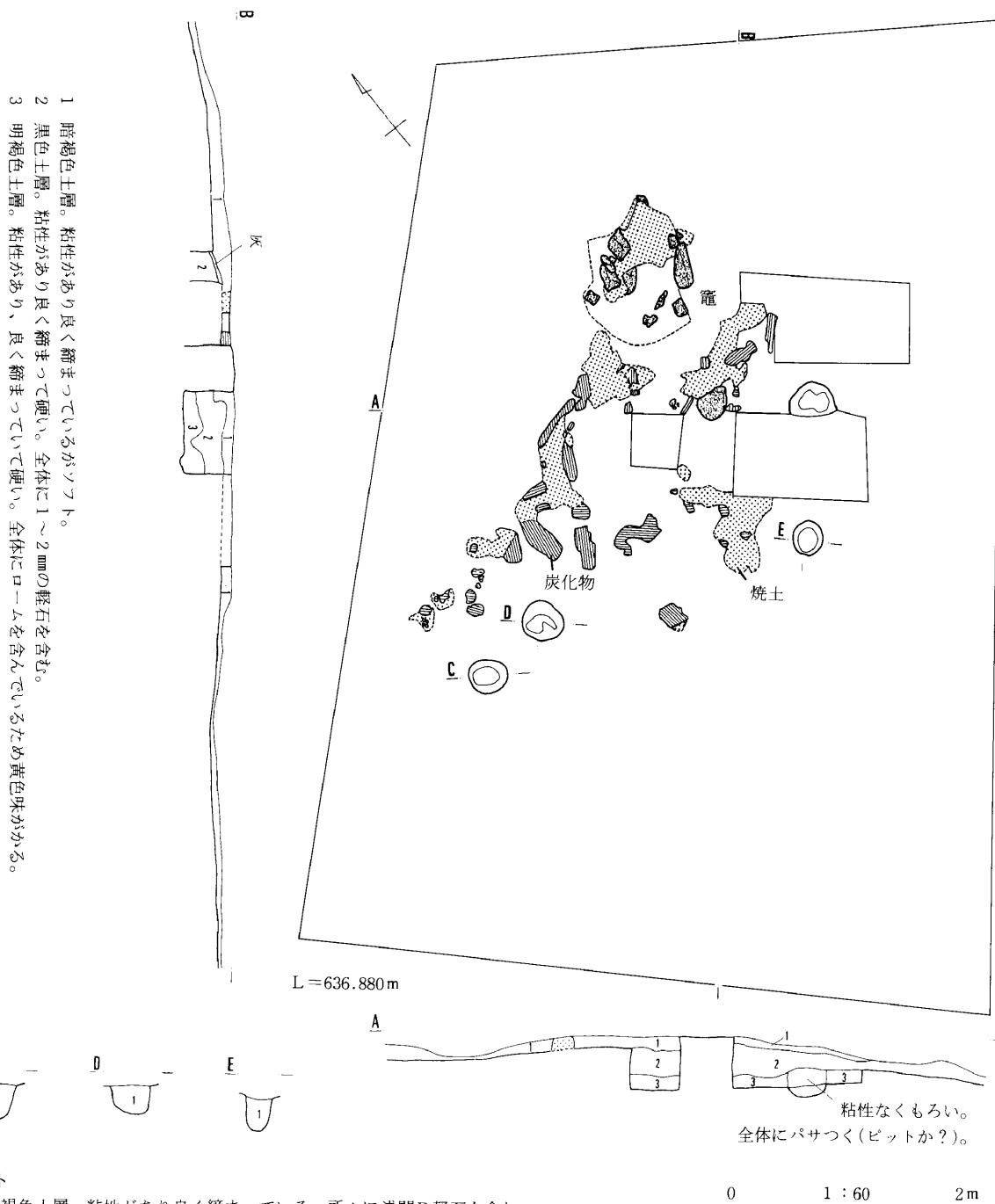
位置 K18, L17・18グリッド 形状 長方形 規模 長軸4.8m × 短軸4.4m。確認面までの壁高24cm。面積 20.6m² 方位 N-54°-E 覆土 黒色土を主体とした2層に大別できる。床面 全体にはほぼ平坦である。床面直上より多量の炭化材と焼土を検出するが、上屋構造を推定するには至らない。竈址 東壁の中央部に位置する。残存状態が悪く主体部は確認できないが、焚口部の両側に据えた補強用の石材が、その上に鳥居状に横架されていたと考えられる石材と共に出土。煙道は確認できない。柱穴 主柱穴は確認できない。貯蔵穴 確認できない。周溝 南壁の北半部を除いて存在。遺物 総数146点、土器142点、石2点、鉄2点。このうち須恵器壺・高台付椀、土師器甕が住居の年代を示す。備考 焼失家屋。平安時代前期、9世紀中葉。





B区1号住居址（観察表44、図版2・13）

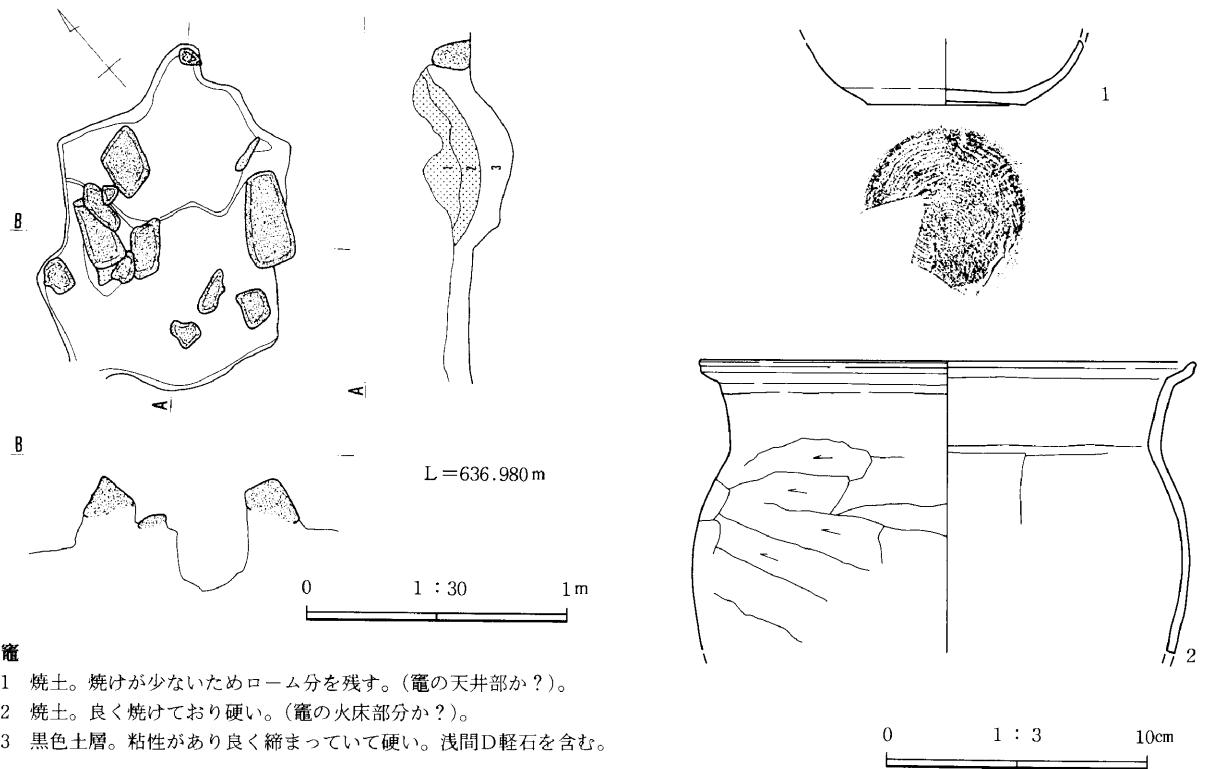
位置 H15・16グリッド **形状** 掘り込みが浅いため住居の外形が確定できず、形状、規模等は不明。覆土3層に大別できる。**床面** 焼土及び炭化物を検出した面以外に、床面と認定できる面はない。**竈址** 東壁に位置する。残存状態が比較的良好く、主体部の補強用に据えていた石材の一部が遺存していた。燃焼部の側壁に沿って石材を据え、おそらく焚口部は鳥居状に構築されていたものと考えられる。燃焼部は幅60cm、奥行き60cmで、煙道は幅20cmで壁外に伸びる。**柱穴** 主柱穴は確認できない。**貯蔵穴** なし。**周溝** 確認できない。**遺物** 土器87点。このうちの須恵器壺、土師器甕が住居の年代を示す。**備考** 平安時代前期、9世紀後半。



ピット

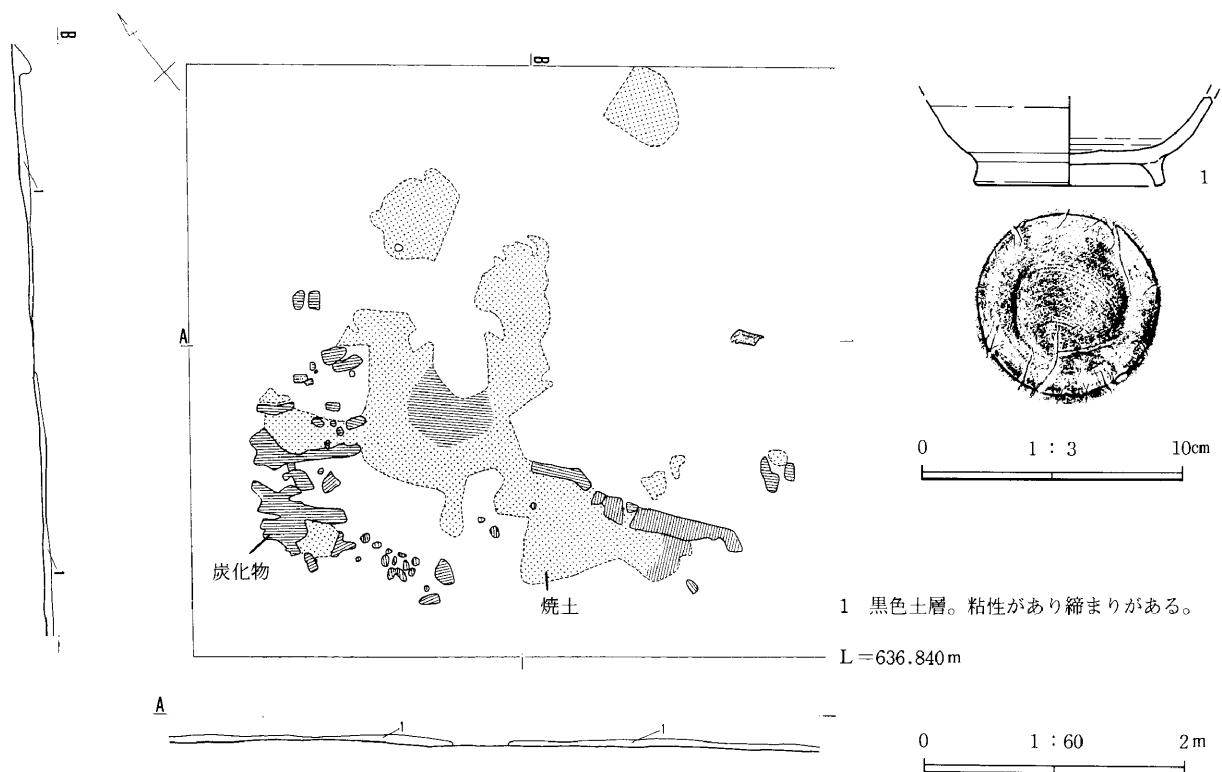
1 暗褐色土層。粘性があり良く締まっている。所々に浅間D軽石を含む。

0 1 : 60 2m



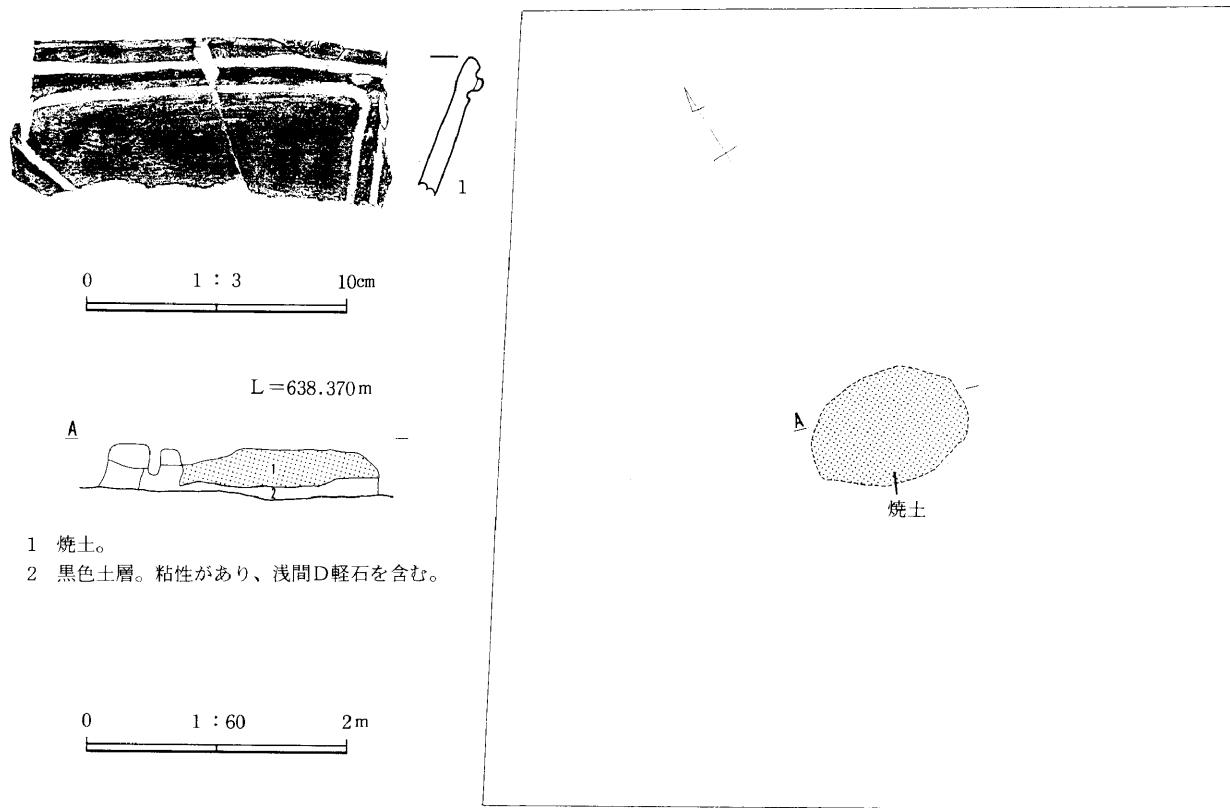
B区2号住居址（観察表44、図版2・13）

位置 G15グリッド 形状 焼土及び炭化物が面的に検出されたため住居と認定できるが、掘り込みが浅いため外形が確定できず、住居施設の一切が不明。 覆土 黒色土で埋没。 遺物 土器7点。このうちの須恵器高台付椀が住居の年代を示すと推定される。 備考 平安時代前期、9世紀前半。



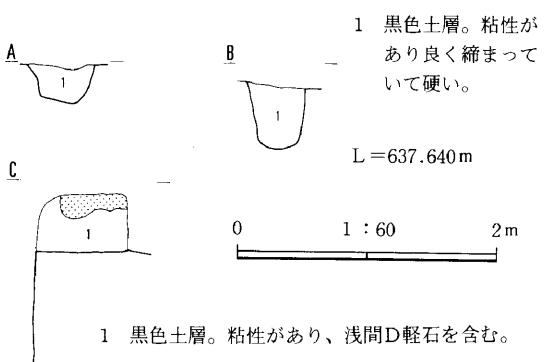
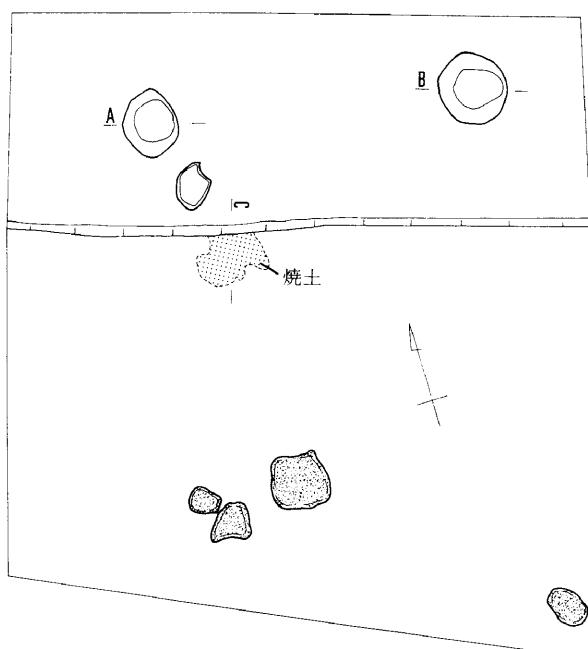
B区5号住居址 (観察表47、図版2)

位置 F12・13, G12・13グリッド **形状** 短軸80cm、長軸1.2mの楕円形に焼土が検出されたため住居と推定されるが、掘り込みが浅いため外形が確定できず、住居施設の一切が不明。 **床面** 床面と認定できる面はない。 **遺物** 土器6点。このうちの縄文土器深鉢が住居の年代を示すと推定される。 **備考** 縄文時代後期、堀之内1式。



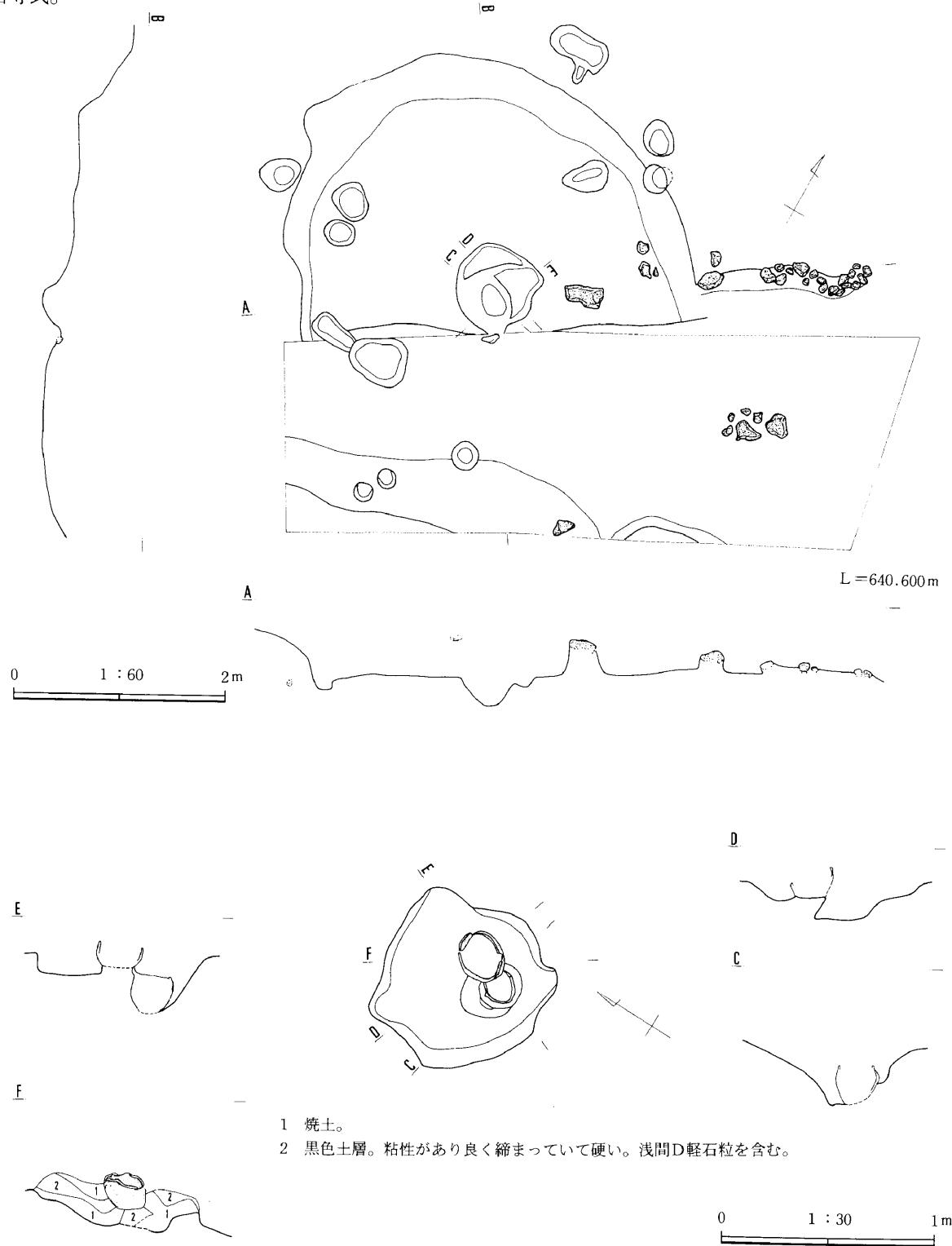
B区8号住居址 (図版2)

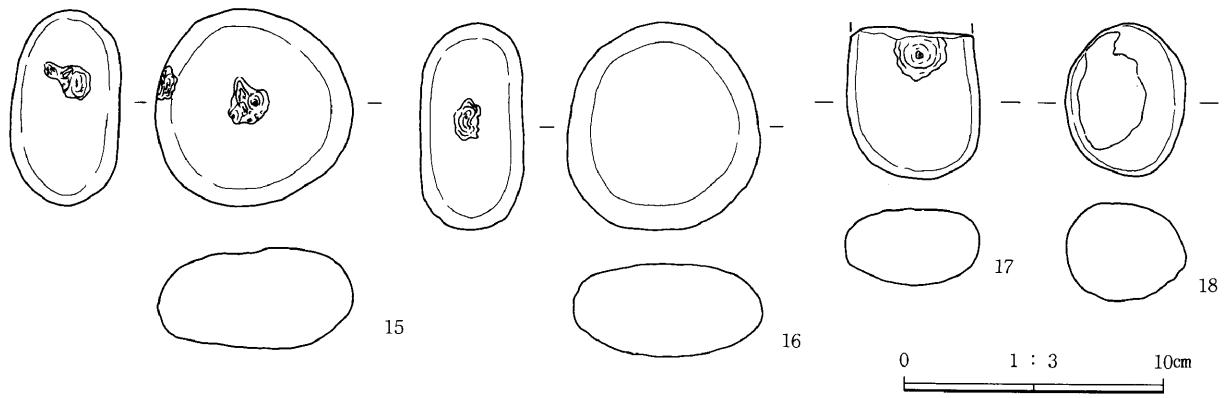
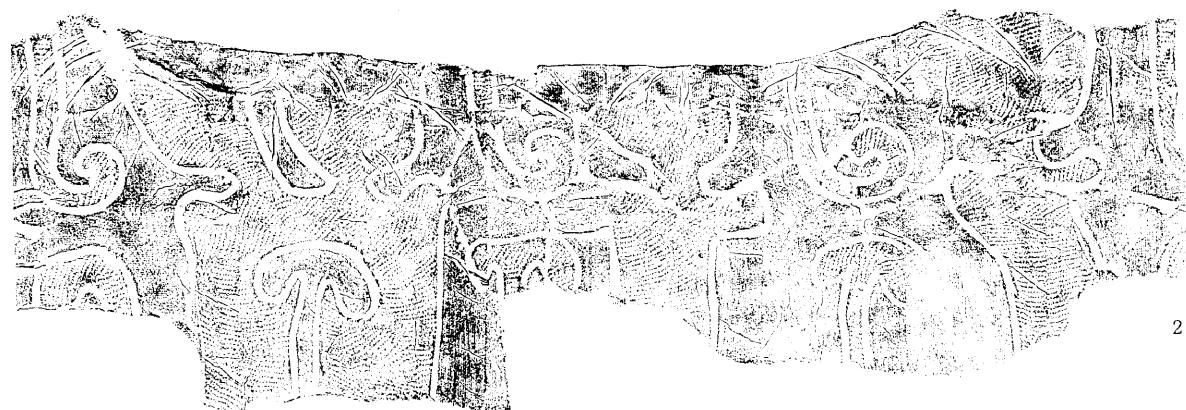
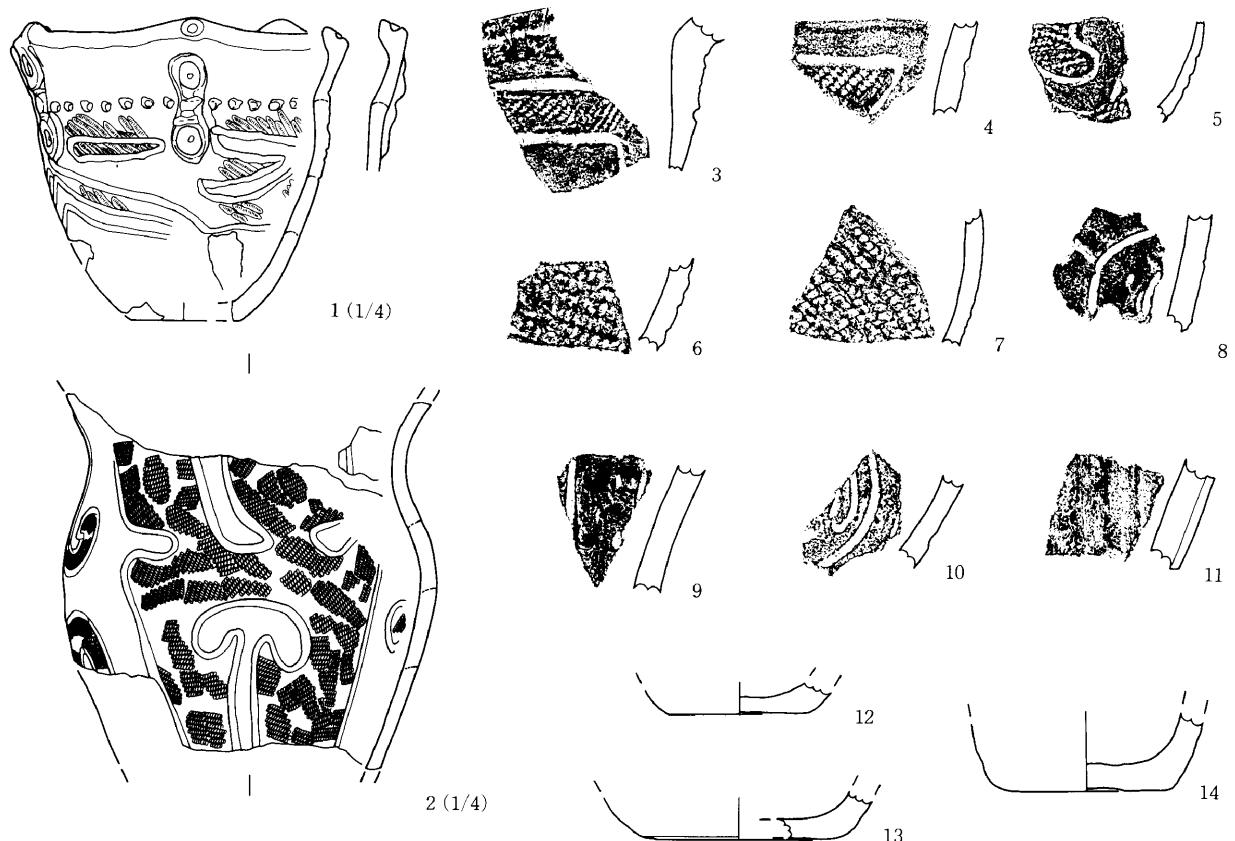
位置 F12グリッド **形状** 住居の外形が確定できず住居施設の一切が不明で、出土遺物もない。 **覆土** 黒色土を主体とした土で埋没。 **床面** 床面と認定できる面はない。 **備考** 年代は不明。ピット3個を検出。



C区1号住居址（観察表47、図版3・13）

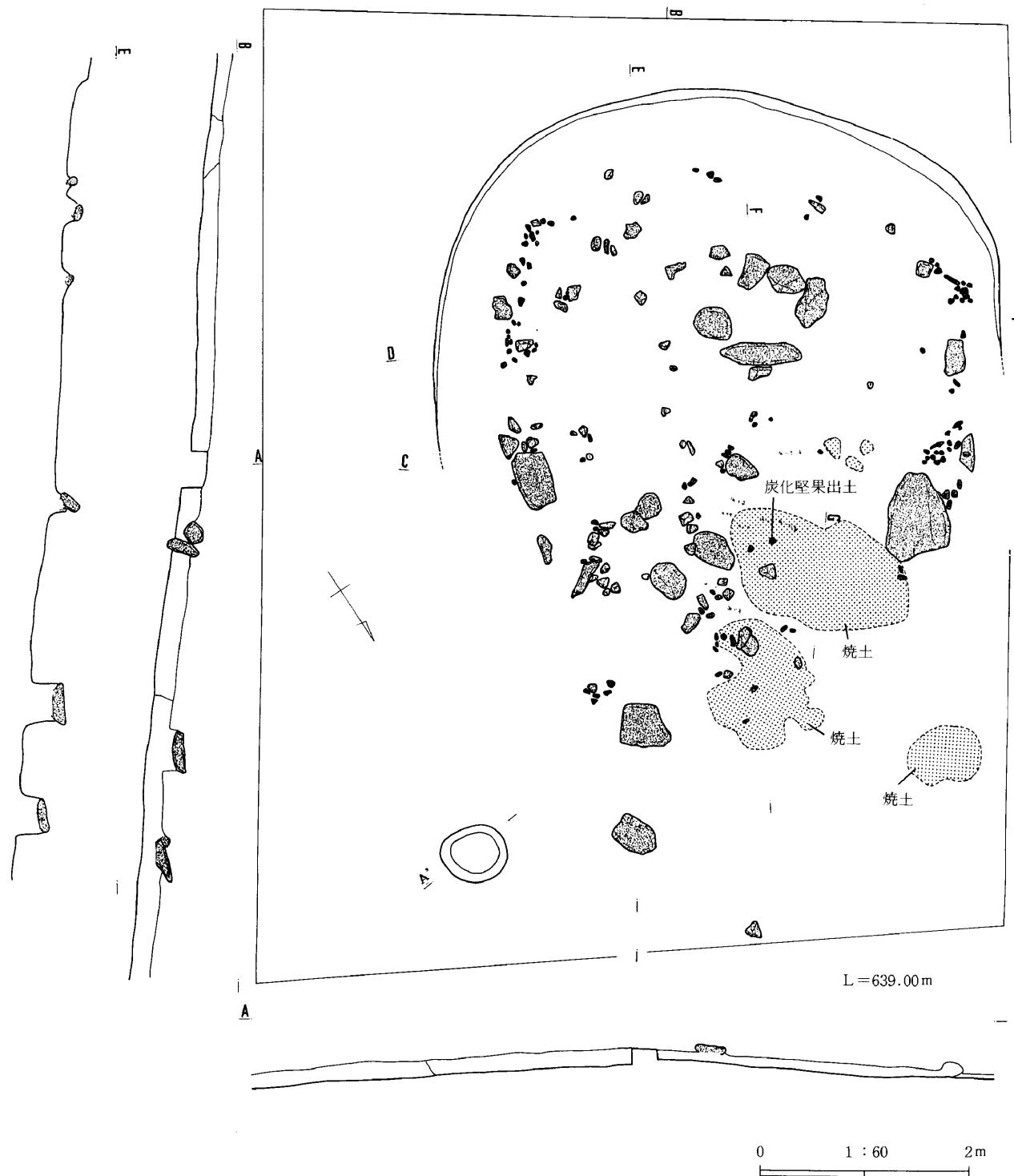
位置 F10・11グリッド 形状 円形と推定される。 規模 直径約3.5m 面積 住居の南半に攪乱を受けるため、確定できない。 方位 不明。 覆土 不明。 床面 確認した面は平坦。 炉址 住居の中央部に埋甕を伴って確認。 柱穴 不明。 周溝 なし。 遺物 総数150点、土器107点、石38点、黒曜石4点。このうちの縄文土器深鉢が住居の年代を示すと推定される。 備考 縄文時代後期、（敷石住居？）称名寺式。

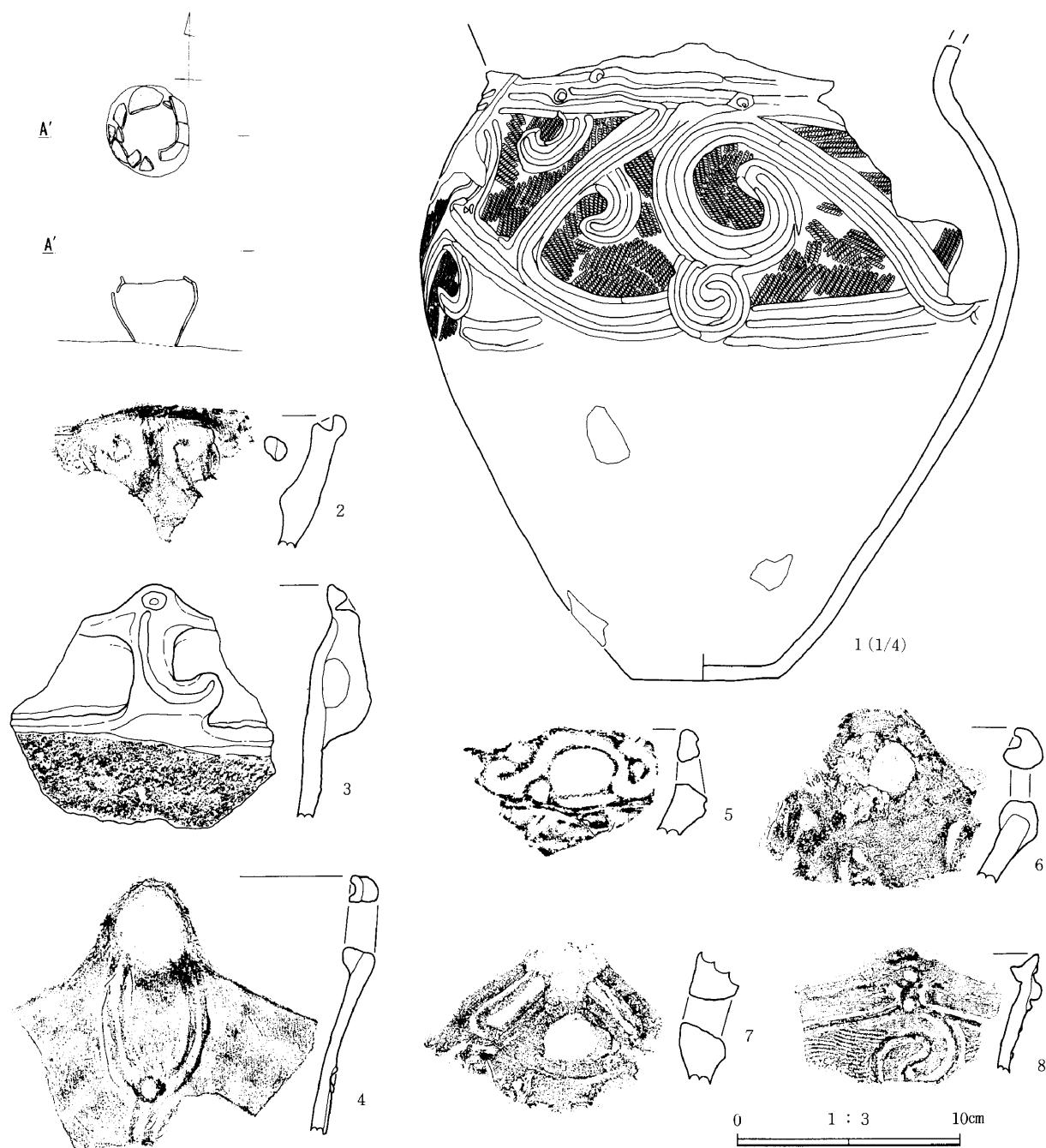
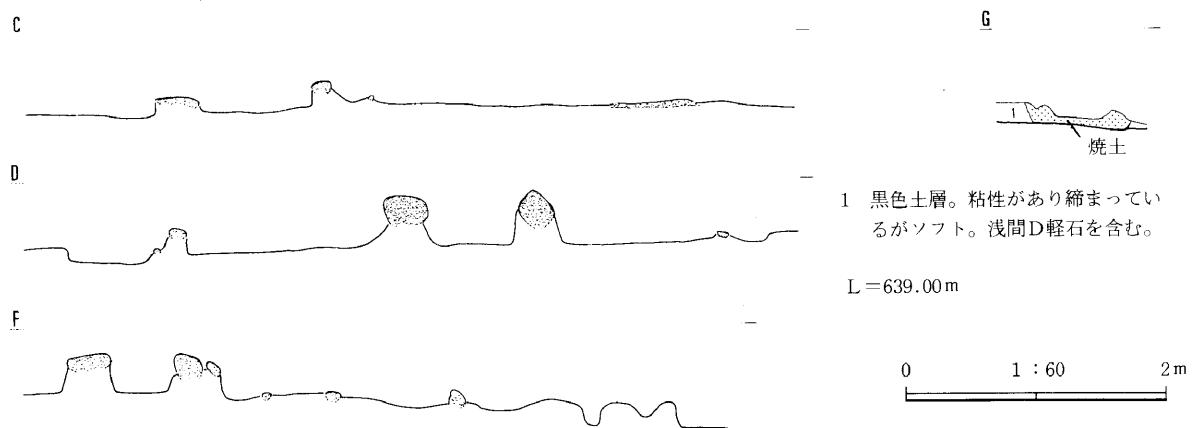




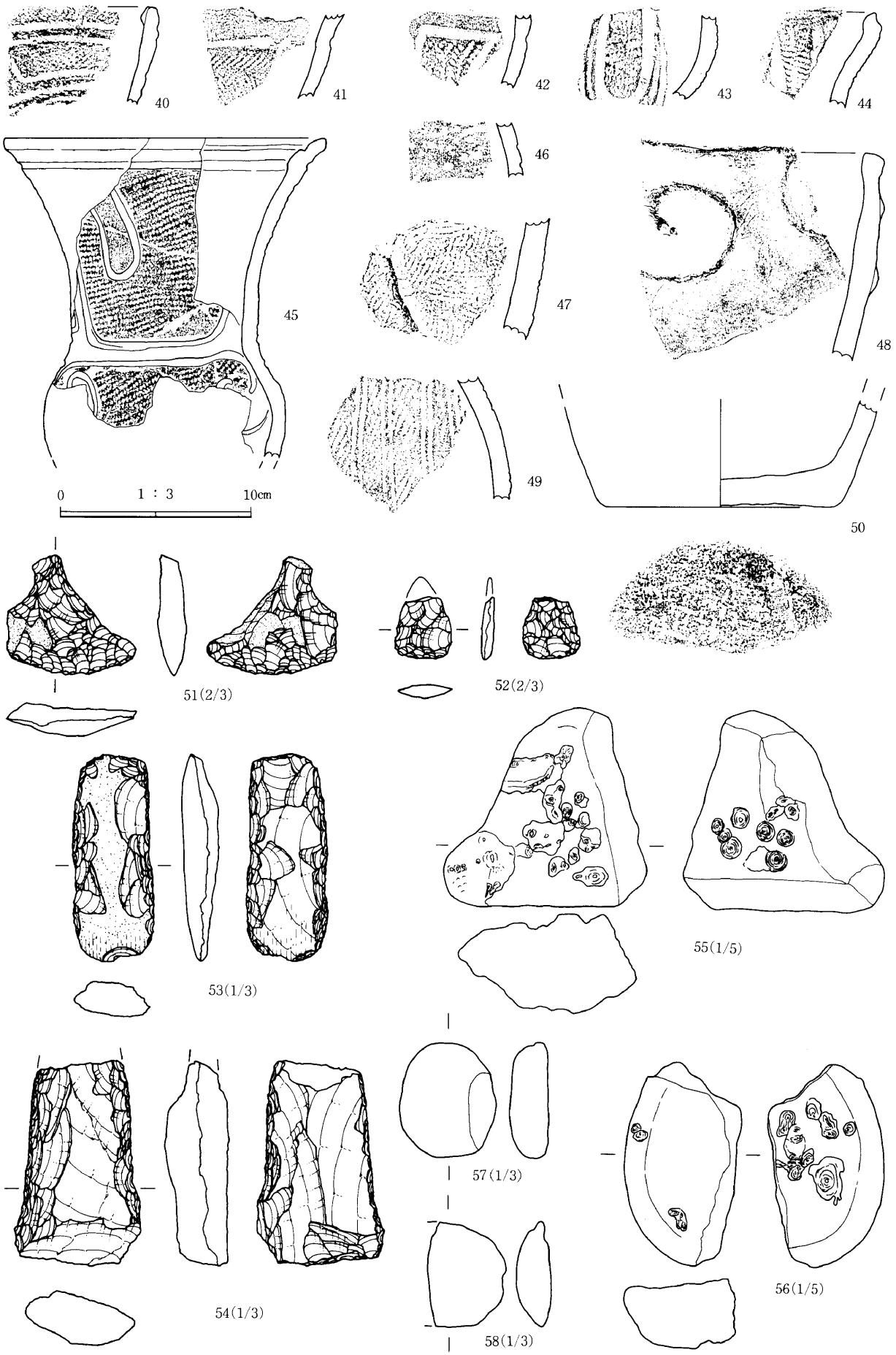
C区2号住居址（観察表48、図版2・14）

位置 E11グリッド 形状 柄鏡形の敷石住居と推定される。 規模 本体部直径約5.5m。 面積 確定できない。 方位 確定できない。 覆土 浅間D軽石を含む黒色土で埋没。 床面 構築面平坦で、石敷面は確認できない。 炉址 住居中央西側の石組が炉と推定される。 柱穴 不明。 周溝 なし。 遺物 総数2,373点、土器2,230点、黒曜石11点、浮子2点、石皿23点。このうちの縄文土器片が住居の年代を示すと推定される。 備考 縄文時代後期、堀之内1式。





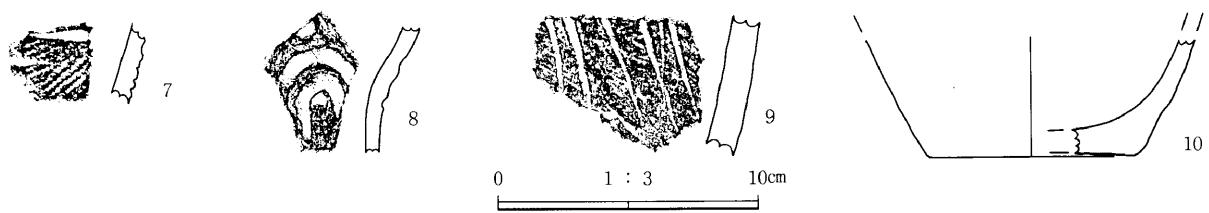




C区3号住居址（観察表50、図版2・17）

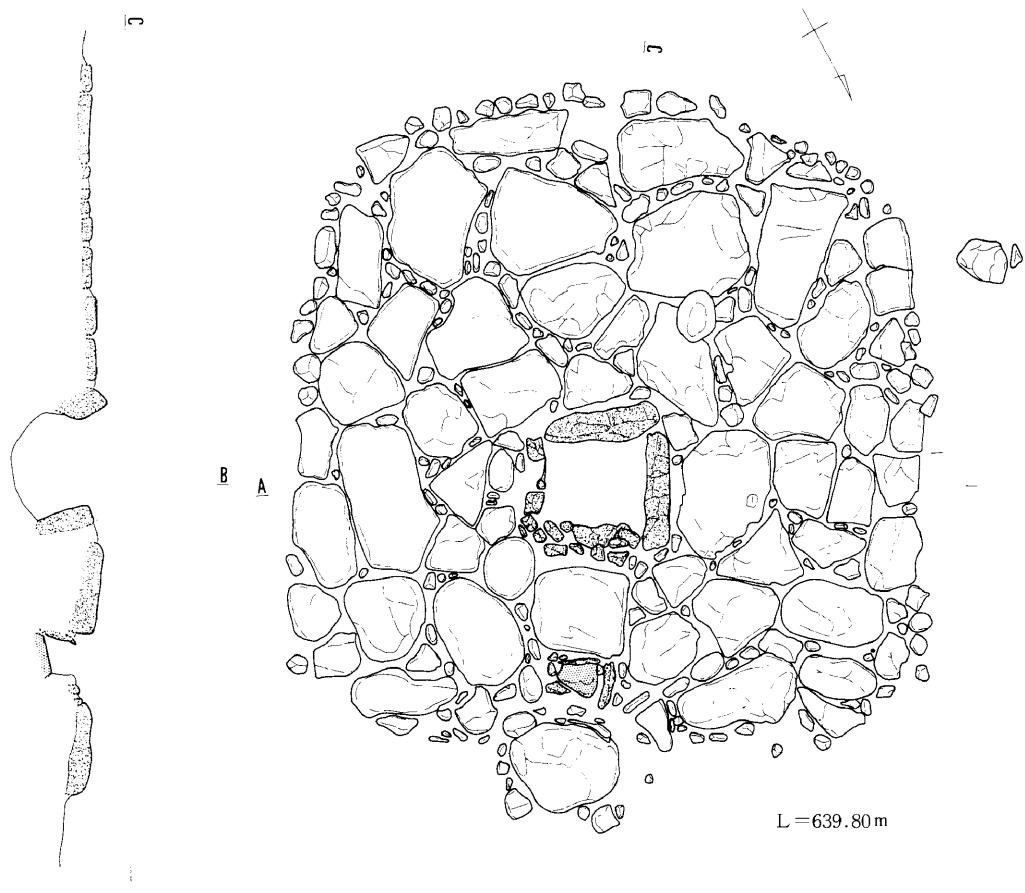
位置 D11, E11グリッド 形状 ほぼ同レベル面から石が検出されたことから住居と推定されるが、掘り込みが浅いため外形が確定できず、住居施設の一切が不明。 床面 床面と認定できる面はない。 遺物 土器67点。このうちの縄文土器片が住居の年代を示すと推定される。 備考 縄文時代後期、堀之内1式。



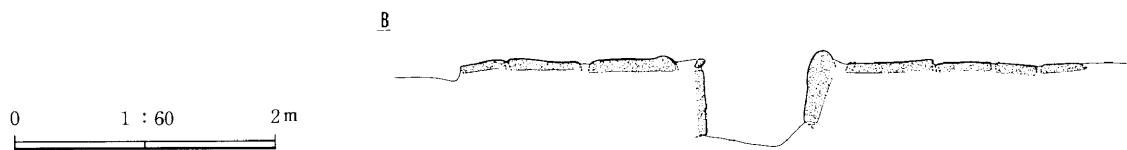


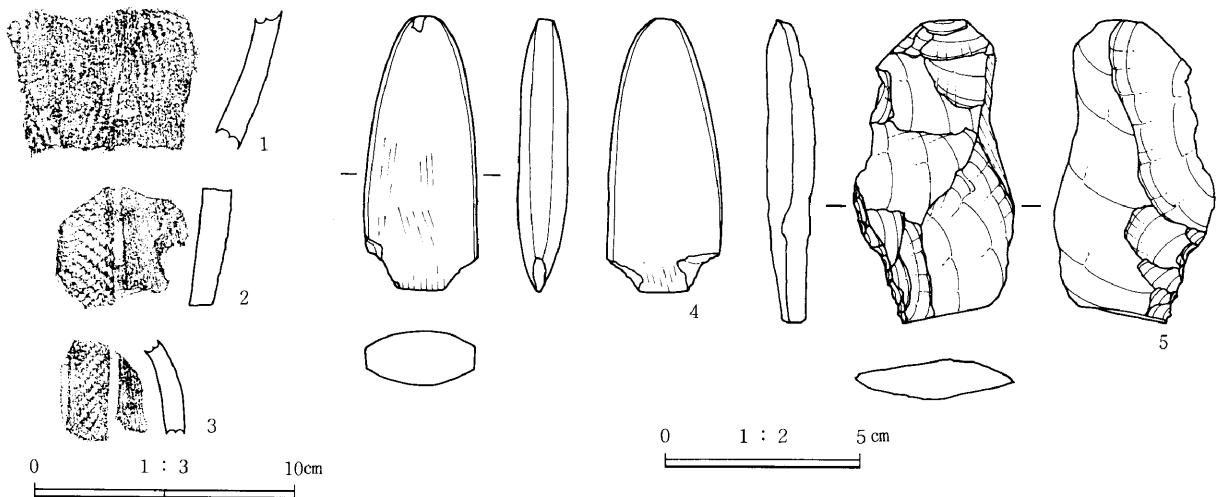
C区6号住居址 (観察表50、図版2・17)

位置 D9グリッド 形状 正方形の敷石住居 規模 長軸5.0m×短軸4.7m 面積 23.5m 方位 N-3
 1°-E 覆土 不明。 床面 全面に石敷きを施す。石敷きは住居中央部のものが大きく、縁辺部は比較的小さい。外縁には小礫を配置し、特に南壁には顕著。 炉址 住居中央やや北側に一辺1mの正方形石組炉を確認。西辺と南辺に長さ約1mの大きな石を据え、東辺と北辺には礫を配置。 柱穴 石敷床の面では確認できない。 貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 遺物 総数16点、土器13点、石3点。 備考 繩文時代中～後期。



- 1 黒色土層。粘性があり締まっている。
- 2 黒色土層。粘性はそれ程なく、全体に焼土を含み、締まりはあまりなくパサついている。





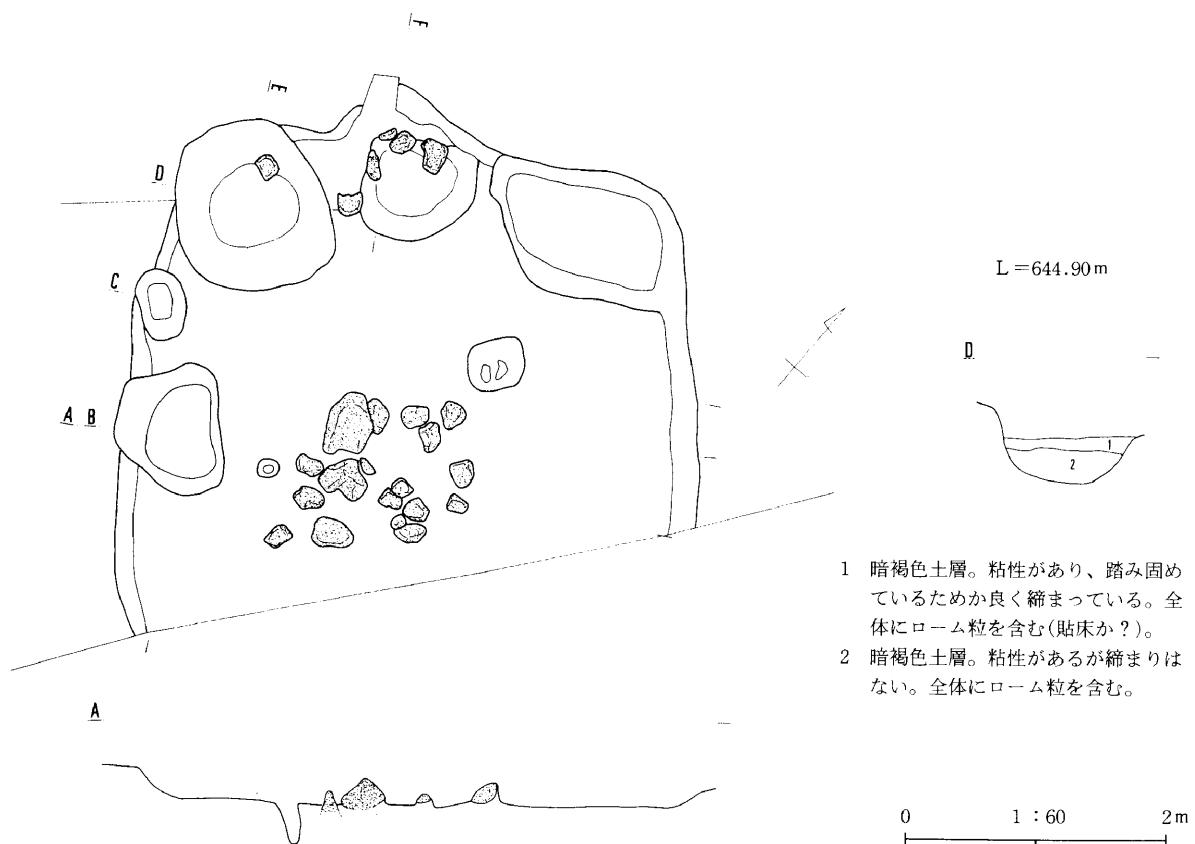
D区 1号住居址 (観察表44、図版3・17)

位置 D3グリッド **形状** 南側が調査区域外のため不明。 **規模** 東西軸4.4m。確認面までの壁高20cm。

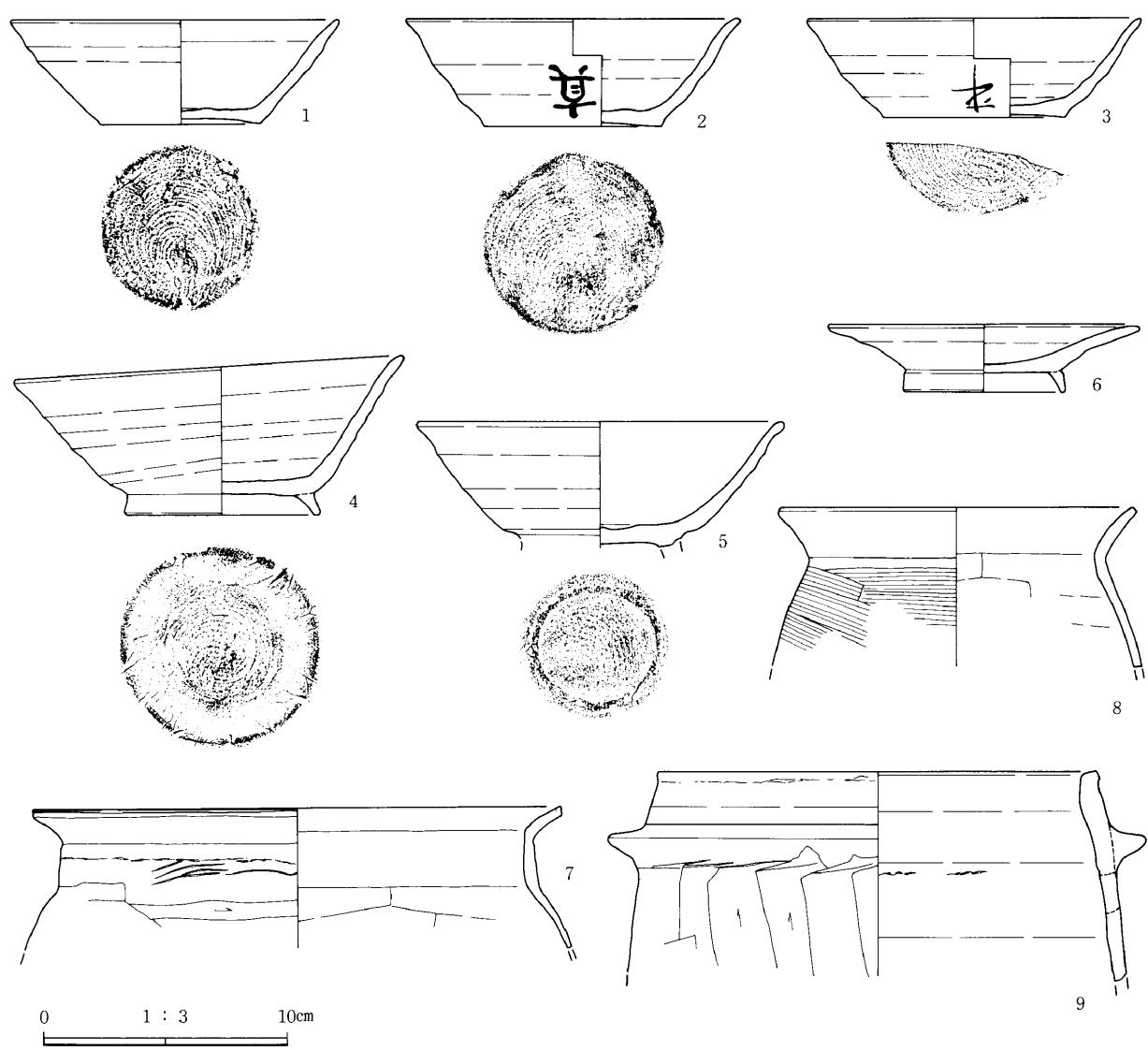
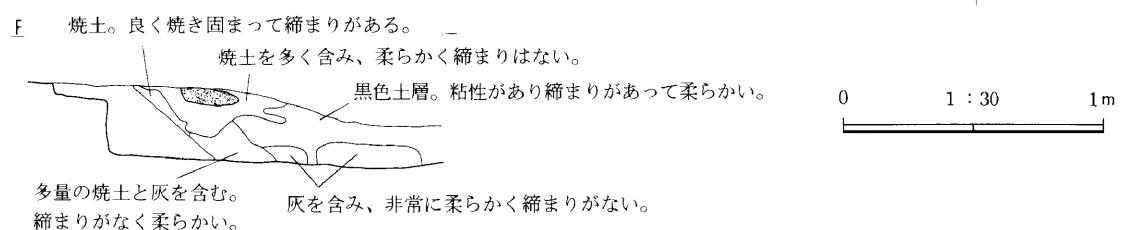
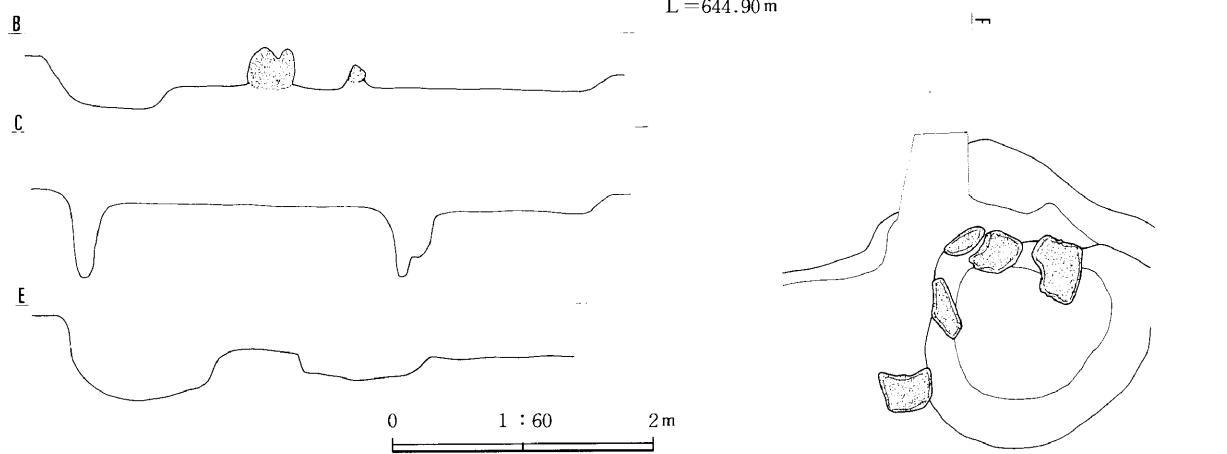
面積 確定できない。 **方位** N-36°-W **覆土** 黒色土を主体とした土で埋没。 **床面** 住居の北西隅と北東隅のピットの部分を除いては、ほぼ平坦。 **竈址** 北壁の中央よりやや西側に位置する。残存状態が悪く、補強用に据えられていた石材は原位置を保っていない。意図的に破壊された可能性がある。火床の構築面の状況から、燃焼部は壁内に造り付けていたと考えられ、煙道は僅かに壁を掘り込むにすぎない。

柱穴 主柱穴は確認できない。 **貯蔵穴** 住居の北西隅と北東隅のピットは貯蔵穴とするには浅い。 **周溝**

なし。 **遺物** 総数82点、土器80点、石2点。このうちの須恵器壺・高台付碗・皿、羽釜、土師器甕が住居の年代を示す。 **備考** 平安時代前期、9世紀後半。



- 1 暗褐色土層。粘性があり、踏み固めているためか良く締まっている。全体にローム粒を含む(貼床か?)。
- 2 暗褐色土層。粘性があるが締まりはない。全体にローム粒を含む。

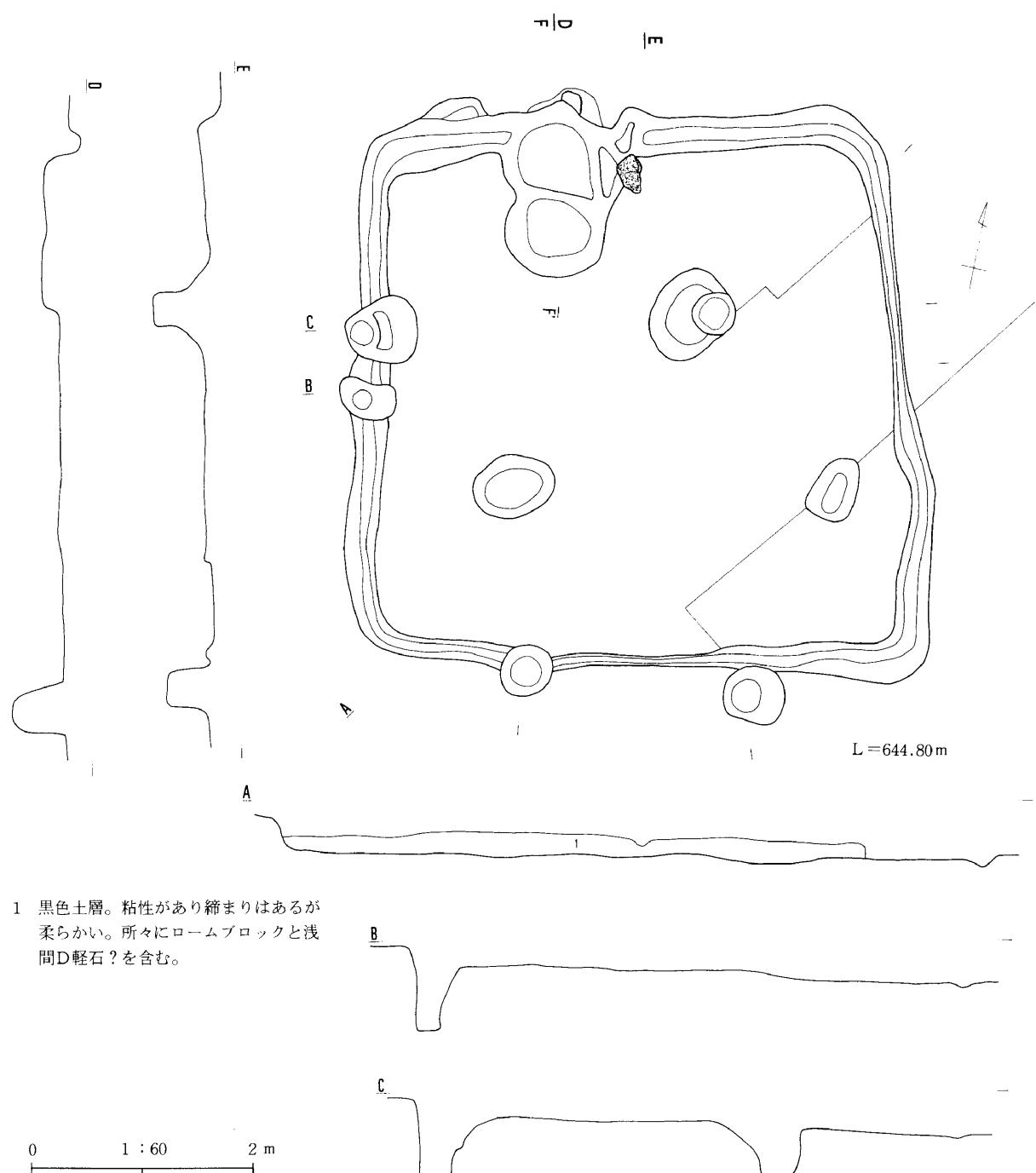


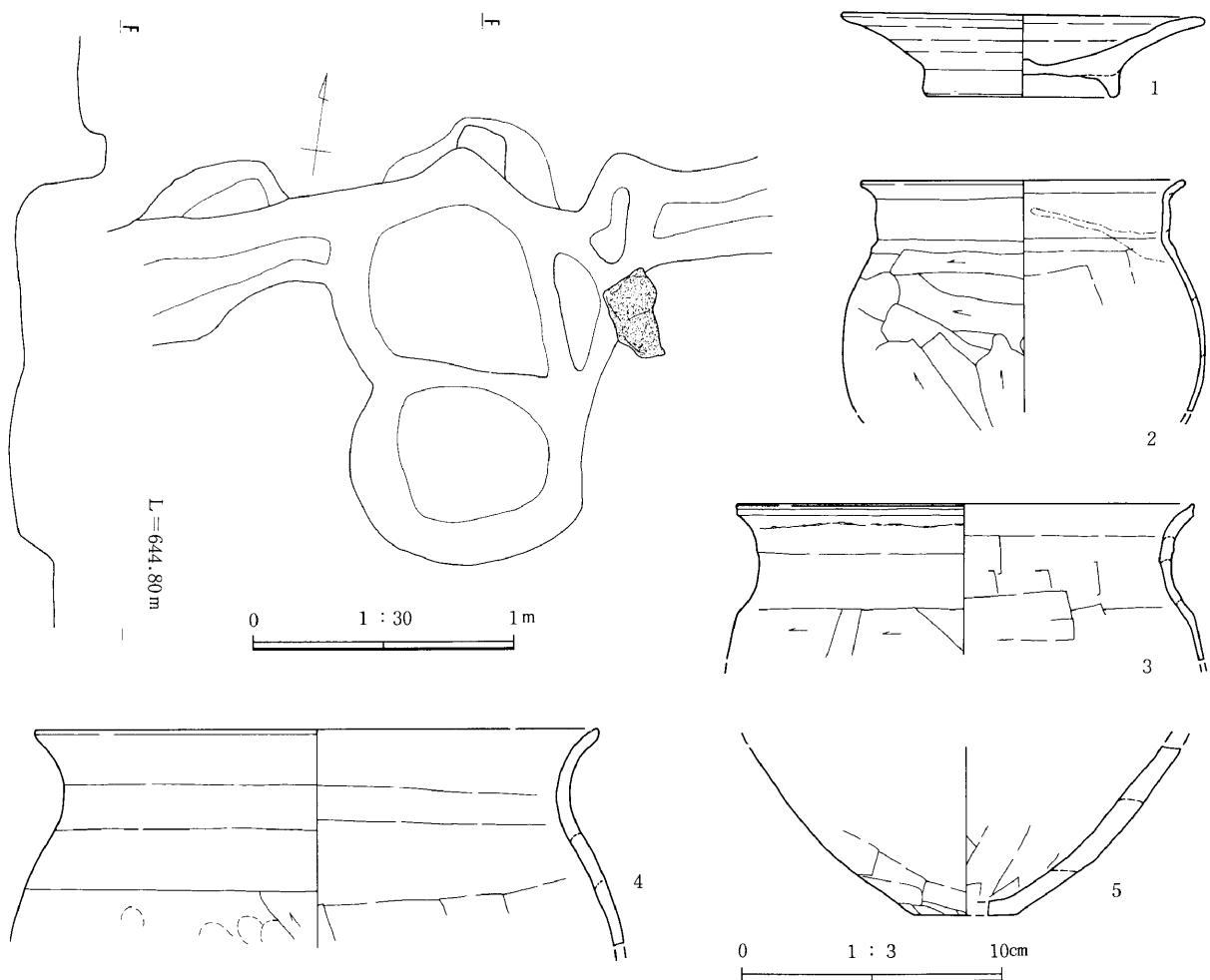
D区2号住居址（観察表45、図版4・18）

位置 C2・3, D2・3 グリッド 形状 正方形 規模 長軸5.4m×短軸5.2m。確認面までの壁高10cm。

面積 25.0m² 方位 N-170°-E 覆土 浅間D軽石と思われる軽石を含む黒色土で埋没。床面 全体にはほぼ平坦。住居南半部の段差は攪乱。竈址 北壁の中央より西側に位置する。主体部は確認できないが、燃焼部の側壁に沿って据えた石材の一部を確認。袖部は確認できないが火床の構築面の状況から、燃焼部は幅80cm、奥行き70cmほどで、煙道は僅かに壁を掘り込むにすぎない。柱穴 主柱穴は確認できない。

貯蔵穴 確認できない。周溝 竈の部分を除いて全周。遺物 総数140点、土器132点、石8点。このうち須恵器皿、土師器甕が住居の年代を示す。備考 平安時代前期、9世紀中葉。

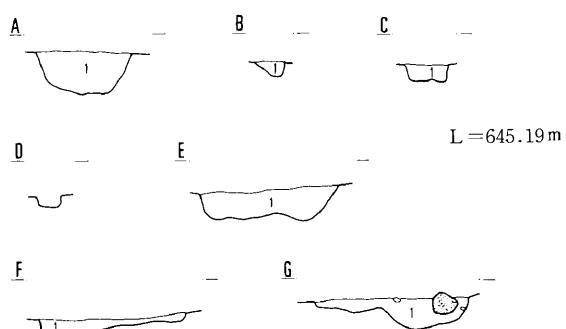




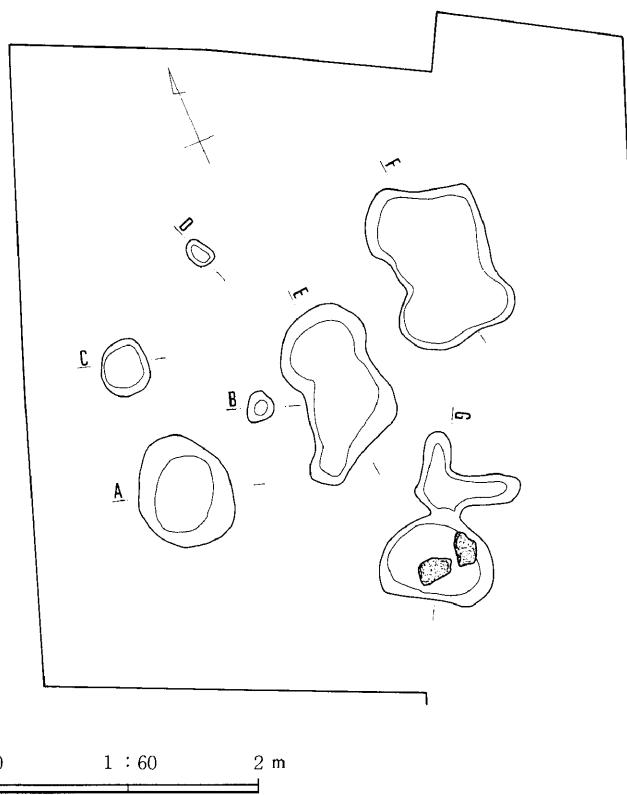
D区5号住居址（観察表45、図版4・18）

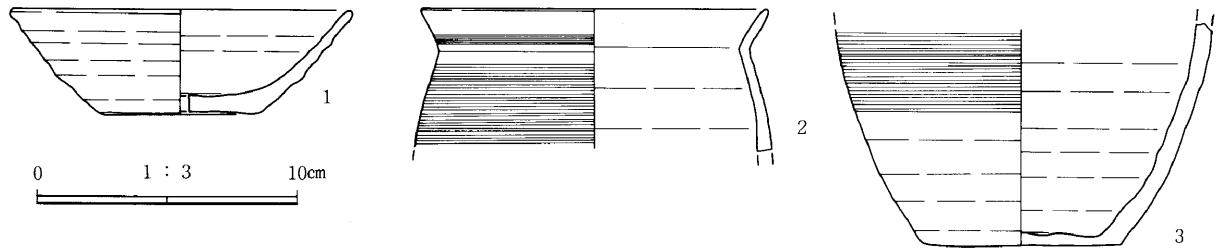
位置 C1・2, D1 グリッド 形状 掘り込みが浅いため外形が確定できず、住居施設の一切が不明。

床面 床面と認定できる面はない。 遺物 総数116点、土器114点、石2点。このうち須恵器壺・甕、土師器甕が住居の年代を示す。 備考 平安時代前期、9世紀後半。



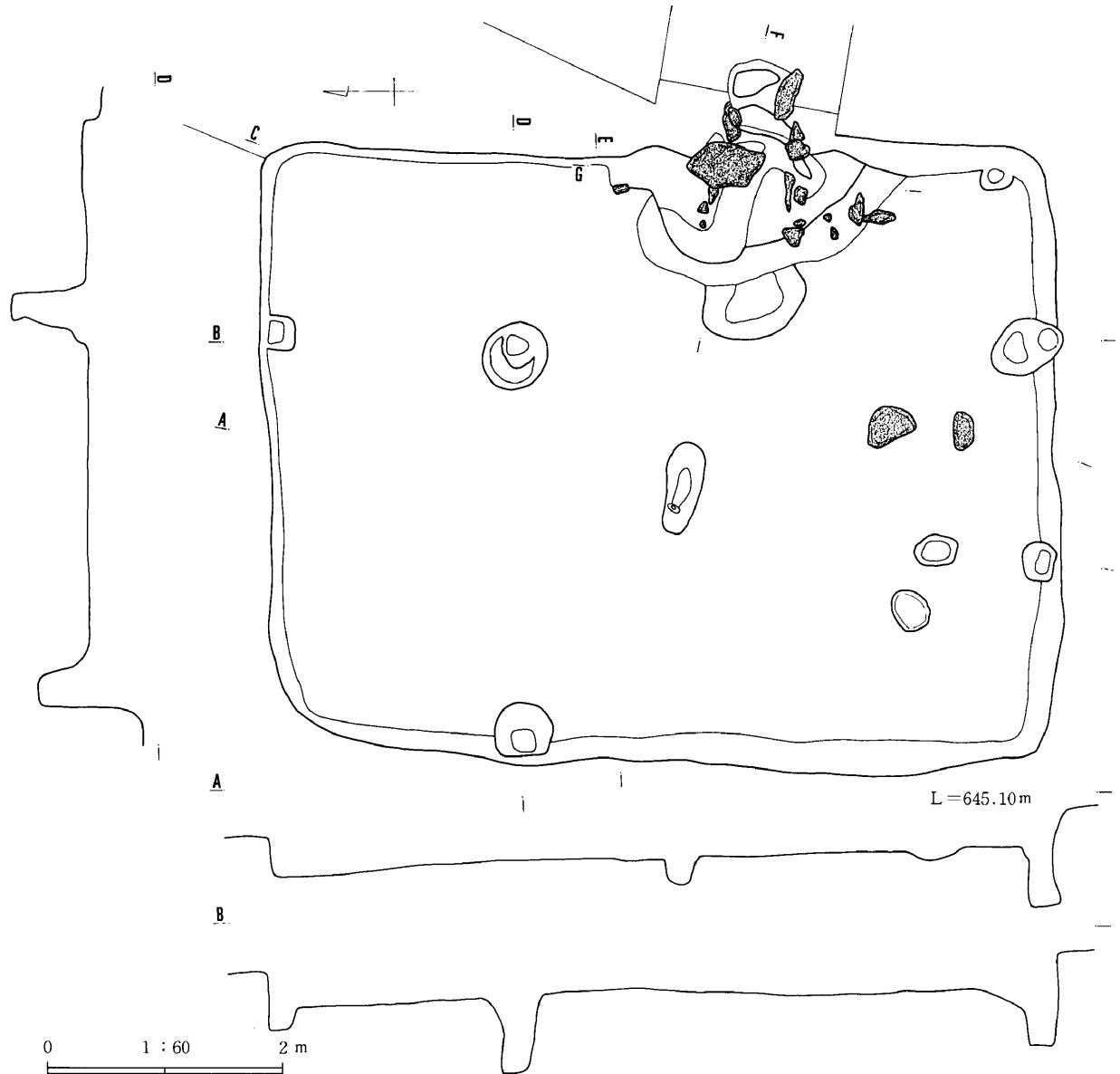
1 褐色土層。粘性があり軽石粒を含むため黄色味がかっている。縮まりはあまりない。



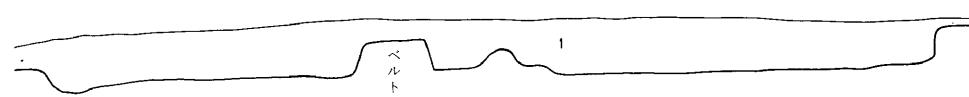


D区6号住居址（観察表45、図版4・18）

位置 C1・2 グリッド 形状 長方形 規模 長軸6.8m×短軸5.4m。確認面までの壁高35cm。面積 34.0m² 方位 N-90°-E 覆土 浅間D軽石と思われる軽石を含む黒色土で埋没。床面 全体にはほぼ平坦。竈址 東壁の中央よりやや南側に位置する。燃焼部と煙道部の側壁に沿って据えた補強用の石材を確認。おそらく、天井部にも石材を横架していたと考えられる。燃焼部は幅60cm、奥行き80cmで、煙道は幅40cmで壁外70cmまで伸びる。柱穴 主柱穴は確認できない。貯蔵穴 確認できない。周溝 なし。遺物 総数547点、土器540点、石7点。このうち須恵器壺・高台付椀・甕、土師器甕が住居の年代を示す。備考 平安時代前期、9世紀中葉。

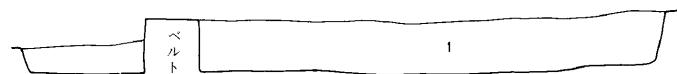


L

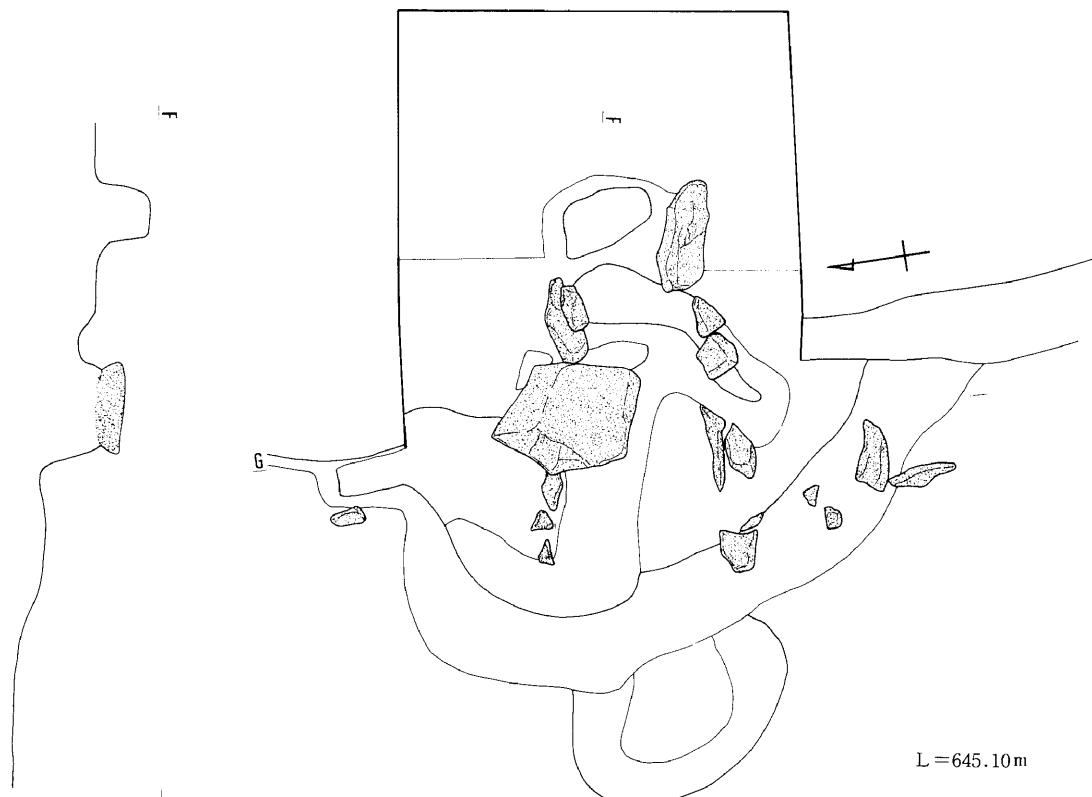


1 黒色土層。粘性があり締まりがあるが柔らかい。
浅間D軽石 ?をまばらに含む。

E

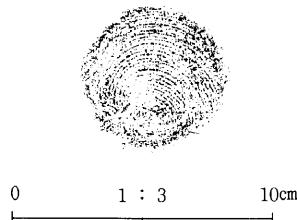
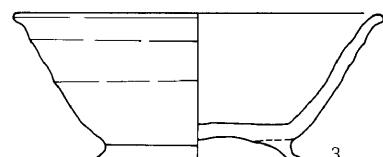
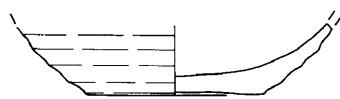
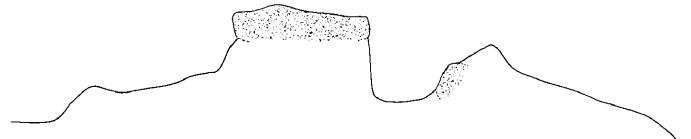


0 1 : 60 2 m

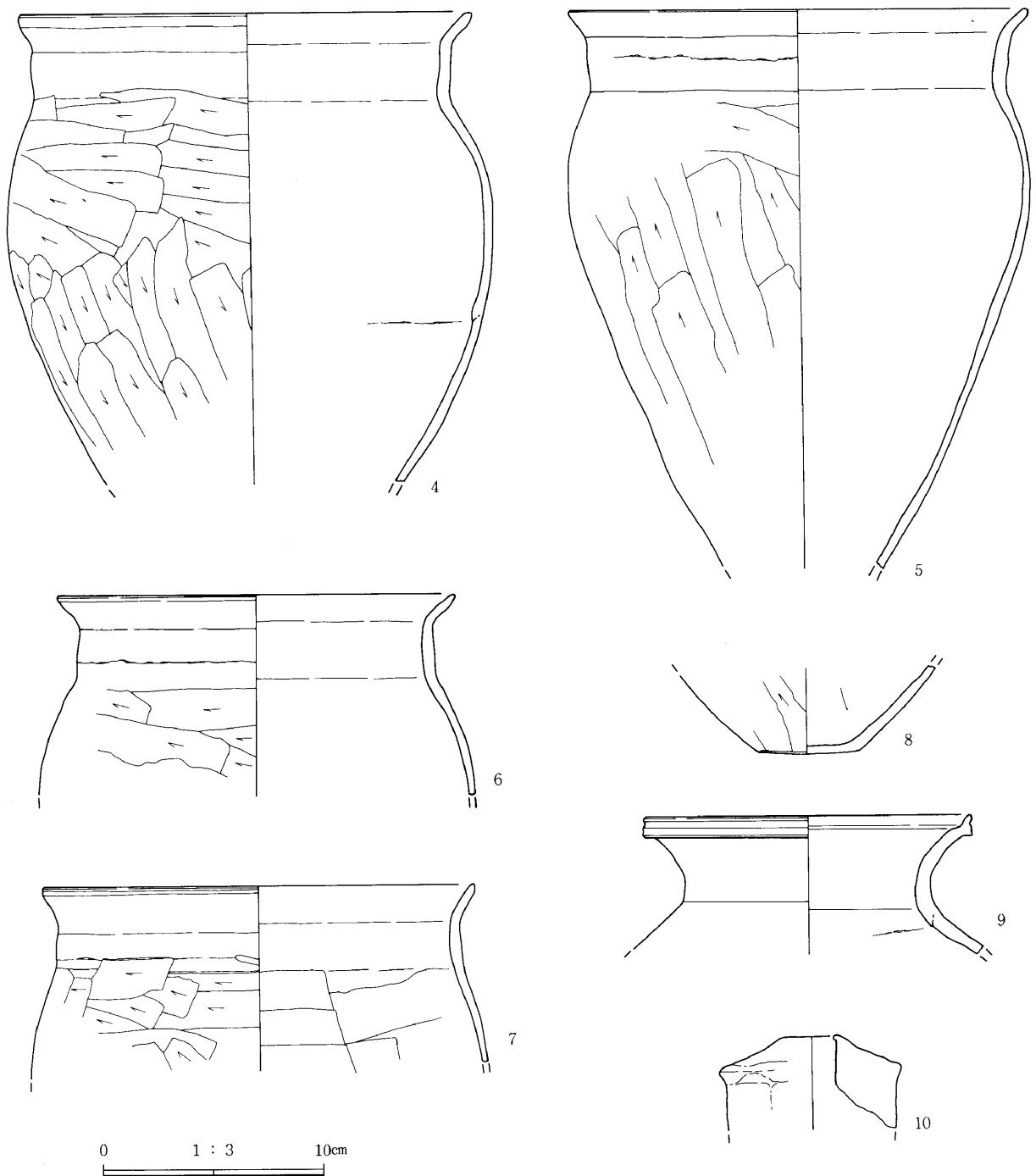


L = 645.10 m

0 1 : 30 1 m

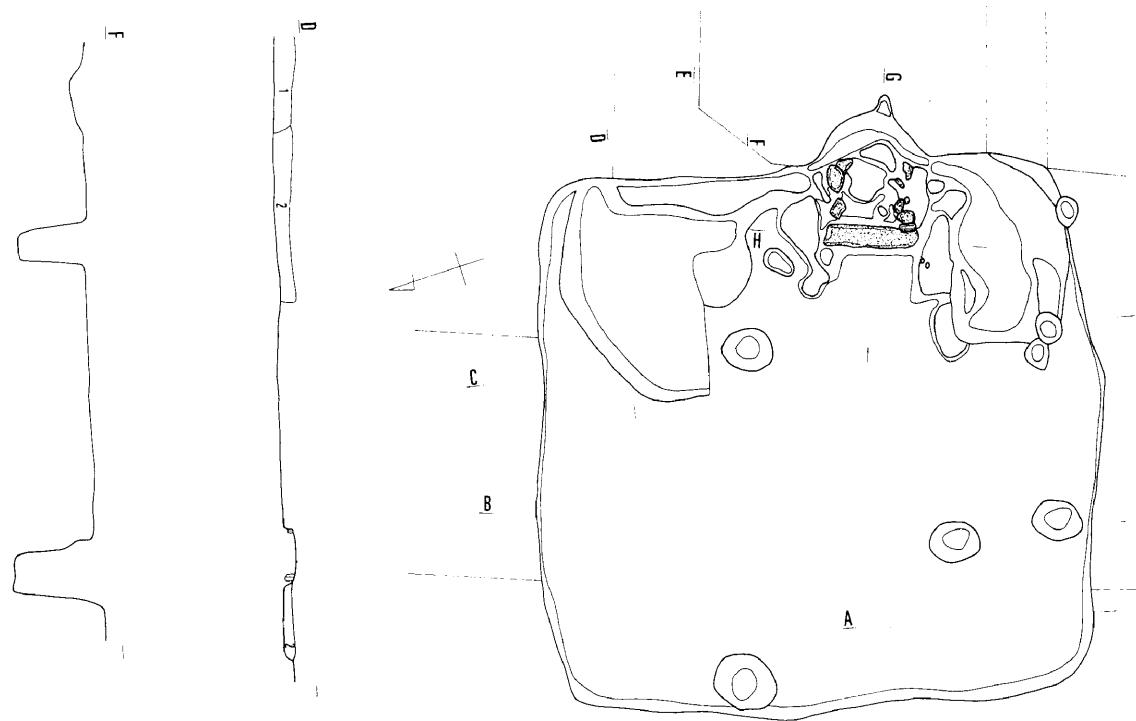


0 1 : 3 10cm

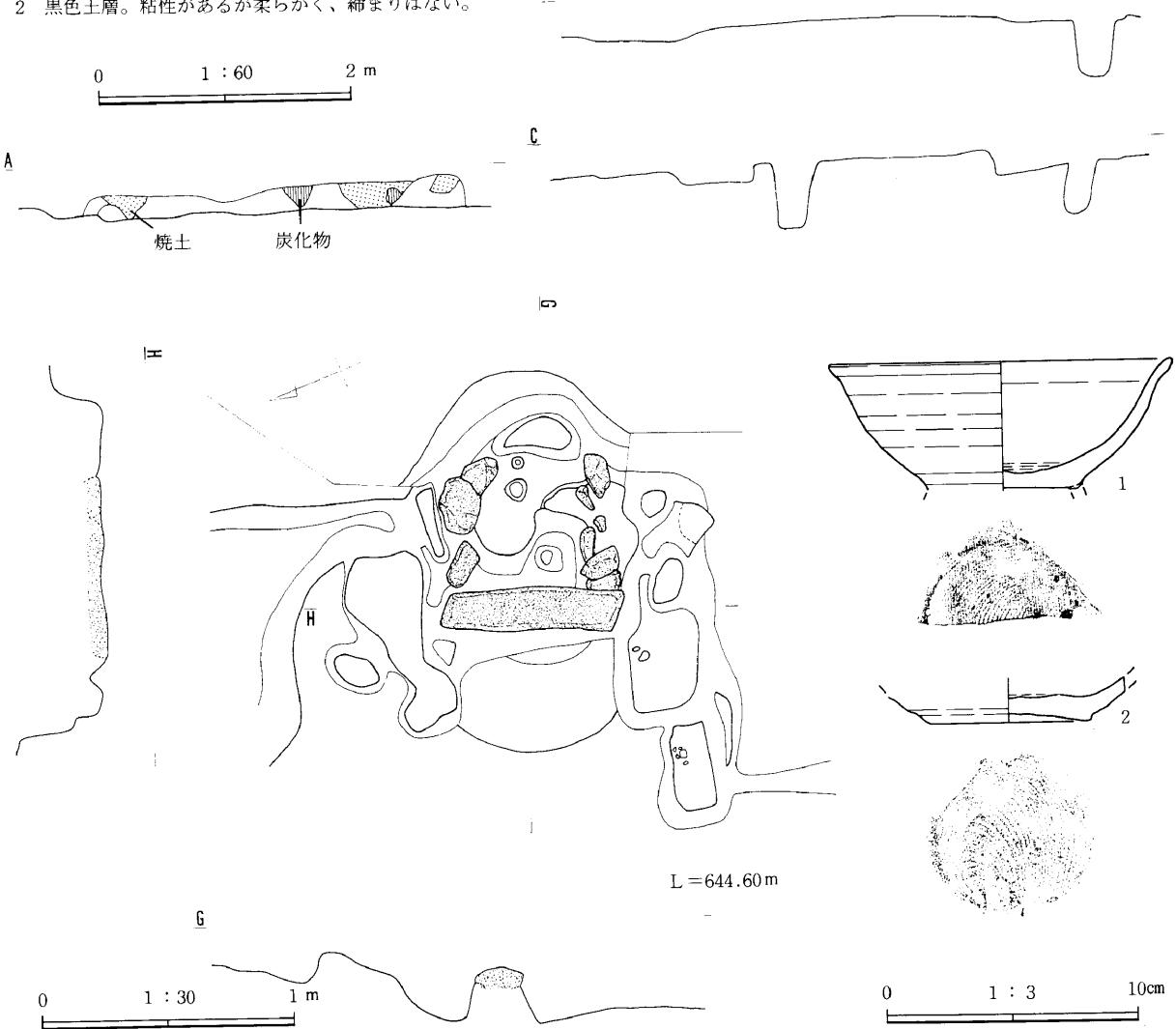


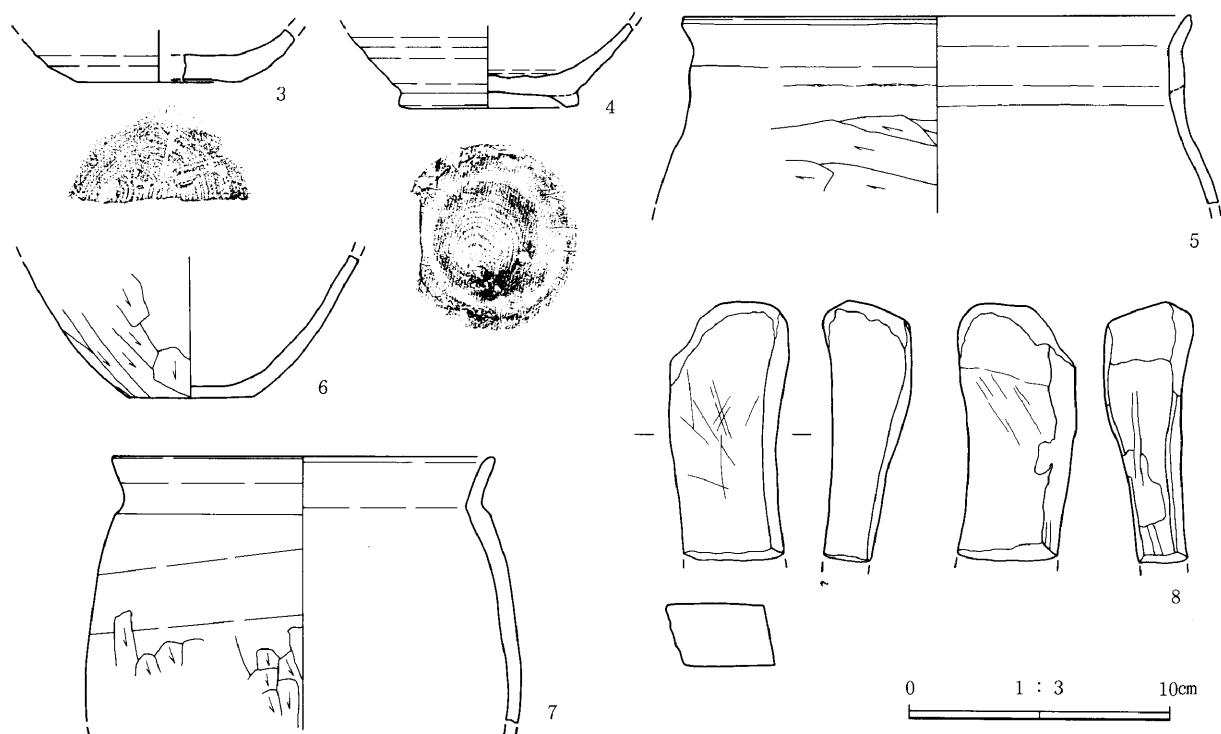
D区 7号住居址 (観察表45、図版4・18)

位置 B2, C2 グリッド 形状 正方形 規模 長軸4.6m × 短軸4.4m。確認面までの壁高10cm。面積 17.6m² 方位 N-106°-E 覆土 黒色土を主体とした土で埋没。床面 生活面は全体にほぼ平坦。竈址 東壁の中央よりやや南側に位置する。残存状態が良く、燃焼部の側壁に沿って据えた補強用の石材と、焚口部に鳥居状に横架した石材が原位置を留めていた。燃焼部は幅50cm、奥行き60cmで壁内に造り付け、煙道は僅かに壁を掘り込むにすぎない。柱穴 主柱穴は確認できない。貯蔵穴 確認できない。周溝なし。遺物 総数163点、土器140点、石20点、砥石2点、鉄1点。このうちの須恵器壺・高台付椀、土師器甕が住居の年代を示す。備考 平安時代前期、9世紀後半。



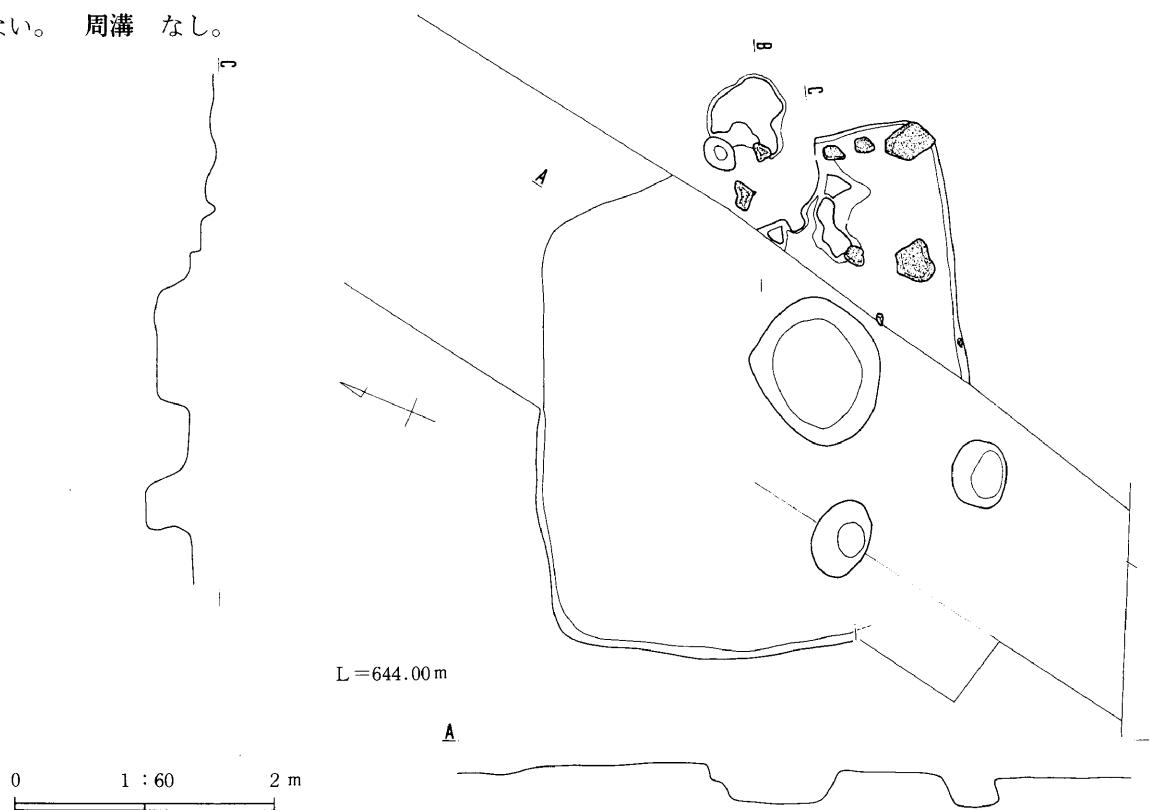
- 1 暗褐色土層。粘性があり良く締まっている。軽石粒を全体に含む。住居の壁。
- 2 黒色土層。粘性があるが柔らかく、締まりはない。



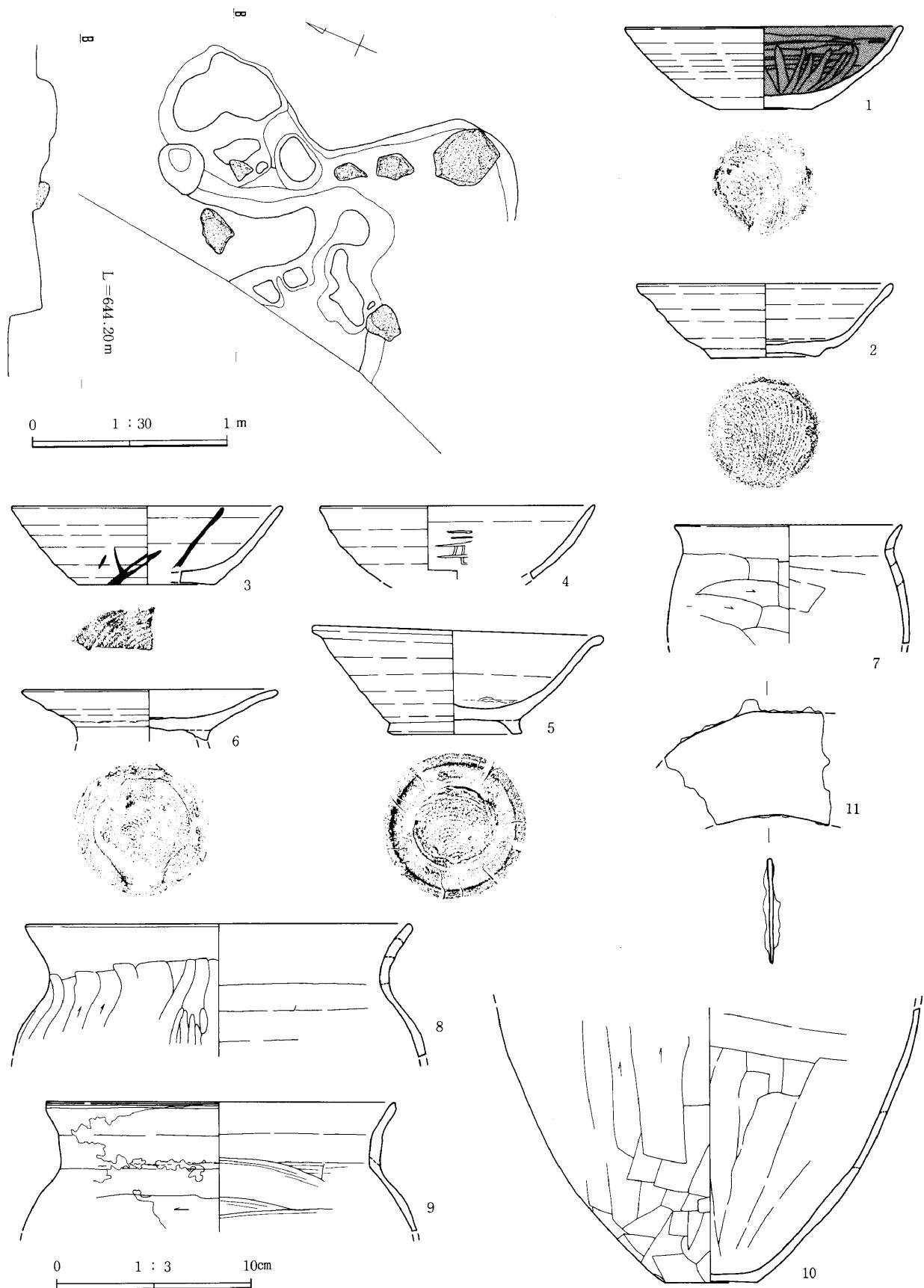


D区8号住居址（観察表46、図版4・18）

位置 B3 グリッド **形状** 長方形 **規模** 長軸3.7m×短軸3.3m。確認面までの壁高5cm。 **面積** 12.2 m² **方位** N-65°-E **覆土** 住居の掘り込みが浅いため不明。 **床面** 確認した面は平坦。住居中央部よりやや南側に検出した長軸1.1m、短軸90cm、深さ30cmのピットは、床下土壤の可能性が高い。 **竈址** 東壁の中央部に位置する。残存状態が悪く、主体部は確認できない。補強用に据えられていた石材が散乱していることから、意図的に破壊された可能性がある。 **柱穴** 主柱穴は確認できない。 **貯蔵穴** 確認できない。 **周溝** なし。

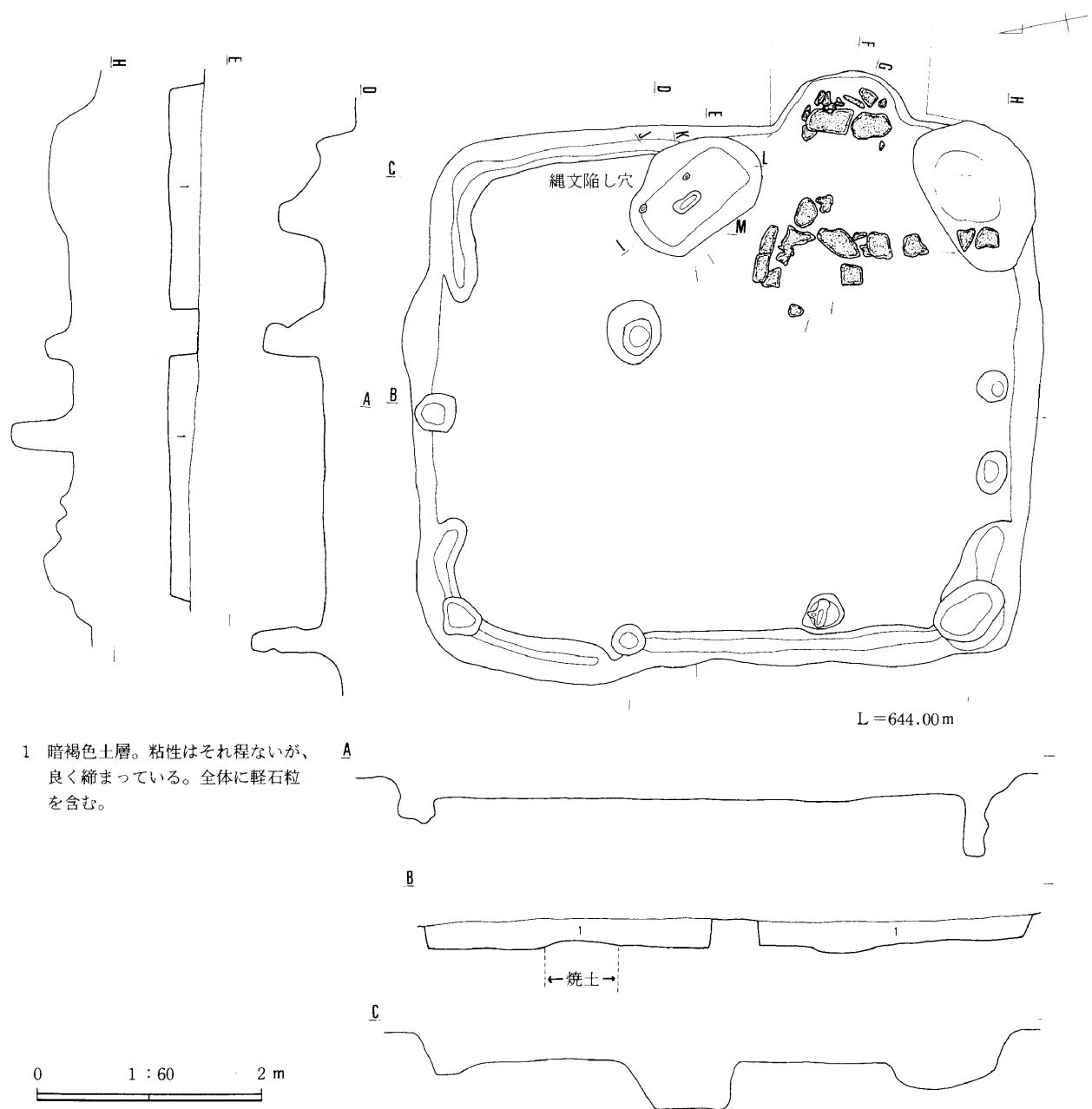


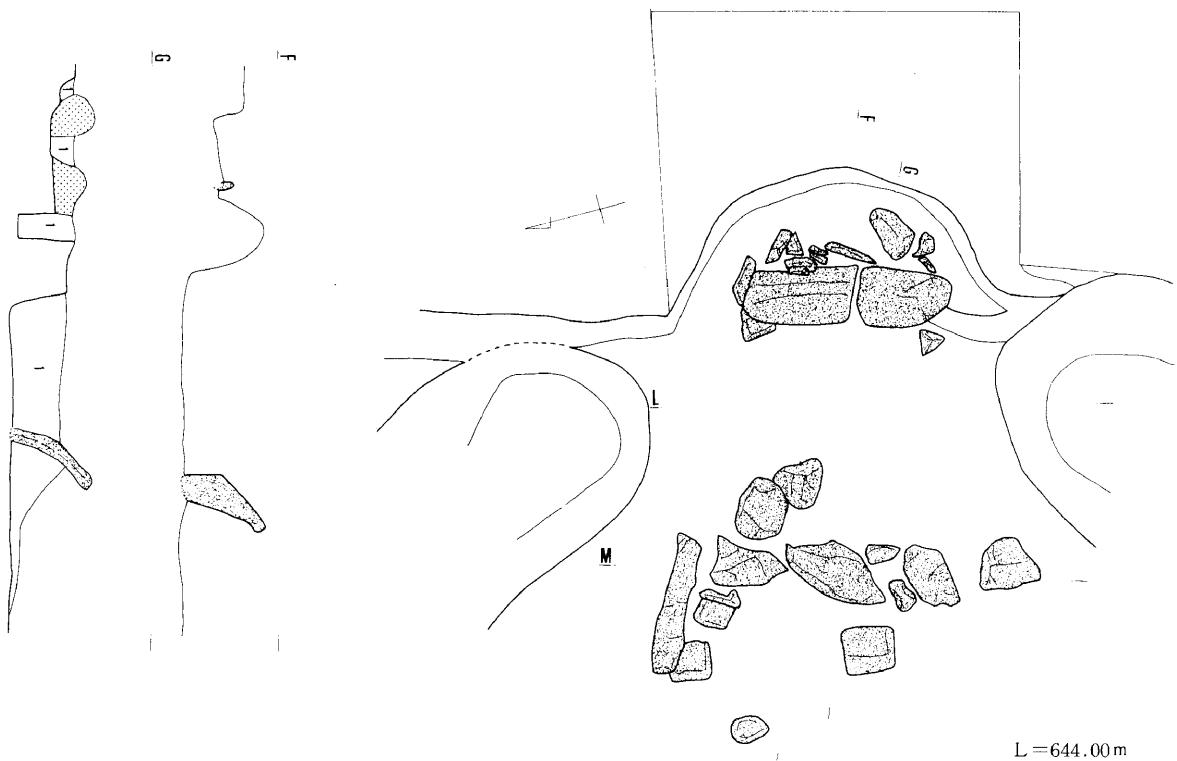
遺物 総数256点、土器242点、石10点、砥石2点、鉄1点、土錘1点。このうちの須恵器壺・高台付椀
・皿、土師器甕が住居の年代を示す。 備考 平安時代前期、9世紀中葉。



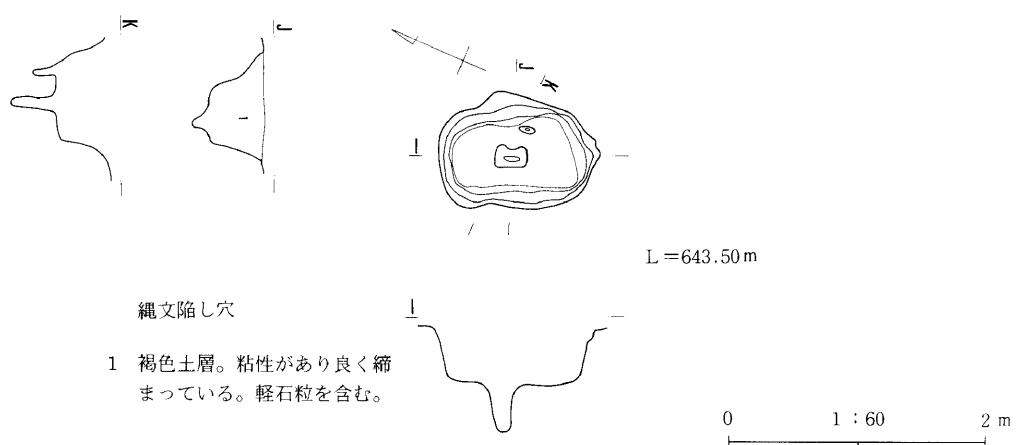
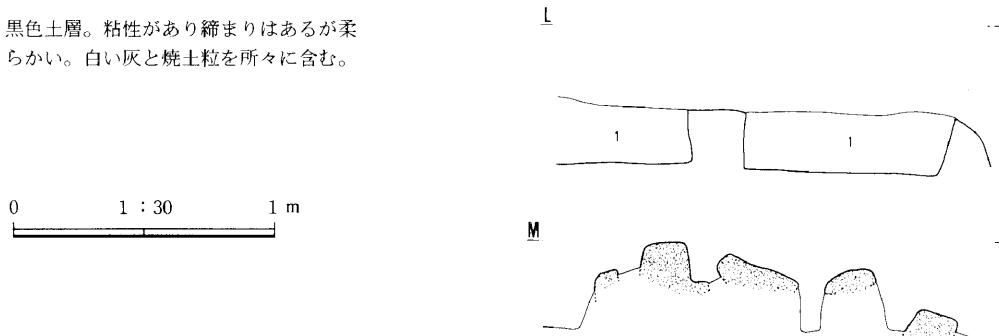
D区9号住居址（観察表46、図版5・19）

位置 B2 グリッド **形状** 長方形 **規模** 長軸5.5m×短軸4.6m。確認面までの壁高22cm。 **面積** 25.3m² **方位** N-103°-E **覆土** 軽石粒を含む暗褐色土で埋没。 **床面** 全体に平坦。 **竈址** 東壁の南側に位置する。主体部は確認できないが、補強用に据えた石材の一部が遺存していた。おそらく燃焼部の側壁に沿って石材を据え、天井部にも石材を横架していたものと考えられる。燃焼部は幅70cm、奥行き1mほどと推定される。煙道は確認できない。 **柱穴** 主柱穴は確認できない。北壁、西壁、南壁の間に検出した7個の小ピットは、壁柱穴の可能性がある。 **貯蔵穴** 住居の南西隅に長軸1.3m、短軸1.0m、深さ25cmの楕円形で確認。 **周溝** 北壁と南壁の一部を除いて存在。 **遺物** 総数268点、土器256点、石7点、鉄4点、火打ち石1点。このうち須恵器壺・高台付椀、土師器甕が住居の年代を示す。 **備考** 平安時代前期、9世紀中葉、落ち込みあり。

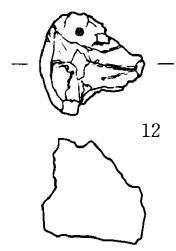
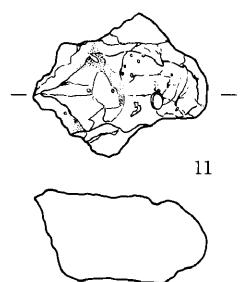
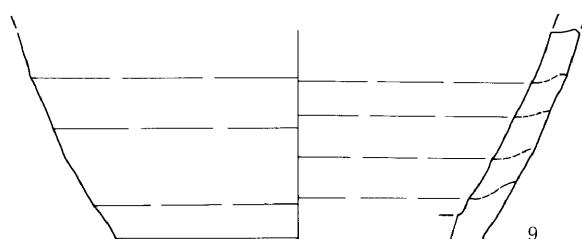
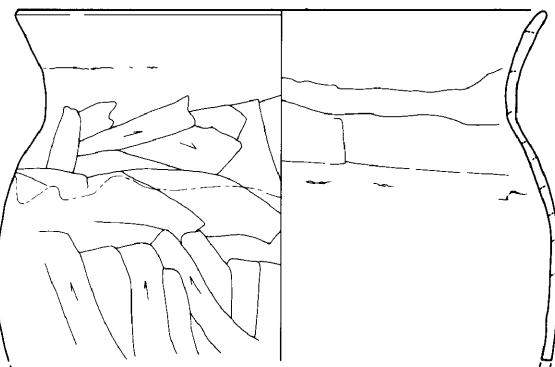
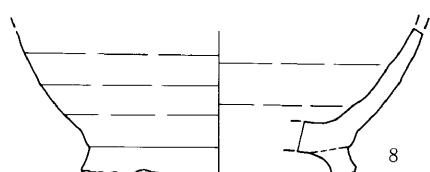
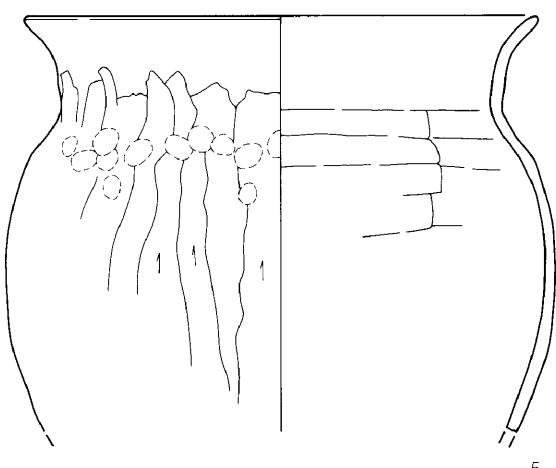
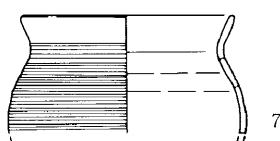
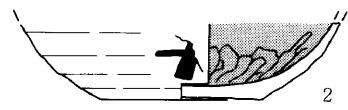
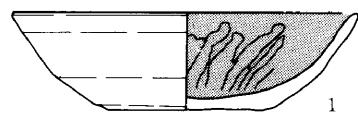




1 黒色土層。粘性があり締まりはあるが柔らかい。白い灰と焼土粒を所々に含む。



1 褐色土層。粘性があり良く締まっている。軽石粒を含む。

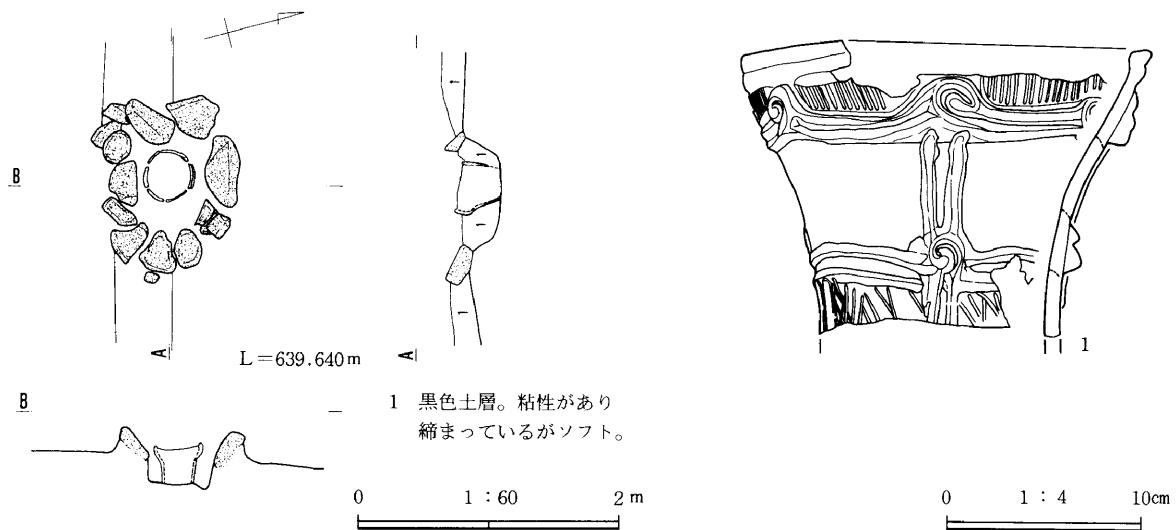


0 1 : 3 10cm

2. 埋 蓋

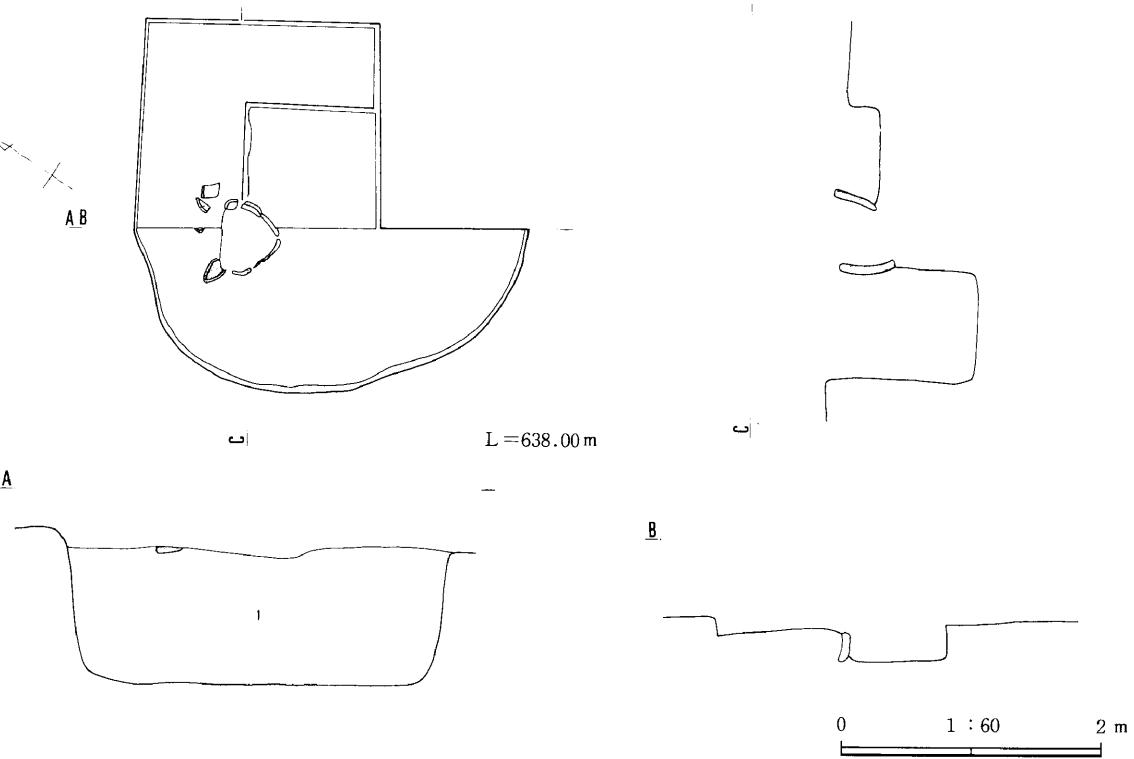
C区1号埋蓋 (観察表51、図版5・19)

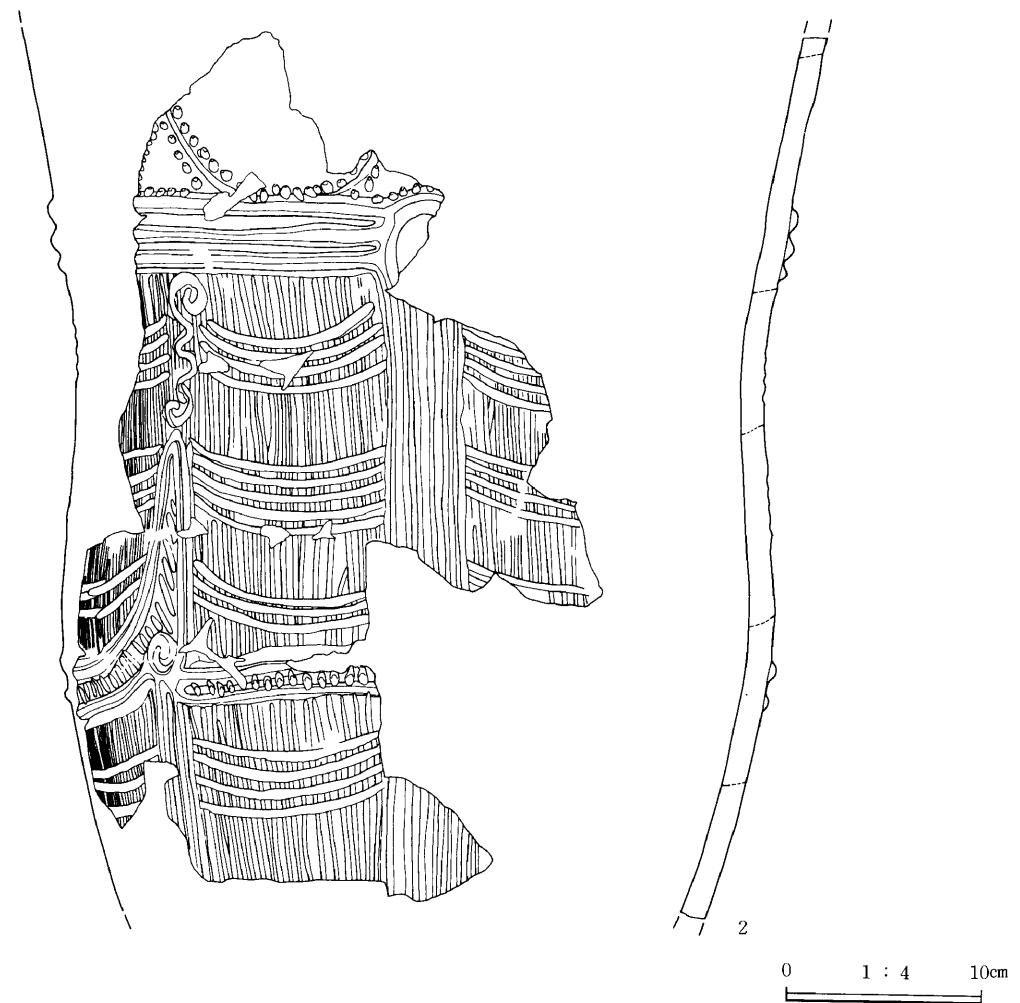
位置 D9グリッド 形状 短軸1.0m、長軸1.5mで東西方向に長軸をもつ橢円形に配置した石圓いのほぼ中央部に、底部を切断した深鉢を正位に埋め込む。 遺物 深鉢の口縁部から胴部中位。 備考 繩文時代中期。



C区2号埋蓋 (観察表51、図版5・19)

位置 E11グリッド 形状 底部を切断したと思われる深鉢を正位に埋め込む。掘り込みは不明。 遺物 深鉢の胴部下位。 備考 繩文時代中期。





3. 土坑

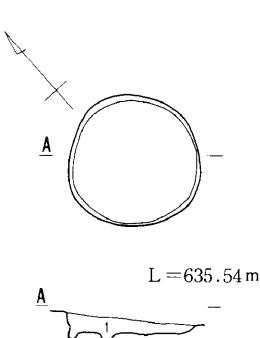
向原遺跡では、14基の陥し穴を含む73基の土坑を検出した。これらの大半は土器を伴わず、詳細な年代を判定する資料を欠いている。しかし、伴出した土器からその年代を推定できるものはいずれも縄文時代後期に属し、集落の存続時期を含んでいる。一方14基の陥し穴は、形状と規模に共通性の少ない土坑とは対照的に、極めて近似した様相を示している。平均したその規模は長軸161cm、短軸114cm、深さ96cmで、いずれも橢円形の外形と長方形の底面をもち、逆茂木の痕跡が明瞭に認められるものもある。

土坑番号	位 置 グリッド	形 状	規 模(cm)			備 考
			直 径	短 径	深 さ	
B区1号	G16	円形	114	113	19	
B区2号	F15、G15	楕円形	252	186	68	
B区3号	H15	楕円形	162	140	74(16)	陥し穴
B区4号	H15	円形	94	78	30	
B区5号	G16	楕円形	87	56	26	
B区6号	G15	楕円形	124	84	54(10)	陥し穴
B区7号	G14	楕円形	177	134	45	
B区8号	G14	円形	96	81	49	
B区9号	F14	楕円形	173	136	170	陥し穴
B区10号	F14	楕円形	143	85	66	
B区11号	F14	楕円形	177	153	112(16)	陥し穴
B区12号	F14	円形	62	59	29	
B区13号	F13・14	楕円形	195	145	132	陥し穴
B区14号	F13	円形	197	192	71	
B区15号	F13	楕円形	147	87	91	陥し穴
B区16号	F13	円形	110	107	16	
B区17号	F13	楕円形	108	75	21	
B区18号	E13	円形	70	66	24	
B区19号	G13	円形	126	117	39	
B区20号	G13	楕円形	205	164	61	
B区21号	GI3	楕円形	296	222	81	
B区22号	G12、HI2	楕円形	312	222	69	
B区23号	F12・13		151	119	30	
B区24号	F12	楕円形	164	118	113	陥し穴
B区25号	G11	円形	100	98	37	
B区26号	G11	楕円形	66	43	24	
B区27号	F11、G11	円形	31	28	32	
C区1号						欠番
C区2号						欠番
C区3号						欠番
C区4号						欠番
C区5号						欠番
C区6号						欠番
C区7号						欠番
C区8号	E11	円形	79	72	58	
C区9号	D10	楕円形	161	72	44	陥し穴
C区10号	D10	楕円形	112	88	26	
C区11号	D9・10	円形	120	118	75(16)	陥し穴
C区12号	D9・10 E9・10	円形	160	136	50	
C区13号	E9	楕円形	305	214	33	
C区14号	E10	楕円形	118	72	14	
C区15号						欠番
C区16号	D8	円形	178	167	54	
C区17号						欠番
C区18号						欠番
C区19号						欠番

土坑番号	位 置 グリッド	形 状	規 模(cm)			備 考
			直 径	短 径	深 さ	
C区20号						欠番
C区21号	D 9	円形	243	223	67	
C区22号						欠番
C区23号	D 9	円形	145	142	88	
C区24号	D 9	円形	138	117	56	
C区25号	D 9	楕円形	225	144	49	
C区26号	D 9	円形	108	90	39	
C区27号	E 10	楕円形	195	109	64	
C区28号	D 9	円形	119	100	41	
C区29号	E 10	円形	132	108	23	
C区30号	D 9	円形	131	124	44	
D区1号	C 3	円形	60	50	63	
D区2号	C 3	半円形	109	101	62	
D区3号	C 3	円形	74	62	41	
D区4号	B 3	円形	174	168	28	
D区5号	B 3	円形	92	78	33	
D区6号	C 2	円形	136	113	29	
D区7号	C 2	円形	40	39	26	
D区8号	C 2	円形	45	45	25	
D区9号	A3、B3	円形	110	109	38	
D区10号						欠番
D区11号	B 2	楕円形	164	85	49	
D区12号	B 2	楕円形	238	136	50	
D区13号						欠番
D区14号	B 2	円形	109	104	28	
D区15号	B 2	円形	93	91	36	
D区16号						欠番
D区17号	B 2	円形	89	76	22	
D区18号	C 2	円形	191	176	26	
D区19号						欠番
D区20号						欠番
D区21号						欠番
D区22号	D 2	楕円形	152	68	25	
D区23号	D 2	円形	103	92	35	
D区24号	D 2	楕円形	161	117	34	
D区25号	D 2	楕円形	152	122	18	
D区26号	D 2	楕円形	184	153	120	陥し穴
D区27号	E 0	楕円形	180	90	89	陥し穴
D区28号	A 2	円形	97	93	28	
D区29号	A 2	円形	82	78	42	
D区30号	A 2	円形	82	70	13	
D区31号	D 2	楕円形	145	88	77	陥し穴
D区32号	D 2	楕円形	166	103	103	陥し穴
D区33号	E 2	楕円形	123	97	16	
D区34号	B 3	円形	115	102	25	
D区35号	B 2	楕円形	126	88	42(17)	陥し穴

※()の数値は逆茂木痕の底面からの深さ。

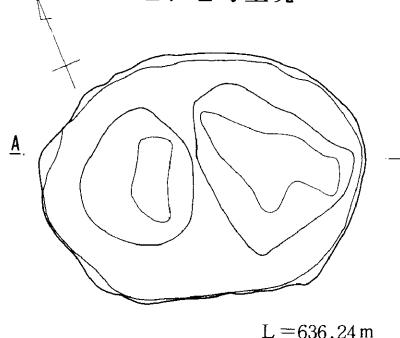
B区1号土坑



L = 635.54 m

- 1 黒色土層。粘性があり良く締まっている。ローム粒を含む。

B区2号土坑

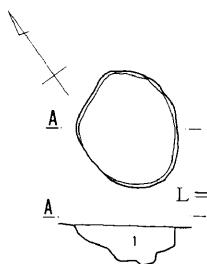


L = 636.24 m



- 1 黒色土層。粘性があり良く締まっていて硬い。全体に浅間D軽石及びローム粒を含む。

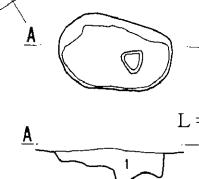
B区4号土坑



L = 637.19 m

- 1 暗褐色土層。粘性はそれ程なく締まっているが柔らかい。全体にローム粒を含む。

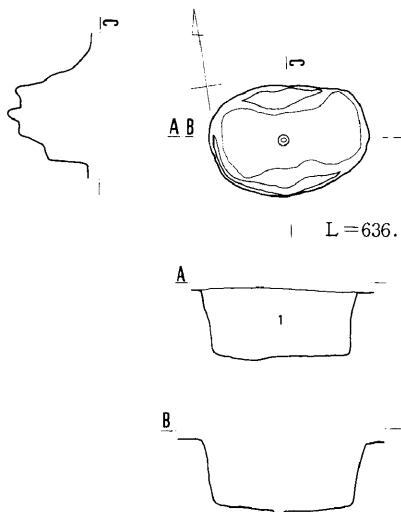
B区5号土坑



L = 635.48 m

- 1 褐色土層。粘性はそれ程なく、良く締まってソフト。所々にローム粒を含む。

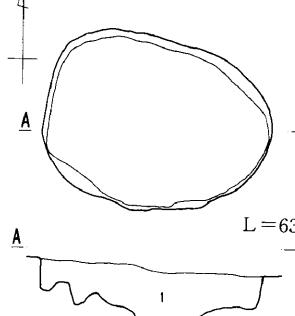
B区6号土坑



L = 636.88 m

- 1 黒色土層。粘性があり良く締まって硬い。全体に直径 3 mm～1 cm の浅間D軽石を含む。

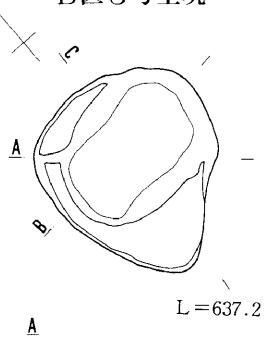
B区7号土坑



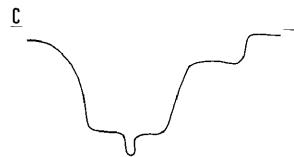
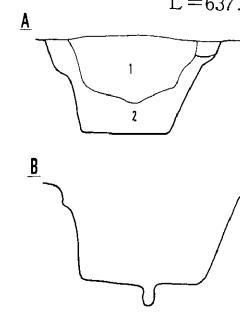
L = 637.37 m

- 1 黒色土層。粘性はそれ程なく、良く締まっていて硬い。浅間D軽石を全体に含む。

B区3号土坑



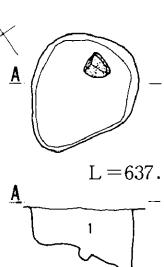
L = 637.2 m



- 1 黒色土層。粘性があり良く締まっていて硬い。全体に浅間D軽石を含む。

- 2 褐色土層。粘性があり良く締まっていて硬い。全体に浅間D軽石を含み、ローム粒を含むため黄色味がかっている。

B区8号土坑

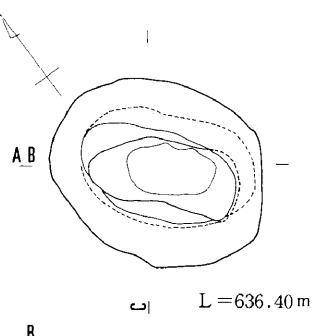


L = 637.22 m

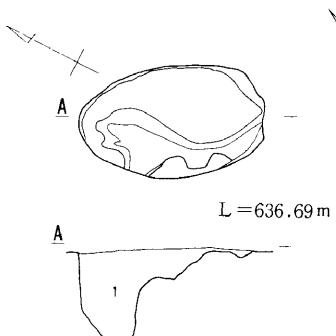
- 1 黒色土層。粘性はそれ程なく、良く締まっていて硬い。浅間D軽石を全体に含む。

0 1 : 60 2 m

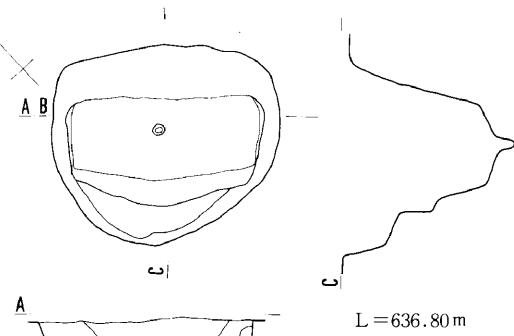
B区9号土坑



B区10号土坑



B区11号土坑

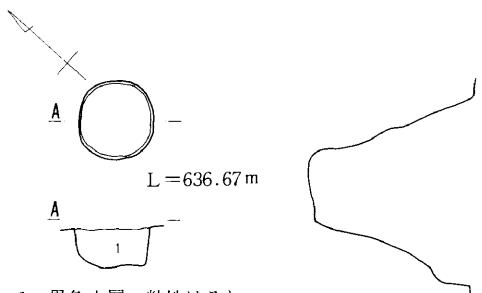


1 黒色土層。粘性はそれ程なく良く締まっているがソフト。浅間D軽石、ロームブロックを所々に含む。

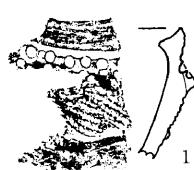
- 1 黒色土層。粘性はそれ程ないが良く締まっており、全体に 1 mm 前後の軽石を含む。
- 2 黒色土層。粘性はそれ程なく締まりもそれ程ない。ローム粒を所々に含む。
- 3 黒色土層。粘性があり締まりはなくもろい。上位にローム層あり。

- 1 黄褐色土層。粘性と締まりはなく、全体にロームを含むため黄色い。
- 2 暗褐色土層。粘性が少しあり締まっているがソフト。直径 1 mm 前後の軽石を含む。
- 3 黒色土層。粘性があり締まりはあるが柔らかい。所々にロームブロックを含む。
- 4 黒色土層。粘性があり締まりはなく柔らかい。所々にロームブロックを含む。
- 5 黒色土層。粘性があり締まりはあって柔らかい。所々にロームブロックを含む。

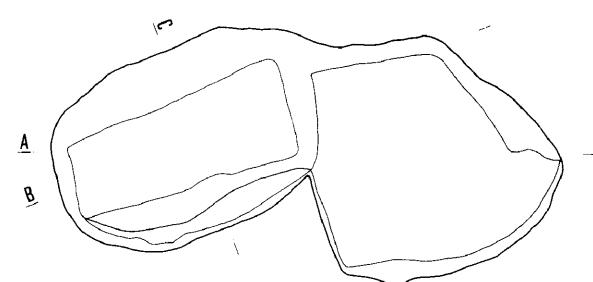
B区12号土坑



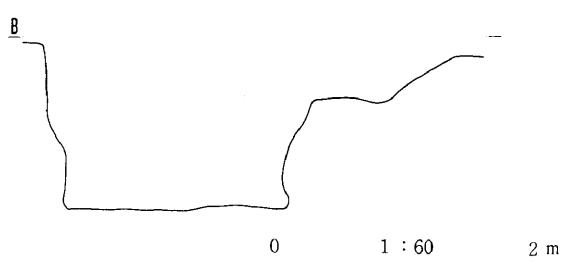
- 1 黒色土層。粘性はそれ程なく良く締まっているがソフト。浅間D軽石、ロームブロックを所々に含む。

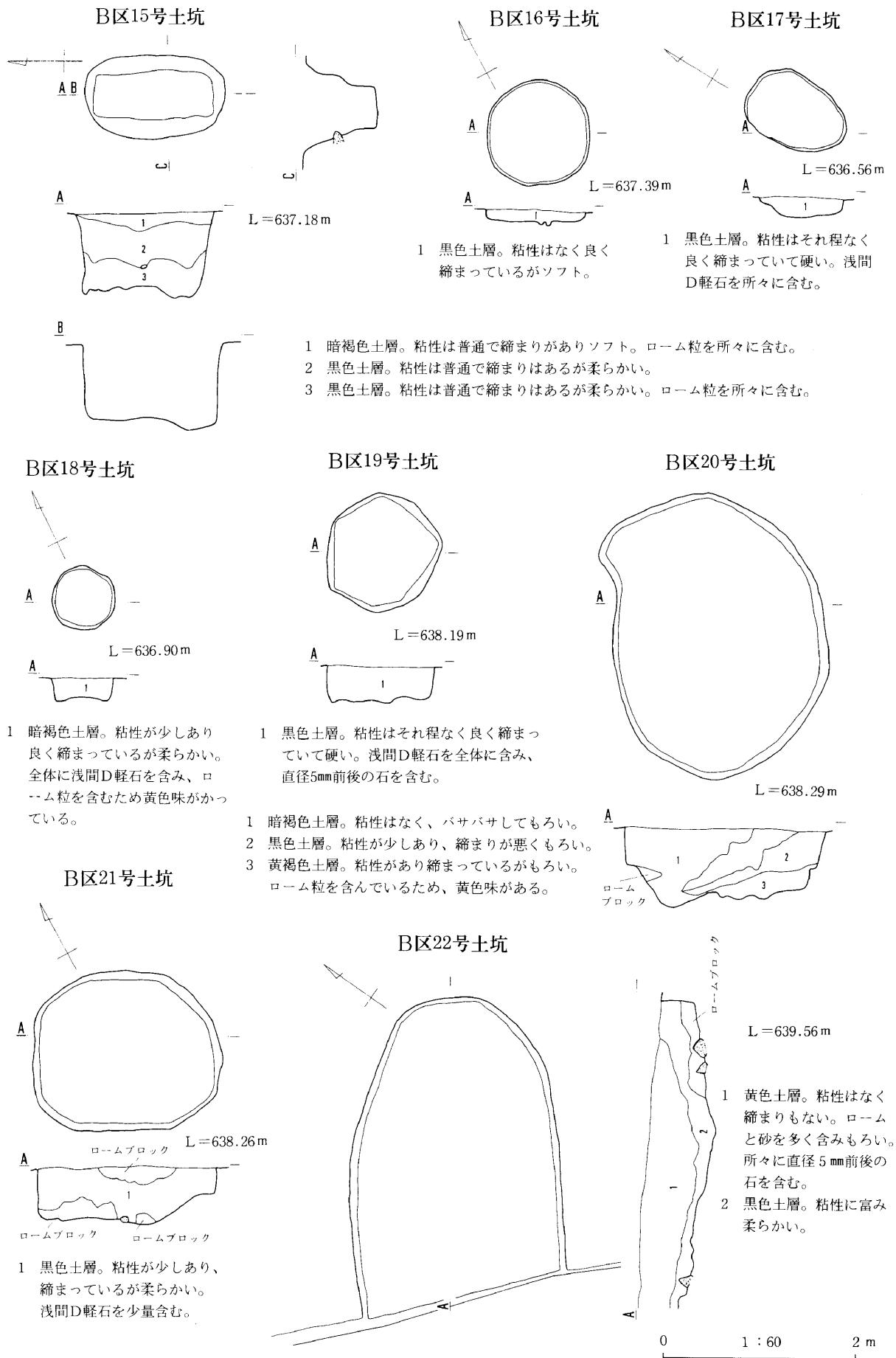


B区13・14号土坑

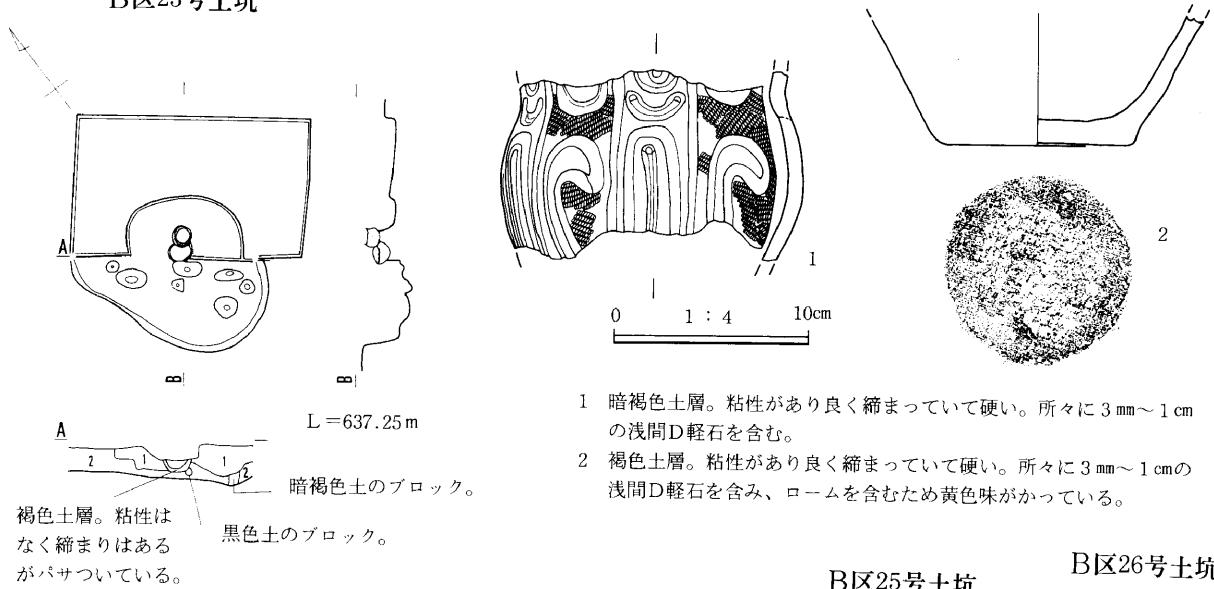


- 1 黄褐色土層。粘性と締まりはなく、全体にロームを含むため黄色味がかっている。
- 2 明褐色土層。粘性はなく締まりは普通で柔らかい。全体に浅間D軽石を含む。
- 3 黒色土層。粘性があり締まっているがソフト。全体に浅間D軽石を含む。
- 4 黒色土層。粘性があり締まっているが柔らかい。所々に浅間D軽石を含む。
- 5 黒色土層。粘性に富み良く締まっていて柔らかい。所々に浅間D軽石、ロームブロックを含む。

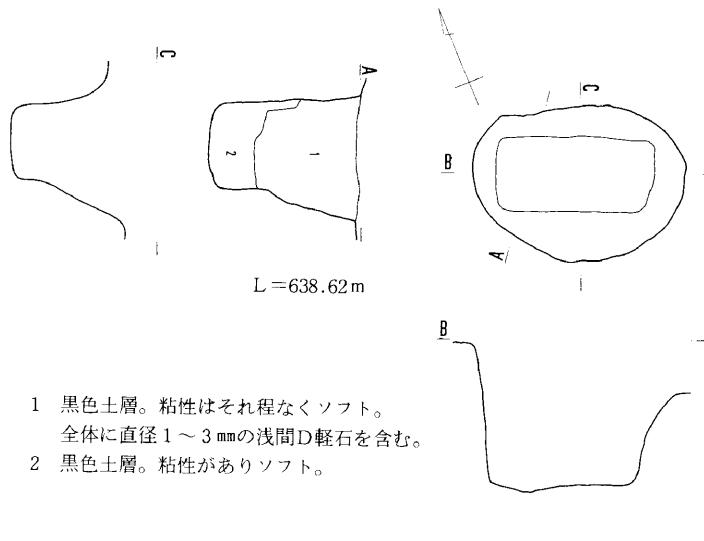




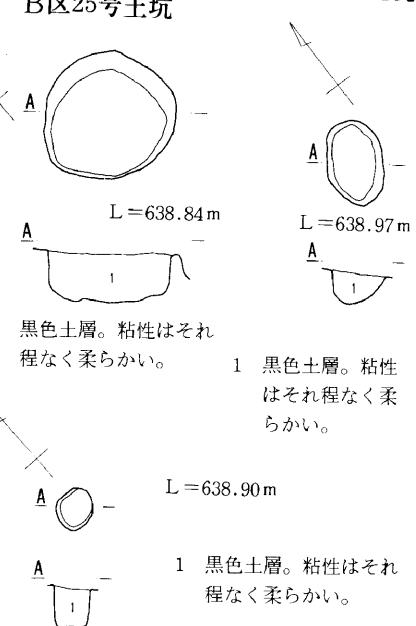
B区23号土坑



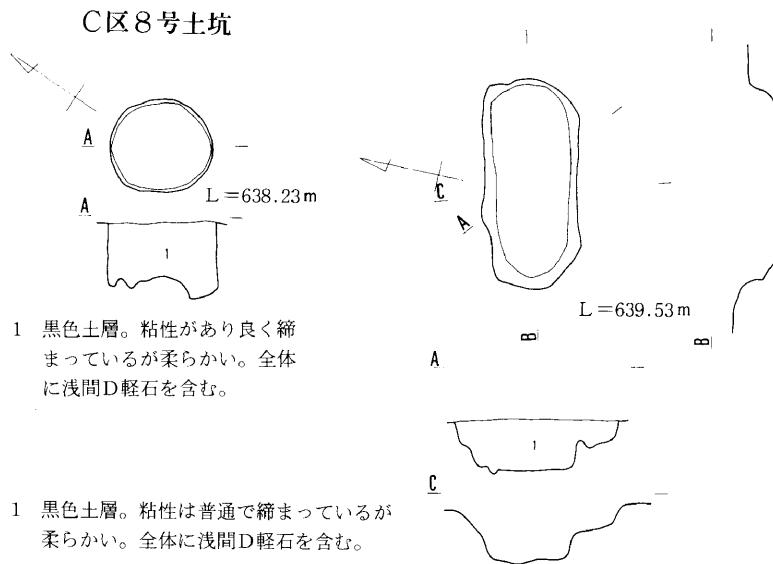
B区24号土坑



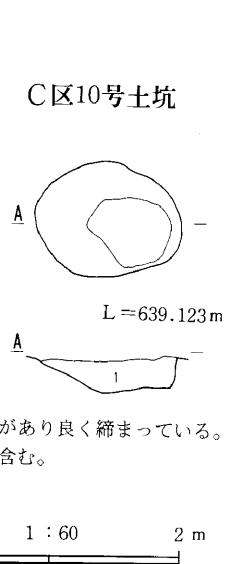
B区25号土坑



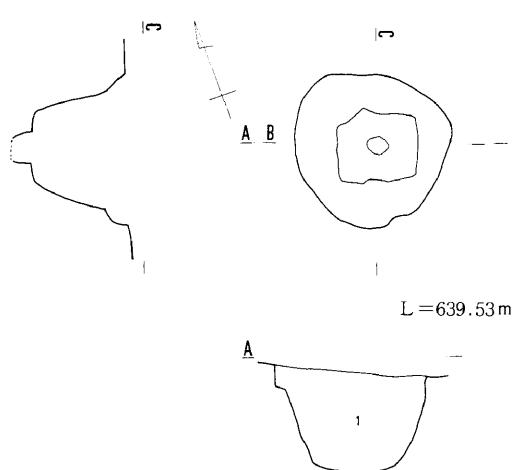
C区9号土坑



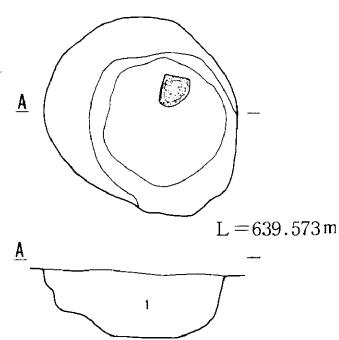
C区10号土坑



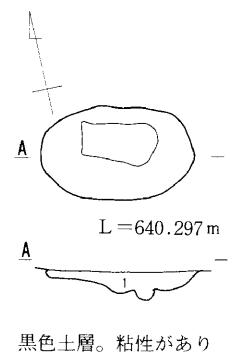
C区11号土坑



C区12号土坑



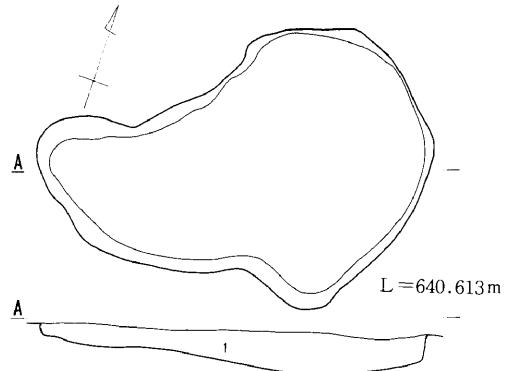
C区14号土坑



1 黒色土層。粘性があり
良く締まっている。

1 黒色土層。粘性がありよく締まつ
ていて硬い。全体に浅間D軽石を
含む。

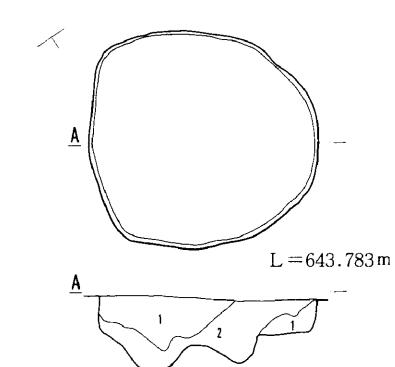
C区13号土坑



1 黒色土層。粘性はそれ程なく良く締まっている。
全体に浅間D軽石及びロームブロックを含む。

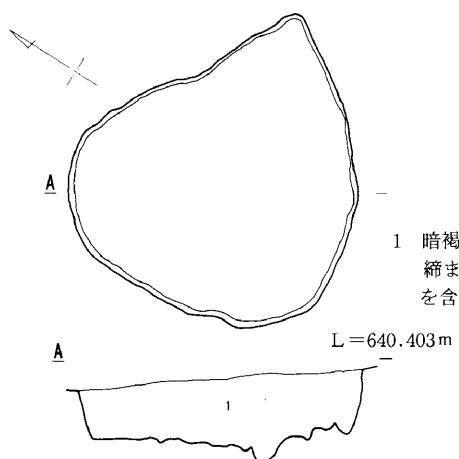
1 黒色土層。粘性がありよく締まつていて硬い。
全体に浅間D軽石を含む。

C区16号土坑



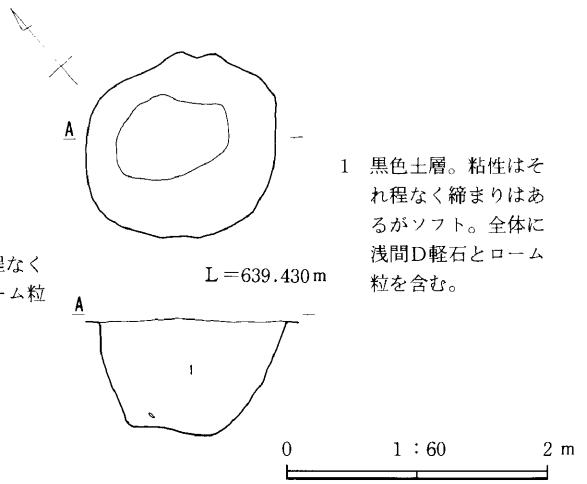
1 褐色土層。粘性があり良く締まっている。ロームブロックを多く含む。
2 黒色土層。粘性があり良く締まっている。全体に浅間D軽石？を含み、
所々にロームブロックを含む。

C区21号土坑



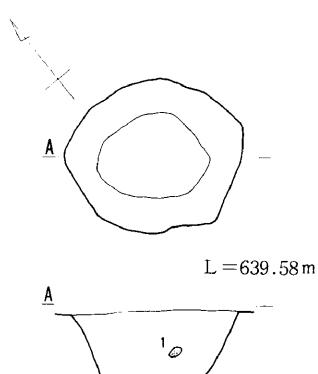
1 暗褐色土層。粘性はそれ程なく
締まりも普通。全体にローム粒
を含む。

C区23号土坑



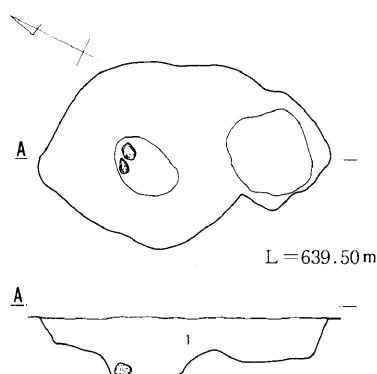
1 黒色土層。粘性はそれ程なく締まりはあるがソフト。全体に
浅間D軽石とローム
粒を含む。

C区24号土坑



1 褐色土層。粘性はそれ程なく
締まりはあるがソフト。全体
にローム粒を含む。

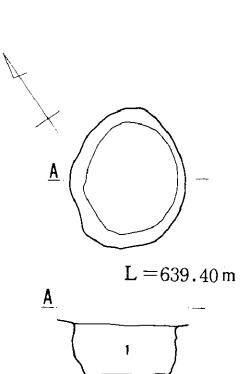
C区25号土坑



L = 639.50 m

1 暗褐色土層。粘性はそれ程なく
締まりはあるがソフト。全体に
ローム粒を含む。

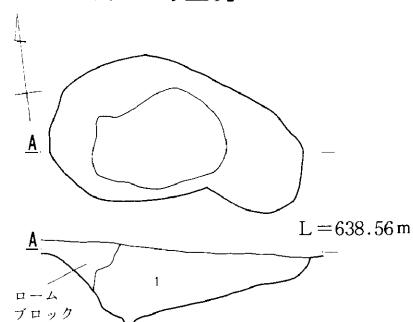
C区26号土坑



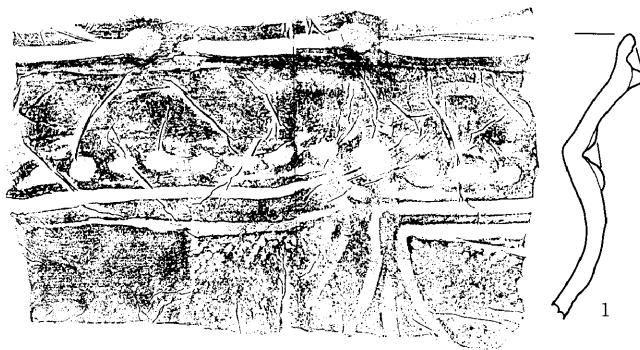
L = 639.40 m

1 褐色土層。粘性はそれ程なく
締まりはあるがソフト。全体に細
かいローム粒を多く含む。

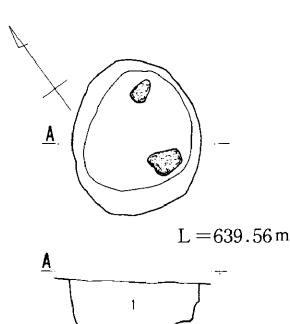
C区27号土坑



1 褐色土層。粘性はなく締まりもない。
全体にパサついている。



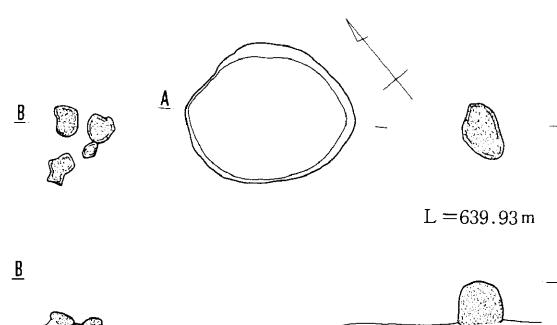
C区28号土坑



1 褐色土層。粘性はそれ程な
く締まりはあるがソフト。
全体にローム粒を多く含む。

C-26号土坑出土遺物

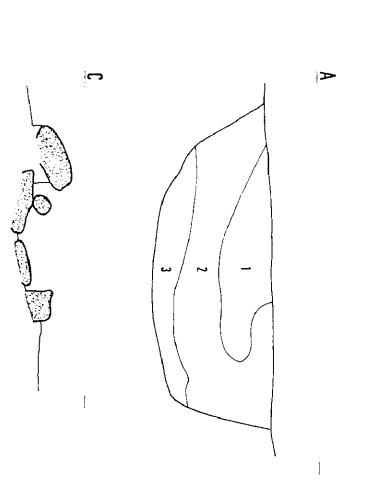
C区29号土坑



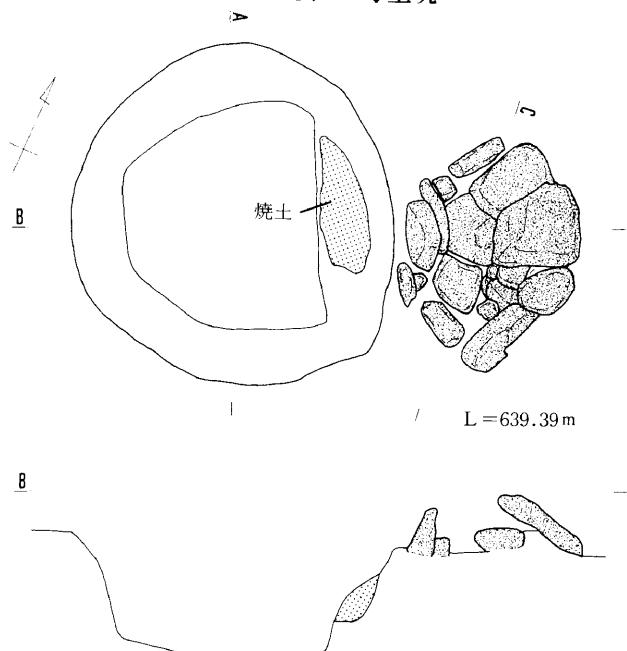
L = 639.93 m

1 黒色土層。粘性があり良
く締まっている。

C区30号土坑

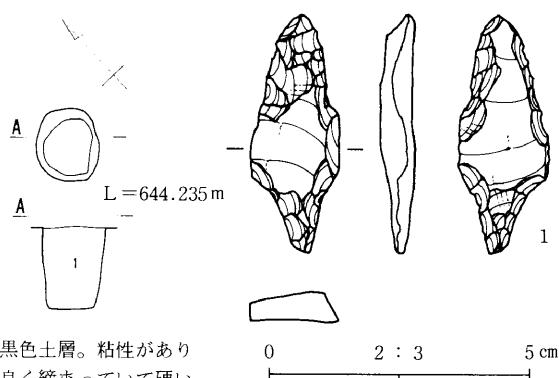


C区31号土坑



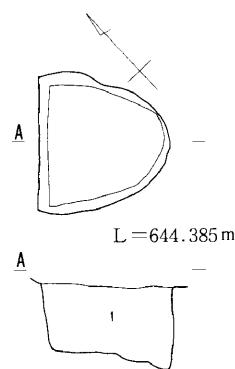
- 1 褐色土層。粘性はそれ程なく良く縮まっている。全体に砂を含んでいるのか砂質で、浅間D軽石とローム粒を全体に含む。
- 2 褐色土層。粘性があり良く縮まっている。砂を含んでいたためザラつき、所々に粘質の土を含み、全体にローム粒を含む。
- 3 暗褐色土層。粘性があり良く縮まっていて硬い。所々にローム粒を含む。

D区1号土坑



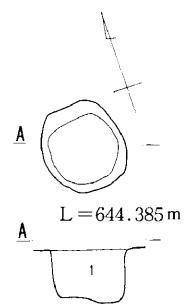
- 1 黒色土層。粘性があり良く縮まっていて硬い。全体に軽石粒を含む。

D区2号土坑



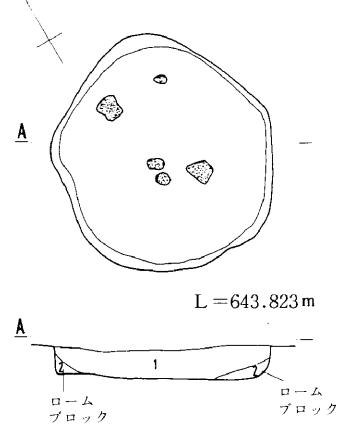
- 1 黒色土層。粘性があり良く縮まっていて硬い。全体に軽石粒を含む。

D区3号土坑

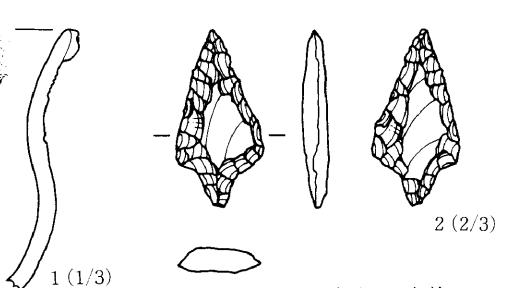


- 1 褐色土層。粘性があり縮まっているが柔らかい。全体にロームを含んでいるため黄色い。

D区4号土坑

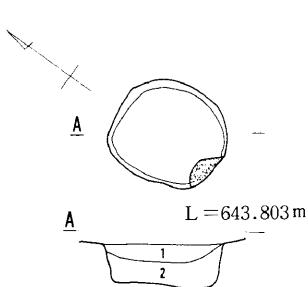


1 黒色土層。粘性があり良く縮まっている。

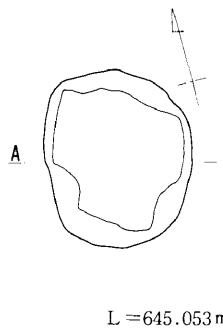


4号土坑出土遺物

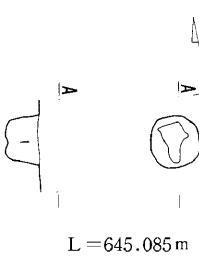
D区5号土坑



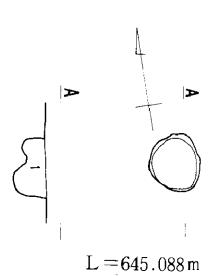
D区6号土坑



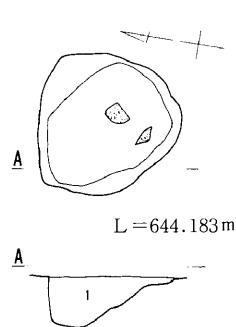
D区7号土坑



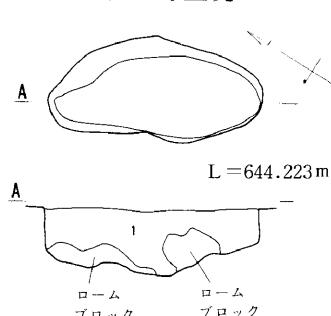
D区8号土坑



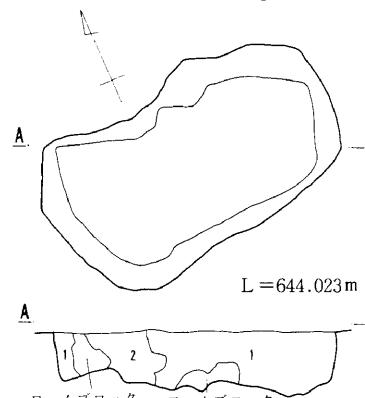
D区9号土坑



D区11号土坑

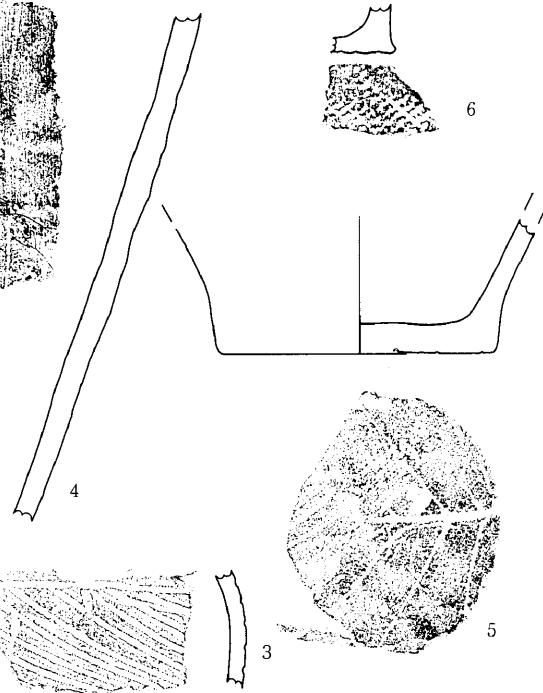
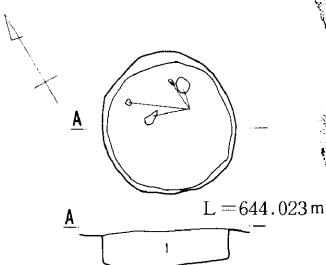


D区12号土坑



0 1 : 60 2 m

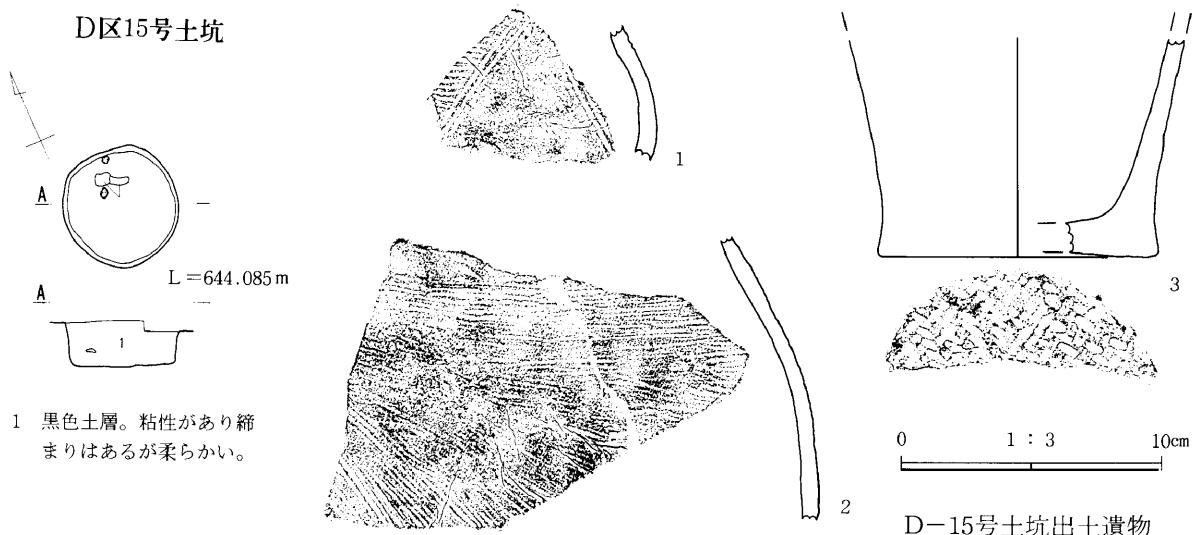
D区14号土坑



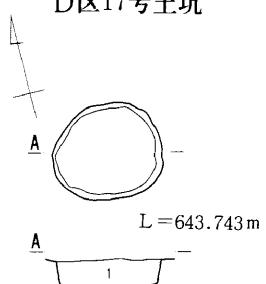
14号土坑出土遺物

0 1 : 3 10cm

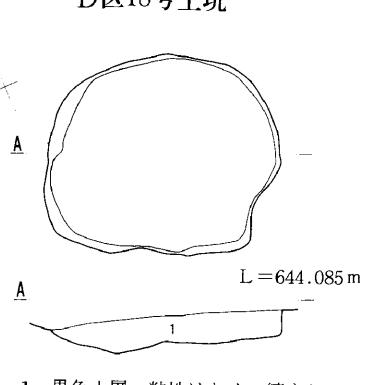
D区15号土坑



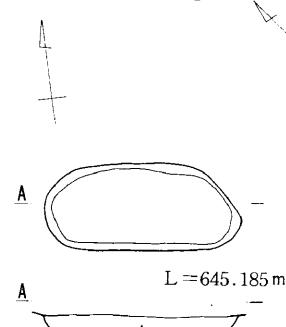
D区17号土坑



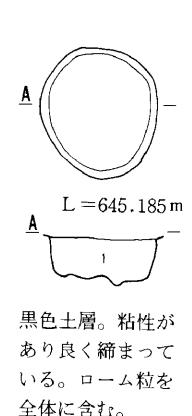
D区18号土坑



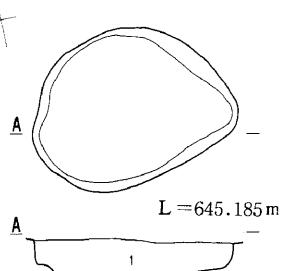
D区22号土坑



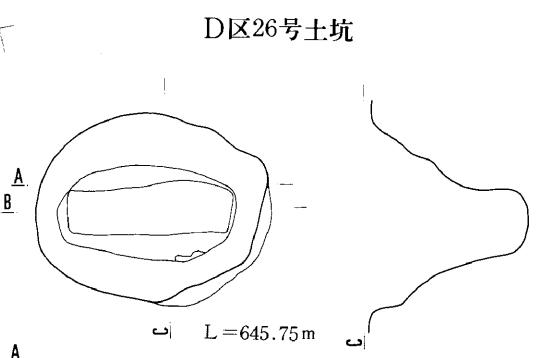
D区23号土坑



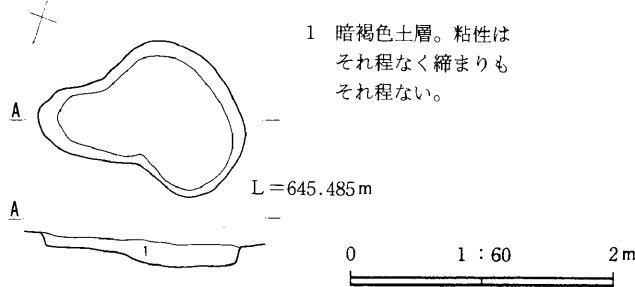
D区24号土坑



D区26号土坑

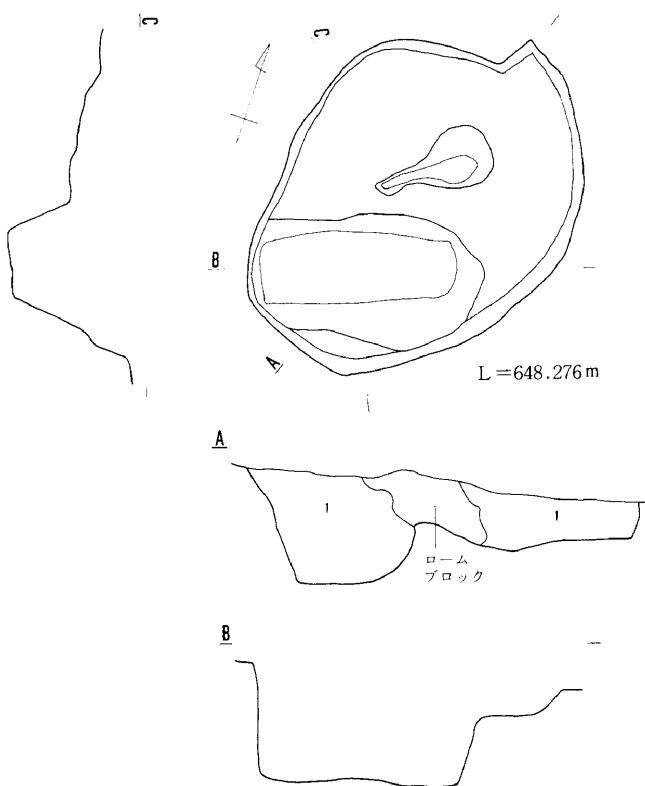


D区25号土坑

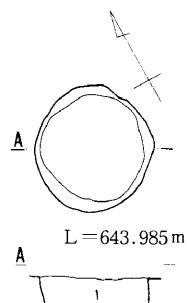


1 黒色土層。粘性があり良く縮まっている。所々に浅間D軽石を含む。

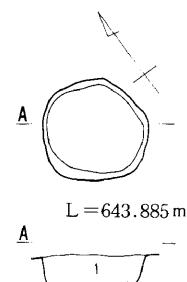
D区27号土坑



D区28号土坑

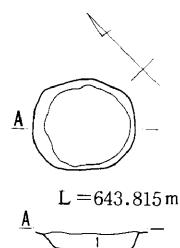


D区29号土坑



1 黒色土層。全体にローム粒を含む。粘性があり良く締まっていて硬い。

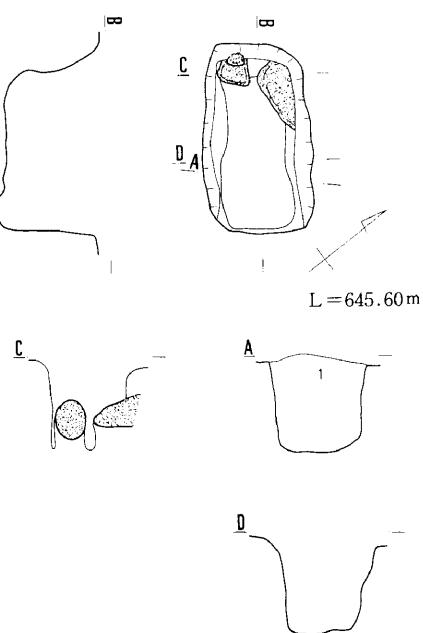
D区30号土坑



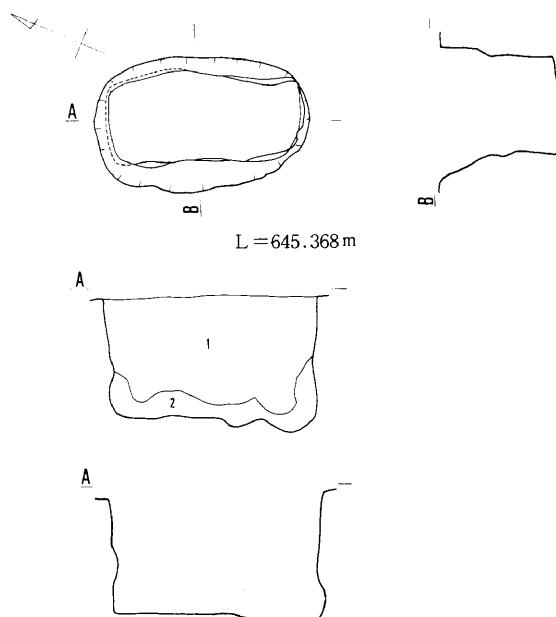
1 黒色土層。粘性があり締まりがある。全体に浅間D軽石を含む。

1 黒色土層。全体にローム粒を含む。粘性があり良く締まっていて硬い。

D区31号土坑



D区32号土坑



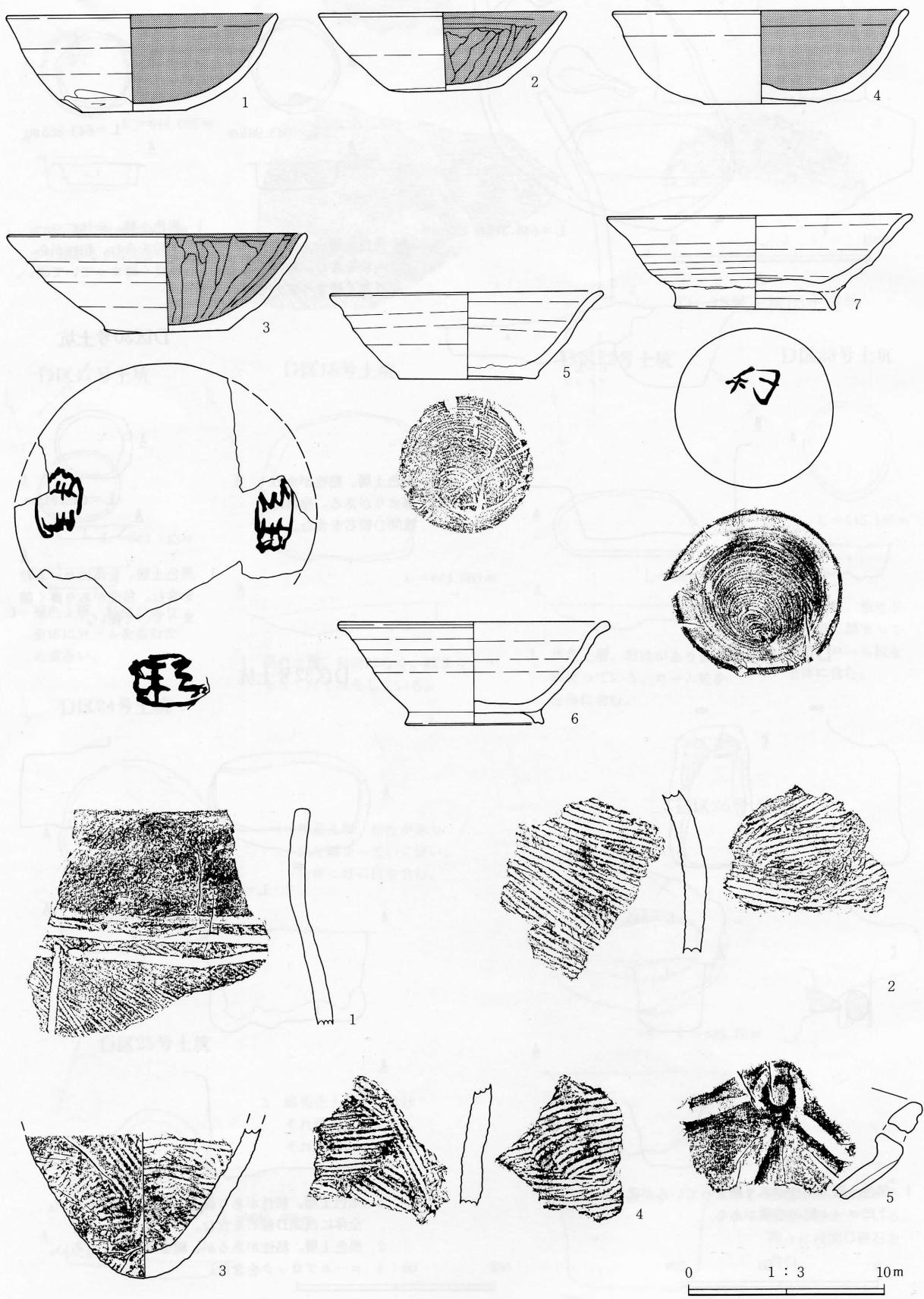
1 黒色土層。粘性があり締まっているが柔らかい。
下にローム粒の堆積がある。

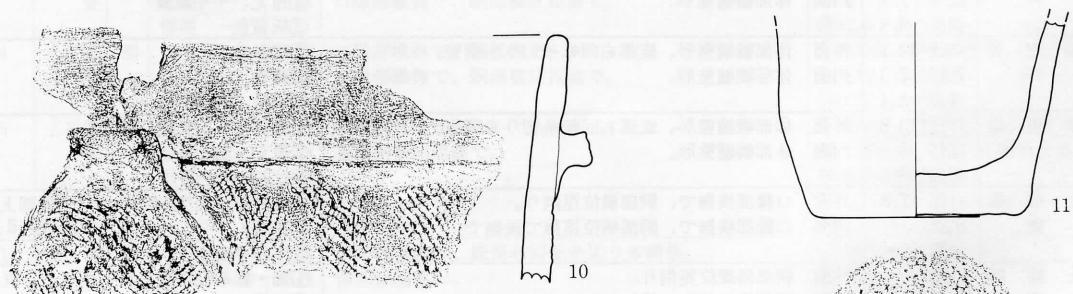
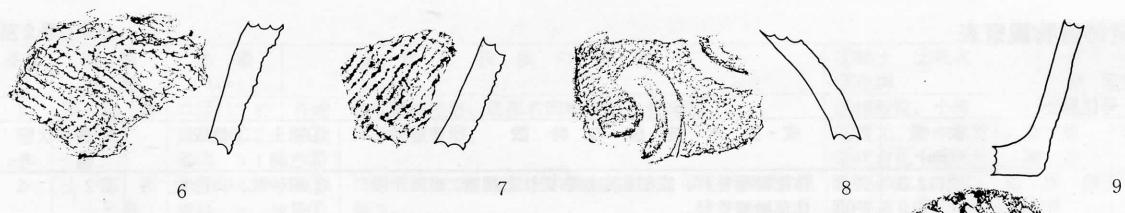
1 黒色土層。粘性があり締まっているが柔らかい。
全体に浅間D軽石を含む。

2 黒色土層。粘性があるが、締まりはなくもろい。
ロームブロックを含む。

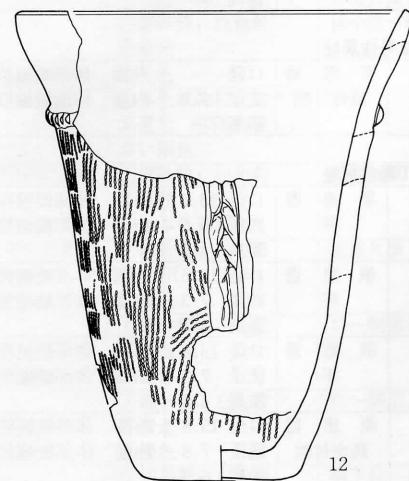
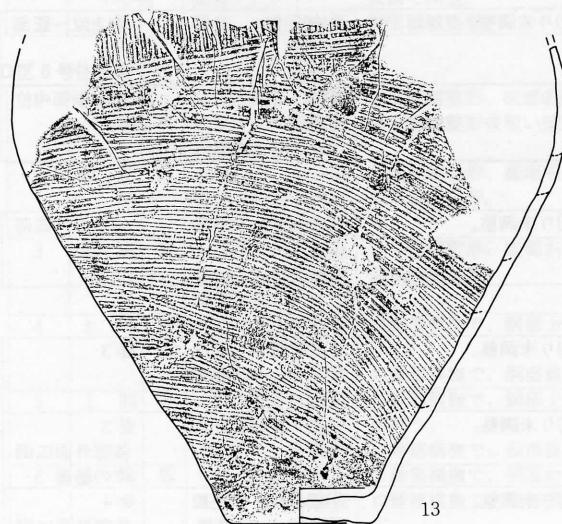
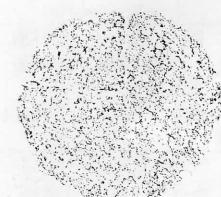
0 1 : 60 2m

4. 遺構外出土遺物

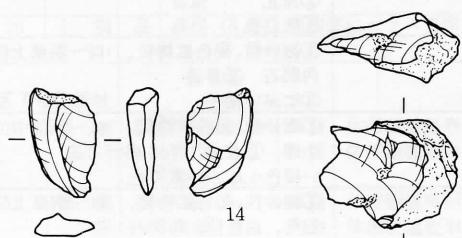
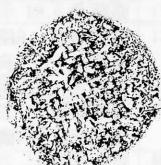




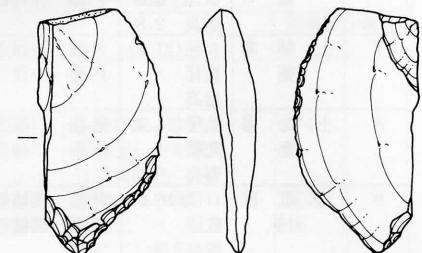
0 1 : 3 10m



0 1 : 4 10cm



15



0 2 : 3 5cm



向原遺跡遺物觀察表

堅穴住居

A区1号住居址

番号	種類 器 種	法量 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	須恵器 壺	口径(12.3) 底径 6.0 器高 4.1	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②還元 ③灰色	1/2
2	須恵器 壺	口径(13.6) 底径 7.1 器高 3.8	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒 ②還元、やや軟質 ③灰黄色	1/3
3	須恵器 壺	口径(12.1) 底径 7.3 器高 3.4	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒 ②還元 ③灰色、灰黄色	1/3
4	須恵器 高台付椀	口径(13.8) 底径 — 器高 —	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②還元、酸化気味 ③にぶい褐色	1/3
5	土師器 甕	口径 17.8 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部横位範削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位範撫で後撫で。	①細砂粒、角閃石 ②普通 ③にぶい橙色	口～胴部上位
6	土師器 甕	口径 — 底径 4.9 器高 —	外面 胴部斜綫位範削り。 内面 胴部横位範撫で後撫で。	①細・粗砂粒、白色粒 ②普通 ③にぶい褐色	胴下位～底部
7	鉄製品 鉄滓		長さ4.7、幅2.2、厚さ2.2		

B区1号住居址

1	須恵器 壺	口径 — 底径 6.0 器高 —	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒 ②還元 ③灰色	体上位～底部
2	土師器 甕	口径 18.8 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部斜横位範削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位範撫で。	①細・粗砂粒 ②普通 ③にぶい赤褐色	口～胴部中位

B区2号住居址

1	須恵器 高台付椀	口径 — 底径 7.0 器高 —	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②還元 ③灰色	体上位～底部
---	-------------	------------------------	--------------------------------------	------------------------	--------

D区1号住居址

1	須恵器 壺	口径 13.4 底径 6.6 器高 4.2	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒 ②還元、やや軟質 ③灰白色	2/3
2	須恵器 壺	口径(13.5) 底径 7.3 器高 4.4	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細・粗砂粒 ②還元 ③灰白色	2/3 体部外面に倒位の墨書
3	須恵器 壺	口径 13.8 底径 7.3 器高 4.0	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②還元 ③灰色	1/4 体部外面に倒位の墨書
4	須恵器 高台付椀	口径 15.8 底径 7.8 器高 6.5	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②還元 ③灰色	3/4
5	須恵器 高台付椀	口径 15.0 底径 — 器高 —	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒 ②還元、やや酸化気味 ③灰黄色	1/3
6	須恵器 皿	口径 12.8 底径 6.5 器高 2.8	外面 体部輥轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輥轆整形。	①細砂粒、小礫 ②還元 ③灰白色	1/4
7	土師器 甕	口径(21.6) 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部横位範削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位範撫で。	①細砂粒、褐色鉱物粒、 角閃石 ②普通 ③にぶい褐色	口～胴部上位
8	土師器 甕	口径(14.4) 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部横位刷毛目。 内面 口縁部横撫で、胴部横位範撫で。	①細砂粒、褐色鉱物粒、 小礫 ②普通 ③にぶい橙色～にぶい黄橙色	口～胴部中位
9	須恵器 羽釜	口径(18.0) 底径 — 器高 —	外面 輪轆整形、胴部輥轆整形後縦位範削り。 内面 輪轆整形。	①細砂粒、褐色鉱物粒、 石英、白色粒、角閃石 ②酸化 ③橙色～黒色	口～胴部上位

D区2号住居址

番号	種類 器種	法量 (cm)	成・整形技法の特徴		①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	須恵器皿	口径(13.8) 底径 7.2 器高 3.1	外面 体部輦轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輦轆整形。		①細砂粒、小礫 ②還元、やや軟質 ③灰白色～黄灰色	1/3
2	土師器小形甕	口径(12.4) 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部上半横位笠削り、同下半斜縦位笠削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位笠撫で。		①細砂粒、角閃石 ②普通 ③にぶい赤褐色～黒褐色	口～胴部中位
3	土師器甕	口径 17.6 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部横位笠削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位笠撫で。		①細砂粒、褐色鉱物粒、雲母、白色粒 ②普通 ③にぶい橙色	口～胴部上位
4	土師器甕	口径 21.6 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部横位笠撫で。		①細砂粒、褐色鉱物粒、白色粒 ②普通 ③にぶい赤褐色	口～胴部上位
5	土師器甕	口径 — 底径 (4.2) 器高 —	外面 胴部斜縦位笠削り。 内面 胴部斜横位笠撫で。		①細砂粒、角閃石、小礫 ②普通 ③にぶい橙色～黒褐色	胴下位～底部

D区5号住居址

1	須恵器坏	口径(13.0) 底径 (5.8) 器高 4.0	外面 体部輦轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輦轆整形。	①細砂粒、小礫、黒色鉱物粒、白色粒 ②還元 ③灰色	1/4
2	須恵器小形甕	口径 13.2 底径 — 器高 —	外面 胴部輦轆整形後横位カキ目。 内面 胴部輦轆整形。	①細砂粒、褐色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい橙色～橙色	口～胴部中位
3	須恵器小形甕	口径 — 底径 7.6 器高 —	外面 胴部輦轆整形後上半部横位カキ目、底部右回転糸切り後撫で調整。 内面 胴部輦轆整形。	①細砂粒、褐色鉱物粒 ②酸化 ③橙色～にぶい橙色	胴中位～底部

D区6号住居址

1	黒色土器坏	口径 12.7 底径 5.3 器高 3.8	外面 体部輦轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輦轆整形後粗い放射状笠研磨。	①細・粗砂粒 ②酸化 ③にぶい褐色	口縁一部欠損 内面黒色処理 外面に墨書き
2	須恵器坏	口径 — 底径 (6.8) 器高 —	外面 体部輦轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輦轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②還元 ③灰色	体中位～底部
3	須恵器高台付椀	口径(14.0) 底径 7.8 器高 5.7	外面 体部輦轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輦轆整形。	①黒色鉱物粒、白色粒 ②還元 ③灰白色～にぶい褐色	2/3
4	土師器甕	口径 20.2 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部上半横位笠削り、同下半斜縦位笠削り。 内面 口縁部横撫で、胴部笠撫で後撫で。	①細砂粒、白色粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	底部欠損
5	土師器甕	口径 20.6 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部上位横位笠削り、中～下位斜縦位笠削り。 内面 口縁部横撫で、胴部笠撫で後撫で。	①細砂粒、白色粒 ②良好 ③橙色	底部欠損
6	土師器甕	口径 17.8 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部斜横位笠削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位笠撫で後撫で。	①細砂粒、白色粒 ②普通 ③橙色	口～胴部中位
7	土師器甕	口径 19.6 底径 — 器高 —	外面 口縁部横撫で、胴部横位笠削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位笠撫で。	①細砂粒、白色粒 ②普通 ③橙色	口～胴部上位
8	土師器甕	口径 — 底径 4.6 器高 —	外面 胴部斜縦位笠削り。 内面 胴部横位笠撫で後撫で。	①細砂粒、白色粒 ②普通 ③橙色	胴下位～底部
9	須恵器壺	口径 14.6 底径 — 器高 —	外面 輨轆整形。 内面 輢轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②酸化氣味 ③灰色～にぶい黄橙色	口縁部
10	土製品羽口	直径 (8.2)	先端部にガラス質熔着。		先端部小破片

D区7号住居址

1	須恵器高台付椀	口径(13.6) 底径 5.8 器高 5.1	外面 体部輢轆整形、底部回転糸切り後周辺部撫で調整。 内面 体部輢轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②還元、やや軟質 ③浅黄橙色	1/4
2	須恵器坏	口径 — 底径 6.4 器高 —	外面 体部輢轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輢轆整形。	①細・粗砂粒 ②還元 ③にぶい橙色	底部
3	須恵器坏	口径 — 底径 6.4 器高 —	外面 体部輢轆整形、底部回転糸切り未調整。 内面 体部輢轆整形。	①粗砂粒 ②還元 ③灰黄色	底部

番号	種類 器種	法量 (cm)	成・整形技法の特徴		①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
4	須恵器 高台付椀	口径 一 底径 6.8 器高 一	外面 内面	体部輶軸整形、底部右回転糸切り未調整。 体部輶軸整形。	①細砂粒、黒色鉱物粒 ②還元 ③灰白色	体中位～底部
5	土師器 甕	口径(19.5) 底径 一 器高 一	外面 内面	口縁部横撫で、胴部横位箄削り。 口縁部横撫で、胴部横位箄撫で後撫で。	①細砂粒、白色粒 ②普通 ③にぶい赤褐色	口～胴部上位
6	土師器 甕	口径 一 底径 4.8 器高 一	外面 内面	胴部斜縦位箄削り。 胴部箄撫で後撫で。	①細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒 ②普通 ③明赤褐色	胴下位～底部
7	須恵器 甕	口径(14.6) 底径 一 器高 一	外面 内面	胴部輶軸整形後、下半部縦位箄削り。 胴部輶軸整形。	①細砂粒 ②酸化 ③にぶい黄橙色・褐色	口～胴部中位
8	石製品 砥石		長さ(9.8)、幅4.5、厚さ 3.3 4面を使用し、線条痕が認められる。			デイサイト

D区8号住居址

1	黒色土器 坏	口径 14.2 底径 4.8 器高 4.3	外面 内面	体部輶軸整形、底部右回転糸切り未調整。 体部輶軸整形後横位箄研磨後、幅の広い放射状箄研磨。	①細砂粒、褐色鉱物粒、 白色粒、小礫 ②酸化 ③にぶい橙色～黒色	3/4 内面黒色処理
2	須恵器 坏	口径 13.0 底径 5.5 器高 3.8	外面 内面	体部輶軸整形、底部右回転糸切り未調整。 体部輶軸整形。	①細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒 ②還元 ③灰色	2/3
3	須恵器 坏	口径(13.8) 底径 (7.0) 器高 4.0	外面 内面	体部輶軸整形、底部回転糸切り未調整。 体部輶軸整形。	①細砂粒、黒色鉱物粒 ②還元 ③灰白色	1/5 内外面に火燐 痕
4	須恵器 坏	口径 14.0 底径 一 器高 一	外面 内面	体部輶軸整形。 体部輶軸整形。	①細砂粒、微細雲母 ②燻し焼成 ③黒色	口～体部下位 体部内面に線 刻
5	須恵器 高台付椀	口径 14.7 底径 6.0 器高 5.3	外面 内面	体部輶軸整形、底部右回転糸切り未調整。 体部輶軸整形。	①細砂粒、黒色鉱物粒、 小礫、石英、白色粒 ②還元 ③黄灰色	2/3
6	須恵器 皿	口径 12.8 底径 一 器高 一	外面 内面	体部輶軸整形、底部右回転糸切り未調整。 体部輶軸整形。	①細砂粒、褐色鉱物粒、 白色粒、小礫 ②還元 ③灰色	高台部欠損
7	土師器 小形甕	口径(11.6) 底径 一 器高 一	外面 内面	口縁部横撫で、胴部横位箄削り。 口縁部横撫で、胴部横位箄撫で。	①細砂粒、角閃石 ②普通 ③にぶい黄橙色	口～胴部中位
8	土師器 甕	口径 19.6 底径 一 器高 一	外面 内面	口縁部横撫で、胴部縦位箄削り。 口縁部横撫で、胴部横位箄撫で。	①細・粗砂粒、角閃石 ②普通 ③橙色～にぶい黄褐色	口～胴部上位
9	土師器 甕	口径 17.9 底径 一 器高 一	外面 内面	口縁部横撫で、胴部横位箄削り。 口縁部横撫で、胴部横位箄撫で。	①細砂粒、微細雲母 ②普通 ③橙色	口～胴部上位
10	土師器 甕	口径 一 底径 4.8 器高 一	外面 内面	胴部縦位箄削り。 胴部中位横位箄撫で、同下半縦位箄撫で。	①細・粗砂粒、小礫 ②普通 ③黒褐色	胴中位～底部
11	鉄製品 鎌		長さ8.5、幅5.3、厚さ0.2			両端部欠損

D区9号住居址

1	黒色土器 坏	口径 13.2 底径 6.0 器高 3.7	外面 内面	体部輶軸整形、底部全面に右回転箄削り。 体部輶軸整形後幅の広い放射状箄研磨。	①細砂粒、褐色鉱物粒、 白色粒 ②酸化 ③橙色～黒色	1/4 内面黒色処理
2	黒色土器 坏	口径 一 底径 6.2 器高 一	外面 内面	体部輶軸整形、底部全面に右回転箄削り。 体部輶軸整形後幅の広い放射状箄研磨。	①細砂粒、白色粒 ②酸化 ③にぶい橙色 ～黒色	1/2 内面黒色処理 外面に墨書き
3	黒色土器 坏	口径 一 底径 一 器高 一	外面 内面	体部輶軸整形。 体部輶軸整形後箄研磨。黒色処理。	①細砂粒 ②酸化 ③にぶい褐色	破片 体部外面に横 位の墨書き
4	須恵器 坏	口径 13.2 底径 6.0 器高 3.9	外面 内面	体部輶軸整形、底部右回転糸切り未調整。 体部輶軸整形。	①細砂粒、褐色鉱物粒、 小礫 ②還元、やや軟 質 ③灰白色～黒色	2/3
5	土師器 甕	口径(19.6) 底径 一 器高 一	外面 内面	口縁部横撫で、胴部縦位箄削り。 口縁部横撫で、胴部横位箄撫で。	①細砂粒、小礫、褐色 鉱物粒 ②普通 ③にぶい橙色	口～胴部下位
6	土師器 甕	口径(20.2) 底径 一 器高 一	外面 内面	口縁部横撫で、胴部上位斜横位箄削り、同中位斜縦位 箄削り。 口縁部横撫で、胴部横位箄撫で。	①細砂粒、褐色鉱物粒、 白色粒、小礫 ②普通 ③にぶい黄橙色	口～胴部中位

番号	種類 器種	法量 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
7	須恵器 小形甕	口径(8.4) 底径一 器高一	外面 胴部輶轆整形後横位カキ目。 内面 胴部輶轆整形。	①細砂粒、褐色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい橙色	口～胴部中位
8	須恵器 瓶	口径一 底径10.6 器高一	外面 胴部輶轆整形。 内面 胴部輶轆整形。	①細砂粒、小礫、黒色 鉱物粒 ②還元 ③灰白色	胴下位～底部
9	須恵器 甕	口径一 底径(14.0) 器高一	外面 胴部輶轆整形。 内面 胴部輶轆整形。	①細砂粒、黒色鉱物粒、 白色粒 ②還元 ③灰色～黒色	胴部下位
10	鉄製品 鍊		長さ11.7、幅2.7、厚さ0.4 刃部先端が折れ曲がる。		茎部欠損
11	鉄製品 鉄滓		長さ6.8、幅5.5、厚さ3.3		
12	鉄製品 鉄滓		長さ4.0、幅4.0、厚さ3.5		

遺構出土遺物 (1~3: 18トレンチ 4: 22トレンチ 5~7: 41トレンチ)

1	黒色土器 坏	口径 13.6 底径 5.2 器高 4.8	外面 体部輶轆整形後、下位横位箇削り、底部撫で調整。 内面 体部輶轆整形後箇研磨。剥落により研磨方向は不明。	①細砂粒、小礫 ②酸化 ③にぶい橙色	1/2 内面黒色処理
2	黒色土器 坏	口径 12.5 底径 5.8 器高 4.0	外面 体部輶轆整形、底部撫で調整。 内面 体部輶轆整形、口縁部横位箇研磨、体部幅の広い縦位 箇研磨。	①細・粗砂粒、褐色鉱 物粒 ②酸化 ③橙色	1/2 内面黒色処理
3	黒色土器 坏	口径 15.1 底径 5.9 器高 5.0	外面 体部輶轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輶轆整形後幅の広い放射状箇研磨。	①細砂粒、褐色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい橙色	3/4、内面黒 色処理、外面 2個所に墨書
4	黒色土器 坏	口径 15.0 底径 5.8 器高 4.7	外面 体部輶轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輶轆整形、体部方向不明の箇研磨。	①細砂粒、白色粒 ②酸化 ③橙色	1/2 内面黒色処理
5	須恵器 坏	口径 13.9 底径 7.0 器高 4.4	外面 体部輶轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輶轆整形。	①細・粗砂粒、白色粒 ②還元 ③灰色	ほぼ完形 底部内面器面 剥落
6	須恵器 高台付椀	口径 13.5 底径 7.1 器高 5.2	外面 体部輶轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輶轆整形。	①細砂粒、小礫 ②還元 ③灰色	口縁一部欠損
7	須恵器 高台付椀	口径 15.5 底径 8.0 器高 4.8	外面 体部輶轆整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 体部輶轆整形。	①細砂粒、白色粒 ②還元 ③灰色	口縁一部欠損 底部外面に墨 書

向原遺跡縄文土器観察表

堅穴住居

B区5号住居址

番号	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素	文様構成・文様施文・器形の特徴	備考
1	①粗砂粒 ②良好 ③黄褐色 ④口 縁部	隆帶、沈線、凹線	僅かに外傾する平口縁の深鉢。口縁部に沿って隆 帶を巡らせ、隆帶に沿って沈線を施す。下位の沈 線は垂下し、区画文状の文様を構成。口縁部内面 に指先で引いたような凹線を巡らす。	堀之内1式

C区1号住居址

1	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④口縁～胴部下位	沈線、列点、貼付、繩 文(R)、凹線	口縁部に5単位の山形小突起があり、そのうちの 2個所に口縁部に沿った凹線を施す。頸部には1 列の列点文を巡らし、小突起部から胴部上半まで 「8」字状の貼付文を施す。胴部には沈線で弧状の 文様を描き、沈線間に繩文を充填施文後沈線の引 き直し。	堀之内1式
2	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④頸部～胴部下位	沈線、繩文(LR)	胴部中位に強い括れをもつ深鉢。曲線的な沈線で 器面を6単位に縦区画し、区画内に「J」字状など の文様を沈線で描く。区画内には交互に繩文が充 填施文され、無文部においては「J」字状の文様内 に繩文を施す。	称名寺1
3	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、繩文(RL)	沈線で文様区画し、沈線間に繩文を充填施文。	称名寺1
4	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、繩文(LRL)	沈線で文様区画し、区画内に繩文を充填施文。沈 線は繩文充填後に引き直し。	称名寺1
5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、繩文(LR)	沈線で「J」字状文を施し、区画内に繩文を充填施 文。	称名寺1

番号	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素	文様構成・文様施文・器形の特徴	備考
6	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④胴部	縄文(LR)		後期
7	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④胴部	縄文(RL?)	不明	
8	①粗砂粒 ②普通 ③黒褐色 ④胴部	沈線、列点	2条の沈線で文様を描き、沈線間に列点文を施す。	称名寺2
9	①粗砂粒 ②普通 ③黒褐色 ④胴部	沈線、列点	2条の沈線で文様を描き、沈線間に列点文を施す。	称名寺2
10	①粗砂粒 ②普通 ③黒褐色 ④胴部	沈線	沈線で文様を描く。堀之内式	
11	①粗砂粒 ②普通 ③明褐色 ④胴部	隆帯	断面三角形の隆帯を垂下。	不明
12	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④底部		底部。	不明
13	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④底部		底部。	不明
14	①細砂粒 ②不良 ③明赤褐色・灰褐色 ④底部		中央部が僅かに窪み、周辺部が摩滅。	不明
15	敲石		長さ7.7、幅7.7、厚さ3.9	安山岩(粗粒)
16	敲石		長さ8.0、幅7.2、厚さ3.9	安山岩(粗粒)
17	敲石		長さ5.7、幅5.1、厚さ3.2	安山岩(粗粒)
18	敲石		長さ5.8、幅4.3、厚さ4.0	安山岩(粗粒)

C区2号住居址

1	①粗砂粒 ②普通 ③褐灰色・にぶい黄橙色 ④頸部～底部	沈線、刺突、縄文(LR)	胴部の張りの強い大形の深鉢。頸部に3条単位の平行沈線と円形刺突文を施す。胴部文様は上半に集約され、4条単位の沈線で縦区画。各区画内には2～4条の沈線で渦巻や三角形状の文様を描き沈線以外の部分に縄文を充填施文。	堀之内1式
2	①細砂粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④口縁部	隆帯、沈線、刺突	外面に沈線で1対の小渦巻を施し、上部には円孔に沿って沈線と円形刺突文を施す。内面側には横位「S」字状の隆帯を貼付。	堀之内1式
3	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④口縁部	隆帯、沈線、縄文(RL)	口縁部が反り気味に直立する甕形の深鉢。口縁部外面に円形刺突文を施した小突起をもち、小突起部と頸部隆帯間に「J」字状の把手を貼付。胴部外面に縄文施文。	堀之内1式
4	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④口縁部	隆帯、沈線、貼付	外反する口縁部で、上端は「く」字状に内傾。突起は粘土紐で橋状に作り、側面にもスリット状の透かしが入る。突起内面に5個所、側面に2個所の円形貼付文を施す。口縁突起部から下位に隆帯と沈線で構成された「J」字状の文様を施し、さらに下方に延びる隆帯との接点に円形貼付文を施す。	堀之内1式
5	①細砂粒 ②普通 ③明黄褐色 ④口縁部	隆帯、沈線、刺突	口縁部に弱い突起をもつ深鉢。突起部中央に円孔を穿ち、円孔を囲むように沈線と円形刺突文を配置。頸部は無文。	堀之内1式
6	①粗砂粒 ②普通 ③黒褐色 ④口縁部	沈線、貼付	口縁部に突起をもつ深鉢。突起中央に円孔が穿孔され、突起上部内面及び両側に内面、口唇平坦部に円孔をもつ円形貼付文を施す。胴部外面には突起部から数条の沈線を垂下。	堀之内1式
7	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④口縁部	隆帯、沈線	山形の突起をもつ深鉢。突起中央に円孔を穿ち、上部に突起外縁に沿って帶状の刺突を施す。口縁部外面の突起間に1条の沈線を施し、突起部から下位に隆帯を施す。	堀之内1式
8	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④口縁部	隆帯、沈線、貼付、縄文(LR)	口縁部に小突起、胴部中位に括れをもつ深鉢。口縁部に沿って細沈線と微隆帯を巡らせ、小突起から口縁部隆帯間に1対の円形刺突を施した隆帯を貼付し「8」字状文を構成。「8」字状文下位には、一部沈線を沿わせた微隆帯で「J」字状の文様を施文し、内側を研磨。縄文は充填施文。	堀之内1式?
9	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色・明褐色 ④口縁部	隆帯、沈線、刺突、縄文(LR)	口縁部が「く」字状に短く外反し、胴部に張りのある器形で、頸部に「8」字状の隆帯を縦位に貼付。沈線で帶状の文様区画をし、区画内に円形刺突及び縄文を充填施文。円形刺突文施文後上面に弱い撫でを施し、表面に僅かな光沢。	堀之内1式
10	①粗砂粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④頸部	隆帯、沈線	甕形の深鉢。「8」字状に隆帯を貼付し、横位に沈線を施す。「8」字状の隆帯上は研磨され僅かに光沢がある。	堀之内1式
11	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	3条の平行沈線を施し縄文を充填施文。	堀之内1式

番号	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存 ①粗砂粒 ②普通 ③黒褐色 ④胴部	文様要素 沈線、縄文(LR)	文様構成・文様施文・器形の特徴 沈線と沈線間を研磨した磨消帶で文様区画し、区画内に縄文を充填施文。沈線は縄文充填後に引き直し。	備考 堀之内式
12	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	2~3条の沈線で縦位に区画され、区画内に縄文を縦位に施文。外面下半部に横位の研磨が顕著。	堀之内1式
13	①粗砂粒 ②普通 ③橙色 ④胴部	沈線	数条の沈線で器面を縦位区画。沈線部分は研磨後沈線の引き直し。沈線間の縄文施文の有無は器面が摩滅して不明。	不明
15	①細砂粒 ②良好 ③褐色 ④胴部	沈線	横位及び縦位の沈線施文。	堀之内式?
16	①粗砂粒 ②普通 ③黒褐色 ④胴部	隆帯、沈線、刺突	円形刺突を1個所に施した隆帯を縦位に貼付し、平行沈線で直線的及び渦巻状の文様を構成。沈線施文後に器面全体に縦位の難な研磨を施す。	堀之内1式
17	①細砂粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④胴部	沈線、縄文	沈線で文様を描き、区画内に縄文を充填施文。	堀之内1式
18	①粗砂粒・褐色粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(L)	やや深めの沈線で文様を描き、縄文を充填施文。	堀之内1式
19	①細砂粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	沈線で文様区画し、区画内に縄文を充填施文。	後期
20	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(RL)	沈線で文様区画し、区画内に縄文を充填施文。沈線間の研磨と縄文充填後、沈線の引き直し。	堀之内1式
21	①細砂粒 ②普通 ③黒褐色・明黄褐色 ④胴部	沈線、刺突、縄文(RL)	沈線で曲線的な文様を描き、縄文を充填施文。	堀之内1式
22	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	沈線で弧状に文様区画し、区画内に縄文を充填施文。	不明
23	①粗砂粒 ②普通 ③暗褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	沈線で渦巻文を施し、縄文を充填施文。	堀之内1式
24	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④胴部	沈線、縄文	深鉢。沈線で渦巻状に文様区画し、縄文を充填施文。	堀之内1式
25	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR?)	沈線で渦巻文を施し、縄文を充填施文。	堀之内1式
26	①細砂粒 ②良好 ③褐灰色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	沈線施文後縄文を施文。	堀之内1式
27	①粗砂粒 ②不良 ③暗褐色 ④胴部	沈線、刺突	巾の広い沈線で渦巻状の文様を描き、円形刺突文を施す。	堀之内1式
28	①粗砂粒 ②良好 ③暗褐色 ④胴部	沈線、縄文(RL)	縄文施文後、数条の沈線を弧状に施す。	堀之内1式
29	①細砂粒 ②普通 ③灰褐色 ④胴部	沈線、縄文(L)	やや幅の広い沈線で文様を描き、縄文を充填施文。	不明
30	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	隆帯、沈線、凹線	隆帯、沈線、凹線の組み合わせで「J」字状の文様を描く。	堀之内1式?
31	①細砂粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④口縁部	沈線	口縁部上端が「く」字状に短く内傾し、内傾部外面に1条の沈線を施す。口縁部内外に横位の研磨を施す。	堀之内1式
32	①細砂粒・褐色粒 ②普通 ③黒褐色 ④胴部	沈線、列点	横位平行沈線間に列点文を施す。	堀之内1式
33	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④口縁部	沈線、縄文(RL)	内面に三角形状に突出する鋭い口唇部をもつ。外面は沈線で帯状に区画し、区画内に縄文を充填施文。	堀之内2式
34	①細・粗砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④口縁部	沈線、刺突	平口縁で内面に2条の沈線を巡らす。外面は器面の研磨後、沈線で幾何学的な文様を区画し、区画内に刺突文を充填。口縁部下には沈線で「工」字状の文様を描く。口縁部内面に炭化物付着。	堀之内2式?
35	①細砂粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④胴部	隆帯、縄文(LR)	断面三角形の微隆帯で文様区画し、区画内に縄文を充填施文。	加曾利E 4
36	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④口縁部	隆帯	平口縁の深鉢。口縁部下に指先の押圧を施した隆帯を1本巡らす。	堀之内?
37	①粗砂粒 ②普通 ③明褐色 ④胴部	隆帯	指先による押圧を施した隆帯1本を横位に巡らす。	堀之内?
38	①粗砂粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④胴部	隆帯	指先でつまみ上げた痕跡のある隆帯1本を横位に貼付。	後期
39	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④胴部	隆帯、縄文(LR)	僅かに隆帯が残存するが、文様構成は不明。縄文は横位施文。	不明
40	①粗砂粒 ②普通 ③黄橙色 ④口縁部	沈線、縄文	口縁部に併列する小突起をもつ。沈線で横位帯状に区画し、区画内に縄文を施文。	後期
41	①粗砂粒・白色粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	沈線を横位に施し、下位に縄文の施文方向を変えた羽状縄文を施す。	不明
42	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	幅の広い沈線で文様区画し、区画内に縄文を充填施文。	不明
43	①粗砂粒 ②良好 ③橙色 ④胴部	沈線、縄文(LRL)	沈線で逆「U」字状に文様区画し、区画内に縄文を充填施文。沈線は縄文充填後に引き直し。	後期?

番号	文様要素	文様構成・文様施文・器形の特徴	備考
44	①細砂粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④口縁部	沈線、縄文(LR)、凹線 口縁部が短く内傾し、内面に凹線を巡らす。外面は屈曲部直下から2条の幅広の沈線を垂下し、沈線間に縄文を縦位に充填施文。	称名寺?
45	①細砂粒 ②普通 ③黒褐色 ④口縁部～胴部1/4	沈線、縄文(RL)	胴部中位に強い括れをもち、口縁部が外反する深鉢。口縁部内面が肥厚し、1条の沈線を施す。外面は口縁部に1帯の無文帶をもち、沈線区画の無文帶で、胴の括れ部を境に上下2帯の「J」字状文を施し、区画内に縄文を充填施文。
46	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	刺突	管状の刺突具による刺突を不規則に施す。
47	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	隆帯、縄文(RL)	断面三角形の隆帯を貼付後、縄文施文。縄文は施文方向を変え、羽状構成の部分がある。
48	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④口縁部	隆帯	平口縁の大形深鉢で、隆帯で渦巻状の文様を描く。
49	①粗砂粒 ②普通 ③黒褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	縄文を縦位施文後、半截竹管状の施文具で平行沈線を垂下。外面に炭化物付着。
50	①細砂粒 ②不良 ③にぶい黄褐色 ④底部		底部に網代痕。内面に炭化物付着。
51	石匙		長さ3.0、幅3.5、厚さ0.7
52	楔形石器		長さ1.6、幅1.4、厚さ0.3
53	打製石斧		長さ10.7、幅4.3、厚さ1.9
54	打製石斧		長さ10.7、幅6.5、厚さ3.0
55	多孔石		長さ17.7、幅17.9、厚さ8.9
56	石皿		長さ10.4、幅9.6、厚さ7.7
57	浮子		長さ6.0、幅5.1、厚さ2.0
58	浮子		長さ5.7、幅4.1、厚さ2.1

C区3号住居址

1	①粗砂粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④口縁部	隆帯	口縁部が平坦で外面は肥厚し、肥厚部から1本の隆帯を垂下。隆帯と口縁部の接点には、円形の押圧を施す。内外面研磨。	堀之内式
2	①粗砂粒・白色粒 ②普通 ③褐灰色 ④口縁部	隆帯、凹線、縄文(RL)	隆帯と凹線で区画文を構成すると思われ、区画内に縄文を充填施文後、隆帯に沿って撫で。	加曾利E 3
3	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄橙色 ④口縁部	凹線	波状口縁で、内面に2条の凹線を施す。	堀之内式
4	①細・粗砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④口縁部	条痕	口縁部は内湾し、口唇部が僅かに内側に突出。外面上に弱い条痕を施す。	不明
5	①細砂粒・白色粒 ②良好 ③暗褐色 ④口縁部	沈線	小突起をもつ口縁部で上端が「く」字状に内傾。小突起部には円孔が穿たれ、この円孔から口縁部に沿って沈線を施す。口縁部内外面共に研磨を施す。	堀之内1式
6	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④胴部	沈線、縄文(LR)	沈線で文様を描き、区画内に縄文を充填施文。沈線は縄文充填後に引き直し。	堀之内1式
7	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄橙色 ④胴部	沈線、縄文(RL)	沈線で文様構成し、縄文を縦位施文。	不明
8	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④胴部	凹線、刺突	凹線を円形刺突で文様構成し、器面に丁寧な研磨。	堀之内1式
9	①粗砂粒・褐色粒 ②不良 ③明褐色 ④胴部	条線	器面を粗く研磨後、斜位の条線を施す。	堀之内式
10	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい褐色 ④底部		周辺部が平滑な底部。	不明

C区6号住居址

1	縄文(LR)	縄文を斜位に施文。	不明
2	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④完形	沈線、縄文(LR)	土製円板。平行沈線間に縄文を充填施文した胴部の転用。
3	①細砂粒・細礫 ②普通 ③明赤褐色 ④胴部	沈線、縄文(RL)	平行沈線間に縄文を充填施文。
4	磨製石斧		長さ1.9、幅1.3、厚さ0.4
5	二次加工ある剝片		長さ7.7、幅4.1、厚さ1.2

C区1号埋甕

番号	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素	文様構成・文様施文・器形の特徴	備考
1	①粗砂粒・雲母 ②普通 ③橙色 ④口縁～胴部中位	隆帶、沈線、条線	胴部中位に弱い括れをもつ深鉢。口縁部文様帯は中央に沈線を施した隆帶を、弧状に連結して区画文を形成し、隆帶の連結部は突出する小渦巻文。口縁部区画文内は、縦位に平行沈線を充填後、隆帶に沿って沈線を橢円形に施す。胴部中位には2本の隆帶を横位に巡らせ、口縁部小渦巻突起から2本の隆帶を垂下させ4単位の「十」字状文様を構成し、交叉部に小渦巻突起を配置。胴部下半の隆帶区画内にはさらに2本の隆帶を垂下させ、間に一部矢羽根状になる条線を施す。	加曾利E 3

C区2号埋甕

1	①粗砂粒・細礫 ②普通 ③黄褐色 ④胴部下位	隆帶、沈線、凹線、列点、条線	胴部の括れ部に3帯の隆帶を巡らし、さらに3帯の隆帶で縦位に区画。区画内は隆帶と蛇行沈線で「十」字状に区画し、各区画内には縦位条線と3～5条単位の弧状の平行沈線を充填。隆帶の一部は小渦巻と剣先状を呈し、隆帶間に平行沈線を充填。横位隆帶上部には両側に列点文を伴う1条の沈線を弧状に施す。	曾利II?
---	---------------------------	----------------	---	-------

土坑

B区14号土坑

1	①細砂粒・白色粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④口縁部	隆帶、沈線、刺突、繩文(RL)	口縁部に突起をもつ深鉢。口縁部の断面は、三角形。口縁部に沿って1条の沈線と断面三角形の隆帶を施し、間に2列の円形刺突文を充填。口縁部隆帶下に微隆帶を弧状に施して区画文を構成し区画内に繩文を充填。	称名寺1式
---	------------------------------	-----------------	---	-------

B区23号土坑

1	①細砂粒 ②普通 ③橙色 ④胴部	沈線、繩文(LR)	胴部中位に強い括れをもつ深鉢。懸垂沈線と横位「C」字状及び逆位「U」字状の沈線の組み合わせで器面を5単位に縦位区画し、区画内に「J」字文を施し、残りの部分に繩文を充填施文。	後期
2	①粗砂粒・細礫 ②普通 ③褐色 ④底部		深鉢。底部中央に網代の痕跡を残し、周辺は磨滅して光沢をもつ。	不明

C区26号土坑

1	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④口縁部	沈線、貼付、刺突、繩文(LR)	口縁部が外反し、胴部が張りをもつ壺形の深鉢。口縁部には小突起があり、突起部外面に円形刺突を施し、刺突を左右に連結するように1条の沈線を施す。頸部には鎖状浮線文のような隆帶を巡らし、小突起下に円形貼付文を施す。胴部の文様は沈線で描き、繩文を充填施文。	堀之内1式 胴部外面に炭化物付着
2	①細砂粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④口縁部	凹線	波状の口縁部で、内傾する口縁部外面に1条の凹線を施す。外面に密な研磨。	堀之内1式

D区1号土坑

1	石鏽		長さ4.5、幅1.7、厚さ0.6	安山岩(粗粒)
---	----	--	------------------	---------

D区4号土坑

1	①粗砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④口縁部	沈線、繩文(LR)	胴部上位に張りをもち、口縁部が弱く外反する壺形で、頸部に平行沈線を巡らし沈線間を研磨。口縁部は平口縁で刻みを施した小突起を貼付後、繩文を横位に施文し、さらに突起間に深い沈線を1条施す。胴部は繩文の横位施文。	安行II 胴部外面に炭化物付着
2	石鏽		長さ3.4、幅1.6、厚さ4.5	頁岩

D区14号土坑

1	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④口縁部	沈線	口縁部に山形小突起をもち、口縁部に沿って4条の雑な沈線を巡らす。	加曾利B
2	①細砂粒 ②良好 ③暗灰黄色 ④口縁部	沈線	鋭い沈線で幾何学的な文様を描く。外面は沈線施文後研磨を施す。赤彩を施したミニチュア土器。	不明
3	①粗砂粒 ②良好 ③暗灰黄色 ④胴部	沈線	斜位の平行沈線施文後、横位沈線を施す。	加曾利B
4	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	条線	外面に縦位の条線を施文。	不明
5	①粗砂粒 ②普通 ③暗褐色 ④底部		木葉痕の底部。	不明
6	①細砂粒・白色粒 ②良好 ③灰黄色 ④底部		網代痕の底部。	不明

D区15号土坑

番号	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素	文様構成・文様施文・器形の特徴	備考
1	①粗砂粒 ②普通 ③黄褐色 ④胴部	沈線、列点	2条単位の細沈線と列点文を併列させ、平行の鋭い刻みを施す。赤彩。	弥生?
2	①細砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④胴部	条痕	横位～斜位の細かな条痕を施す。外面に炭化物。	弥生?
3	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④底部	条痕	外面に斜位～縦位の細かな条痕を施す。底部に網代痕。	弥生?

遺構外出土遺物 (1: A区 2~9: B区 10~12~14: C区 11: D区)

1	①粗砂粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④口縁部	沈線、条痕	口縁部が外反気味に直立し、肩部に弱い張り。肩部から下位は斜位の条痕を施し、口縁部との境に3条の平行沈線を巡らせた後に口縁部内外面に斜位の細な箒研磨。胴部に単位不明の沈線を垂下。口縁部外面に炭化物付着。	弥生?
2	①繊維 ②普通 ③にぶい赤褐色 ④胴部	条痕	表裏に条痕施文。2-3と同一個体。	早期
3	①繊維 ②普通 ③にぶい赤褐色 ④底部	条痕	尖底。表裏に条痕施文。	早期
4	①繊維 ②普通 ③にぶい赤褐色 ④胴部	条痕	表裏に条痕施文。2-2と同一個体。	早期
5	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい黄褐色 ④口縁部	隆帯、沈線	山形の突起をもつ深鉢。突起部外面に「C」字状の沈線を施し、中央に円孔を穿孔。突起間に口縁部に沿って1条の沈線を施し、円孔下に1本の隆帯を垂下。口縁部内面に凹線を施文。	堀之内1式
6	①繊維 ②普通 ③にぶい赤褐色 ④胴部	縄文(RL)	深鉢。縄文を羽状に施す。	黒浜
7	①繊維 ②普通 ③にぶい赤褐色 ④胴部	縄文(RL)	深鉢。縄文を縦位に施す。	黒浜
8	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい褐色 ④口縁部	沈線、縄文(LRL?)	深鉢。沈線で小渦巻状の無文帯を施し、縄文充填後沈線の引き直し。	堀之内1式
9	①粗砂粒・白色粒 ②普通 ③にぶい赤褐色 ④底部		深鉢。底部に網代痕。外面撫で、内面磨滅。	不明
10	①粗砂粒 ②良好 ③暗褐色 ④口縁部	隆帯、縄文(RL)	口縁部はやや直線的に立ち上がる平縁の深鉢。口縁部直下に帯を設け、胴部は横位に隆帯を巡らし、小突起から2本の隆帯を梢円状の丸みをもって垂下。全体に縄文(RL)を横・縦方向にやや雜に充填。	加曾利E4
11	①粗砂粒 ②普通 ③黒褐色・明褐色 ④胴部1/4		網代痕の底部。	不明
12	①粗砂粒 ②普通 ③にぶい赤褐色 ④口縁～底部1/3	隆帯、燃糸(R)	口縁部が僅かに開く深鉢で、胴部との境に縦の刻目を施した1帯の隆帯を貼付。口縁部は無文で、口唇部は平坦。胴部にはねじりを加えた様な粘土紐を垂下させた後、全面に燃糸施文。	三原田式
13	①粗砂粒、礫 ②普通 ③黒褐色 ④胴上位～底部1/3	条痕	胴上部でふくらみを持つ甕、頸部縦方向の条痕を施し、横条線を巡らす。胴部斜め方向の条痕。胴部、頸部、肩部横方向の施文順序。底部網代痕。	弥生前期末 岩櫃山式
14	使用痕のある剝片		長さ1.9、幅1.3、厚さ0.4	黒曜石
15	使用痕のある剝片		長さ2.3、幅2.7、厚さ1.3	黒曜石
16	スクレイパー		長さ6.3、幅3.7、厚さ1.0	頁岩

図版 1

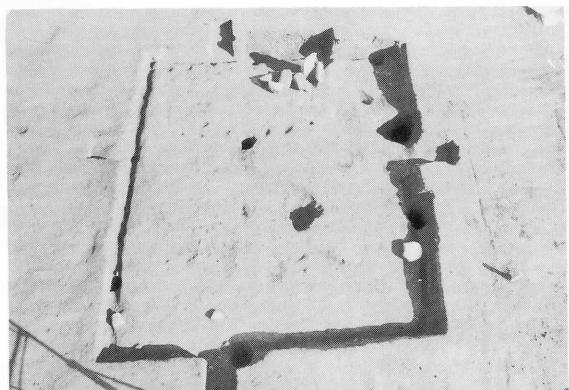


遺跡遠景



遺跡全景

图版 2



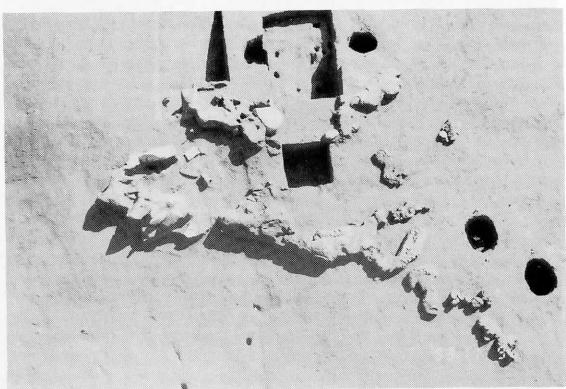
A区1号住居



A区1号住居竈



B区1号住居



B区1号住居竈



B区2号住居



B区2号住居



B区5号住居



B区8号住居

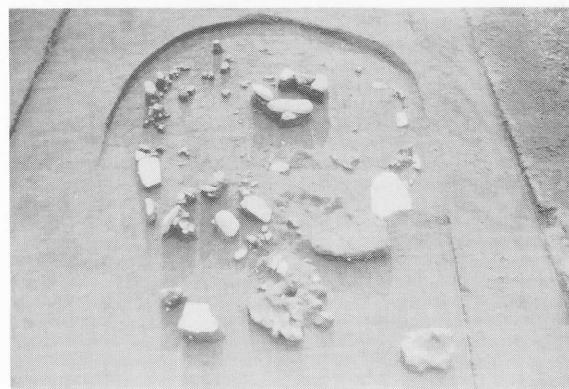
図版3



C区1号住居



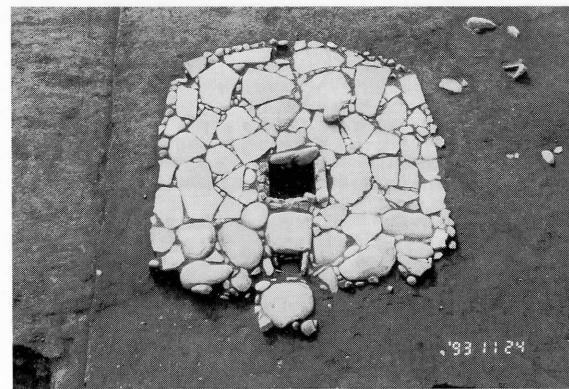
C区1号住居炉



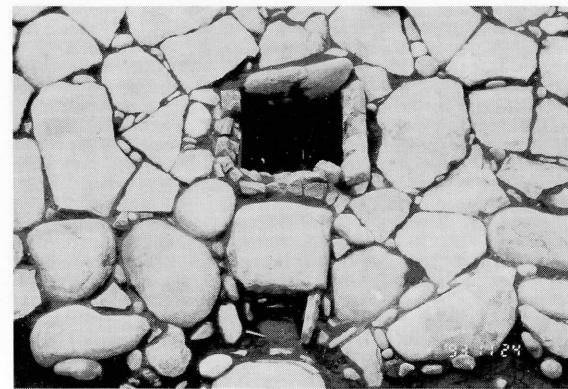
C区2号住居



C区3号住居



C区6号住居



C区6号住居炉



D区1号住居



D区2号住居

図版 4



D区2号住居



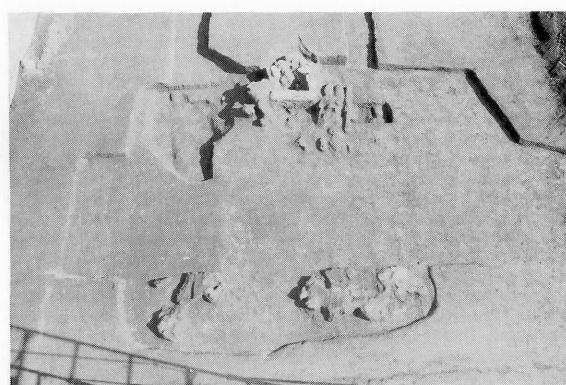
D区5号住居



D区6号住居



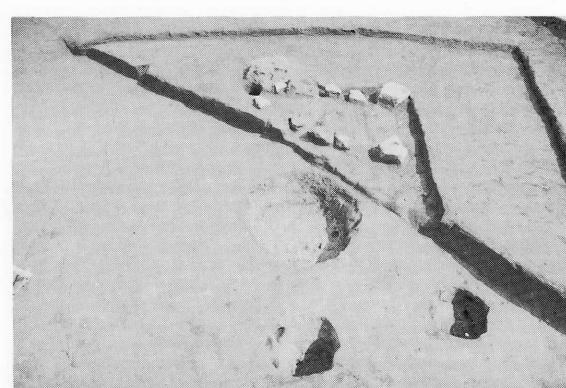
D区6号住居竈



D区7号住居



D区7号住居竈

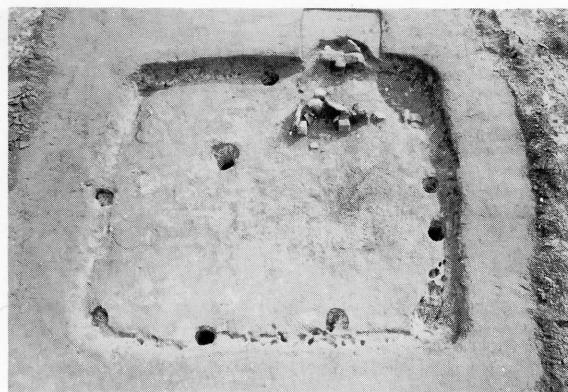


D区8号住居

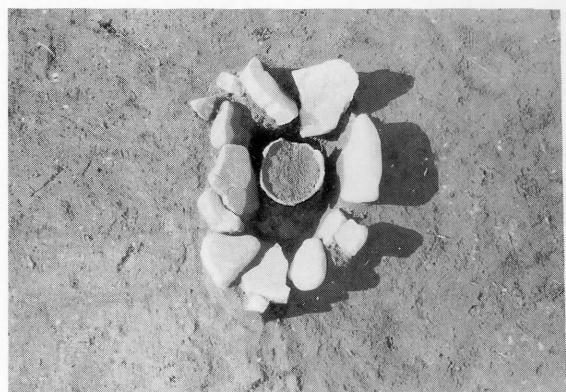


D区8号住居竈

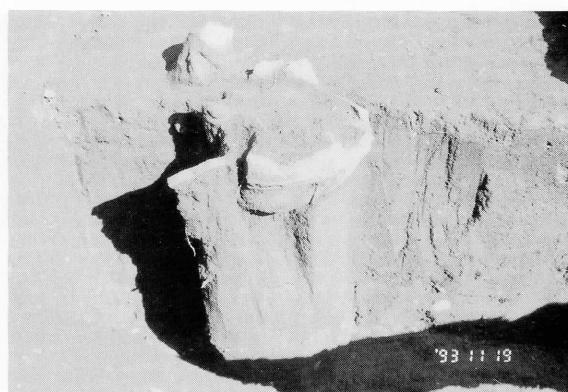
図版 5



D区9号住居



C区1号埋甕



C区2号埋甕



B区1号土坑



B区2号土坑



B区3号土坑

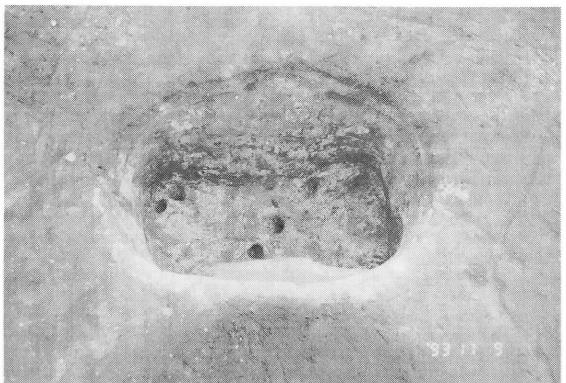


B区4号土坑

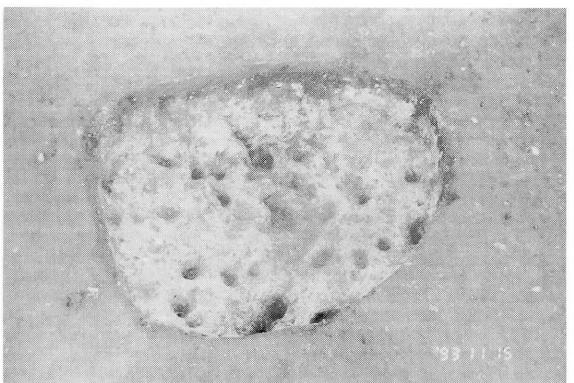


B区5号土坑

図版 6



B区6号土坑



B区7号土坑



B区8号土坑



B区9号土坑



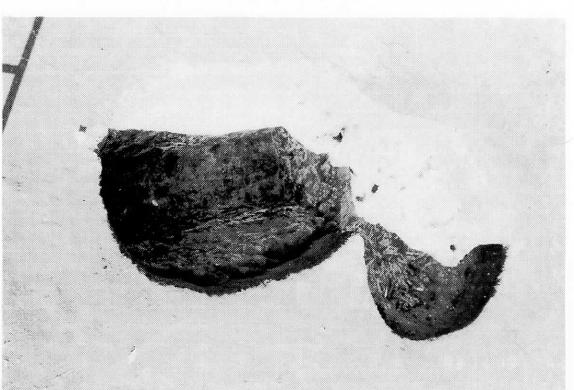
B区10号土坑



B区11号土坑

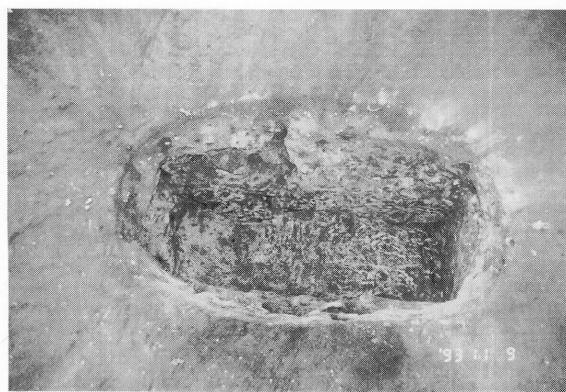


B区12号土坑



B区13·14号土坑

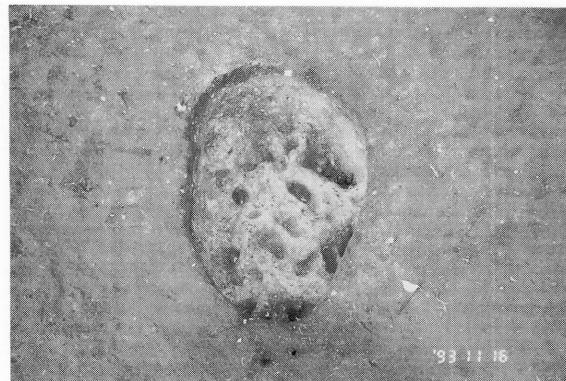
図版 7



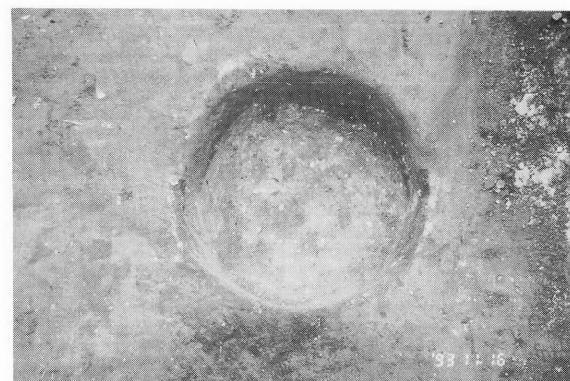
B区15号土坑



B区16号土坑



B区17号土坑



B区18号土坑



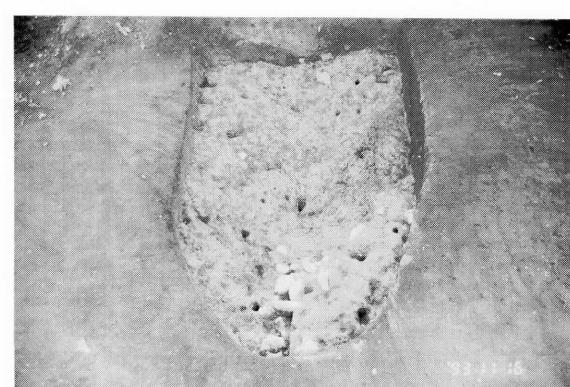
B区19号土坑



B区20号土坑



B区21号土坑



B区22号土坑

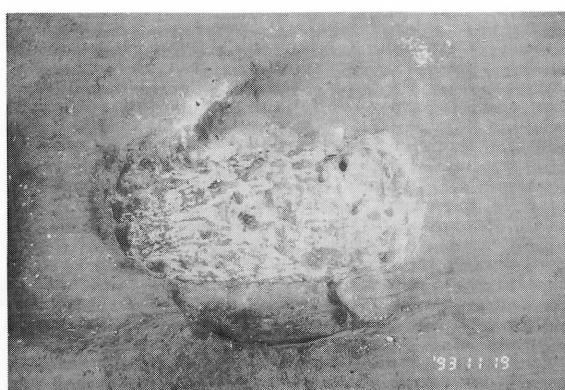
図版 8



B区23号土坑



B区24号土坑



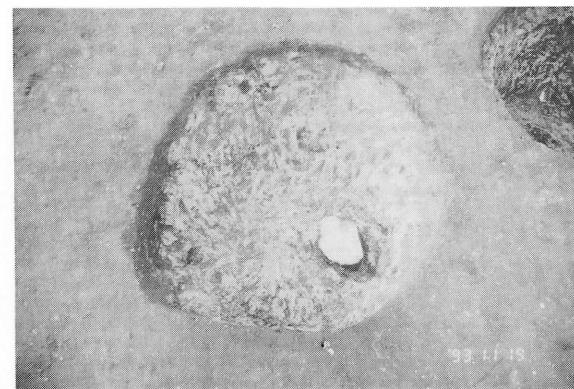
C区9号土坑



C区10号土坑



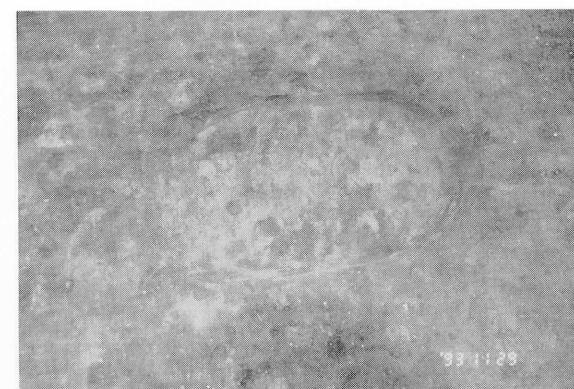
C区11号土坑



C区12号土坑

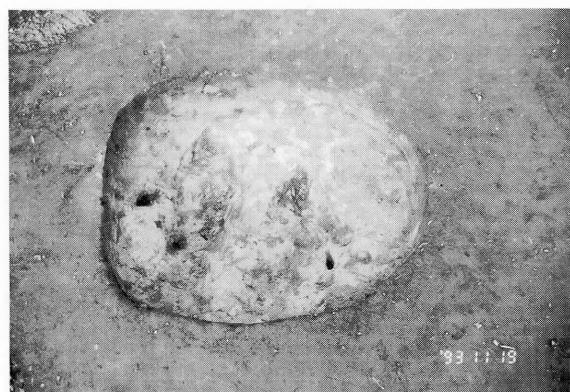


C区13号土坑

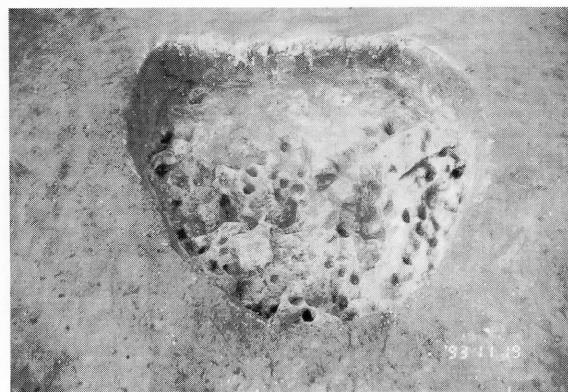


C区14号土坑

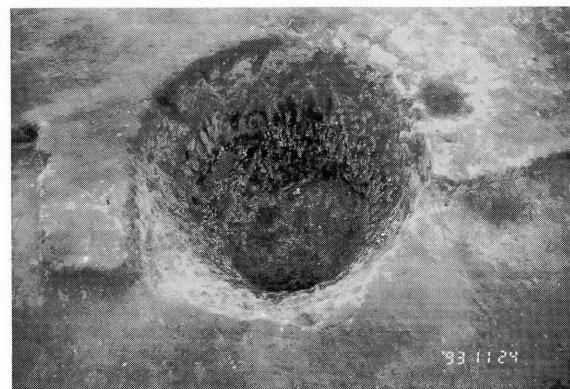
図版 9



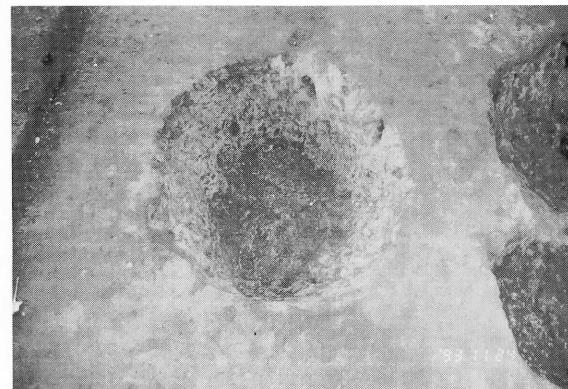
C区16号土坑



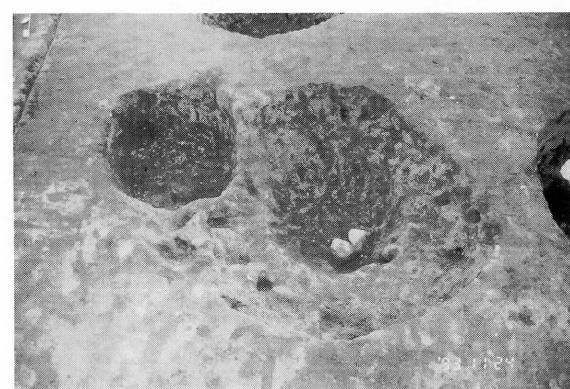
C区21号土坑



C区23号土坑



C区24号土坑



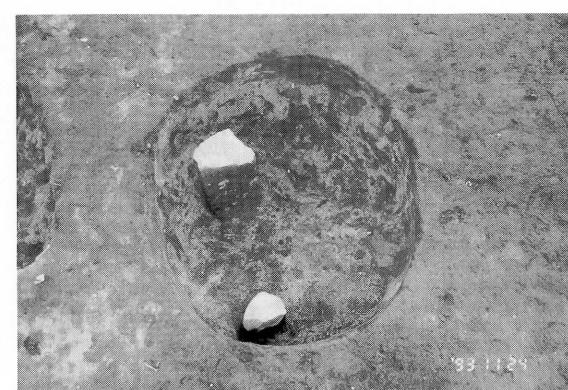
C区25号土坑



C区26号土坑

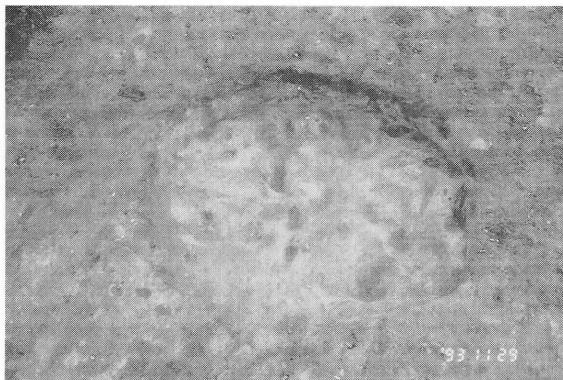


C区27号土坑

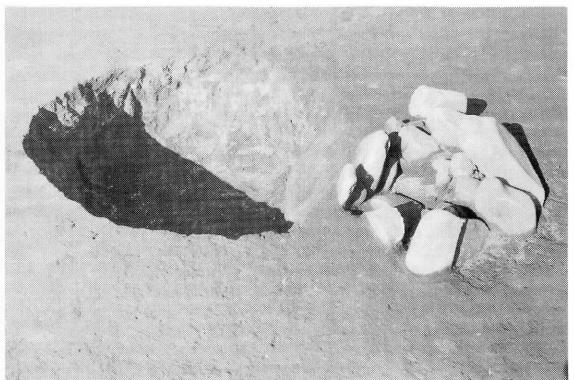


C区28号土坑

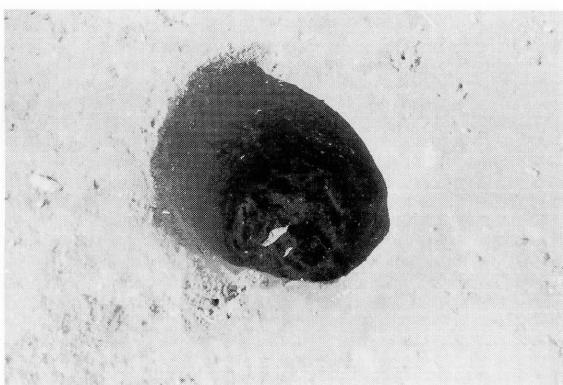
図版10



C区29号土坑



C区30号土坑



D区1号土坑



D区2号土坑



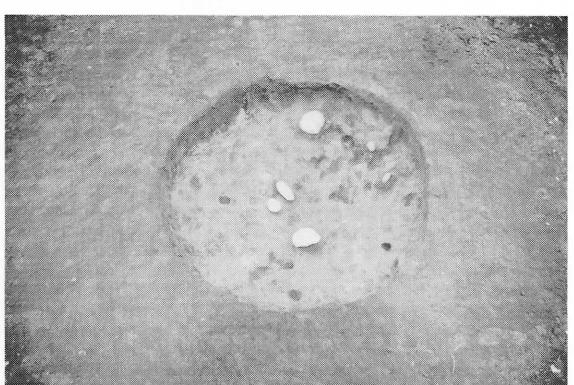
D区3号土坑



D区4号土坑



D区6・7・8号土坑

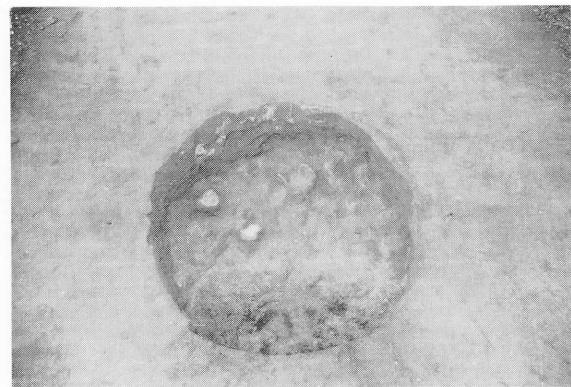


D区9号土坑

図版11



D区12号土坑



D区14号土坑



D区15号土坑



D区17号土坑



D区18号土坑



D区22号土坑



D区23号土坑

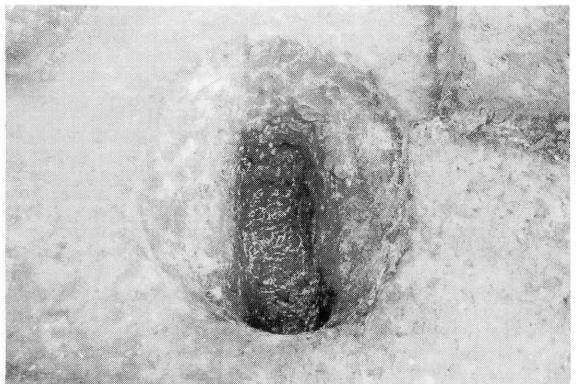


D区24号土坑

図版12



D区25号土坑



D区26号土坑



D区27号土坑



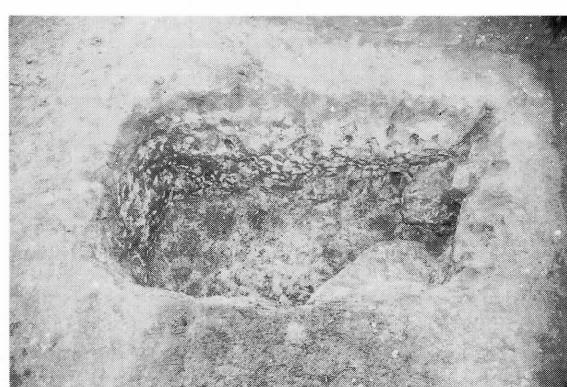
D区28号土坑



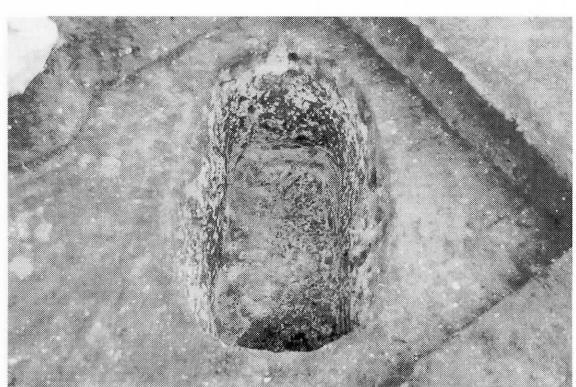
D区29号土坑



D区30号土坑

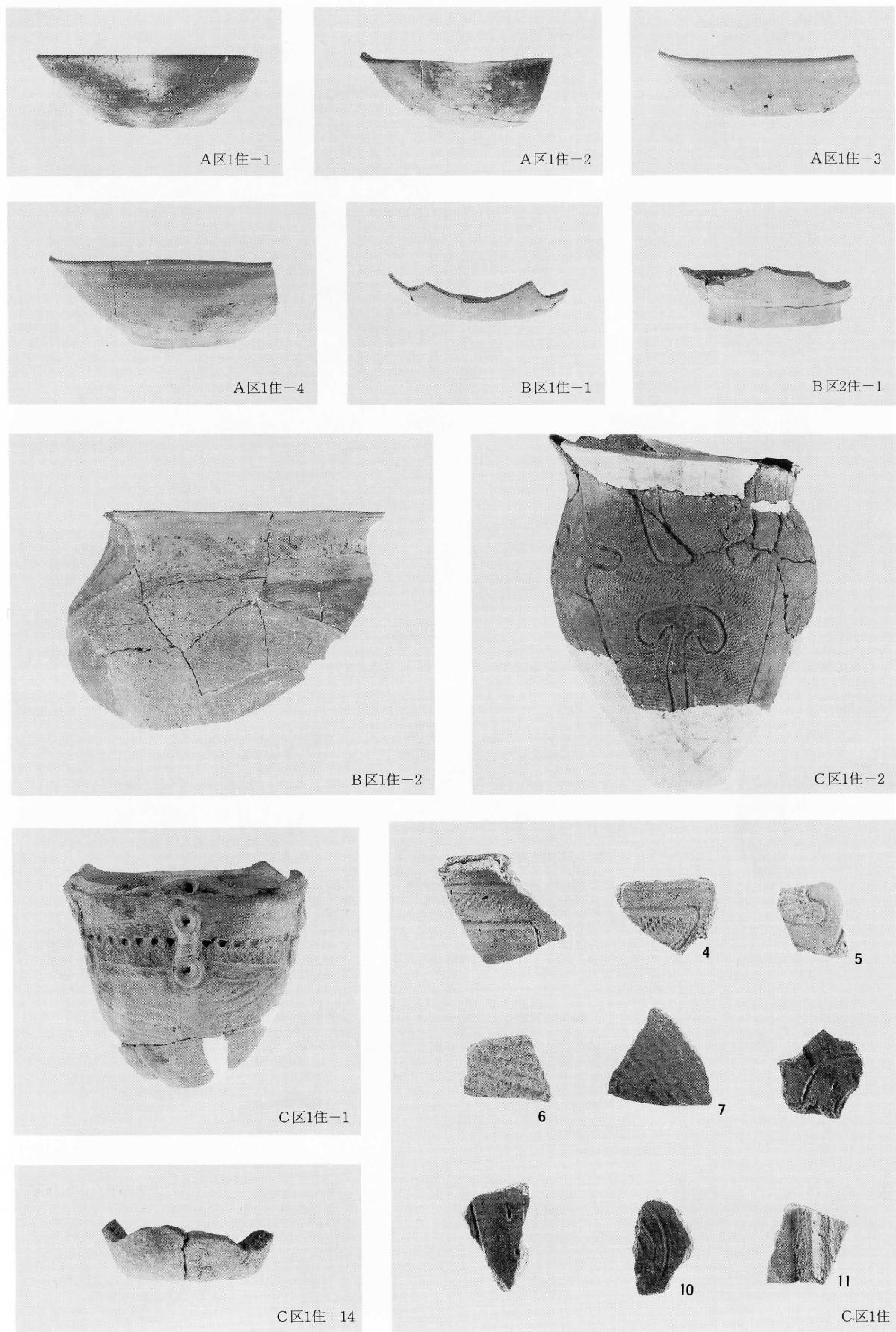


D区31号土坑

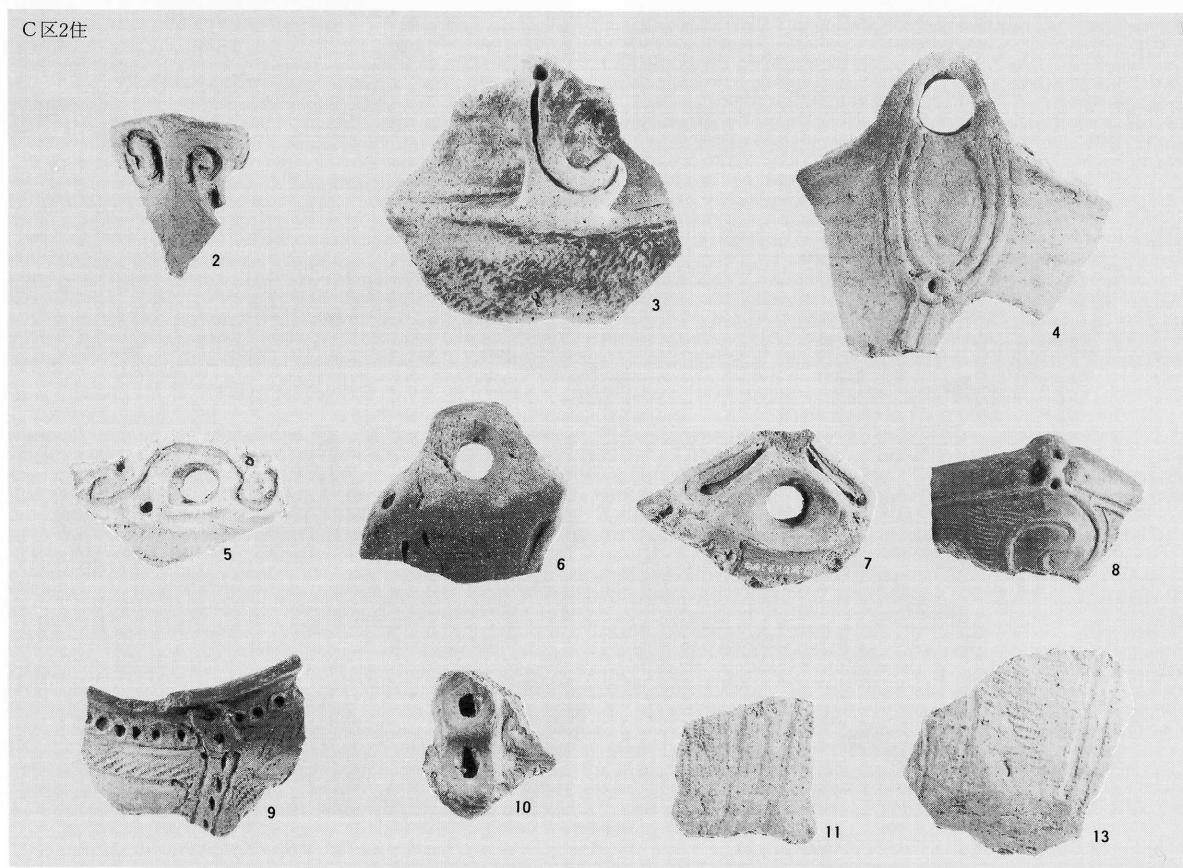
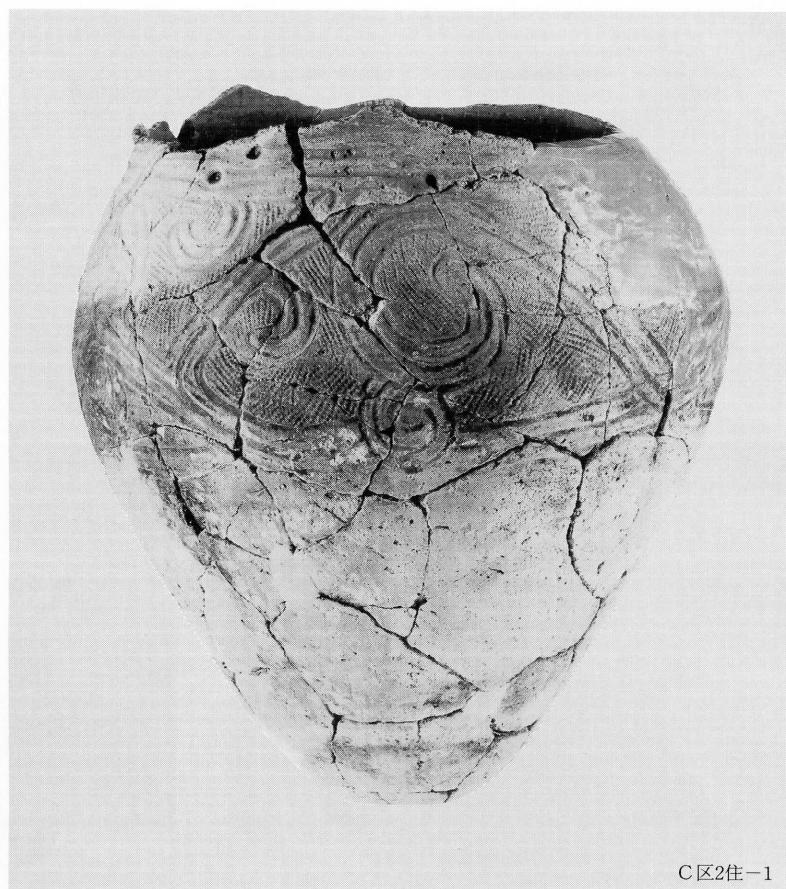
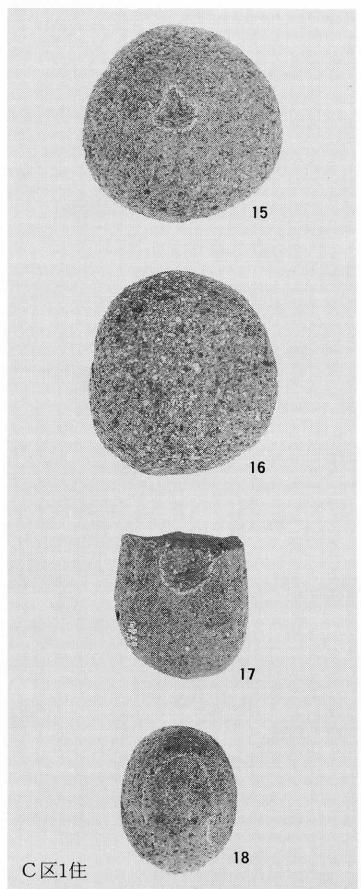


D区32号土坑

図版13

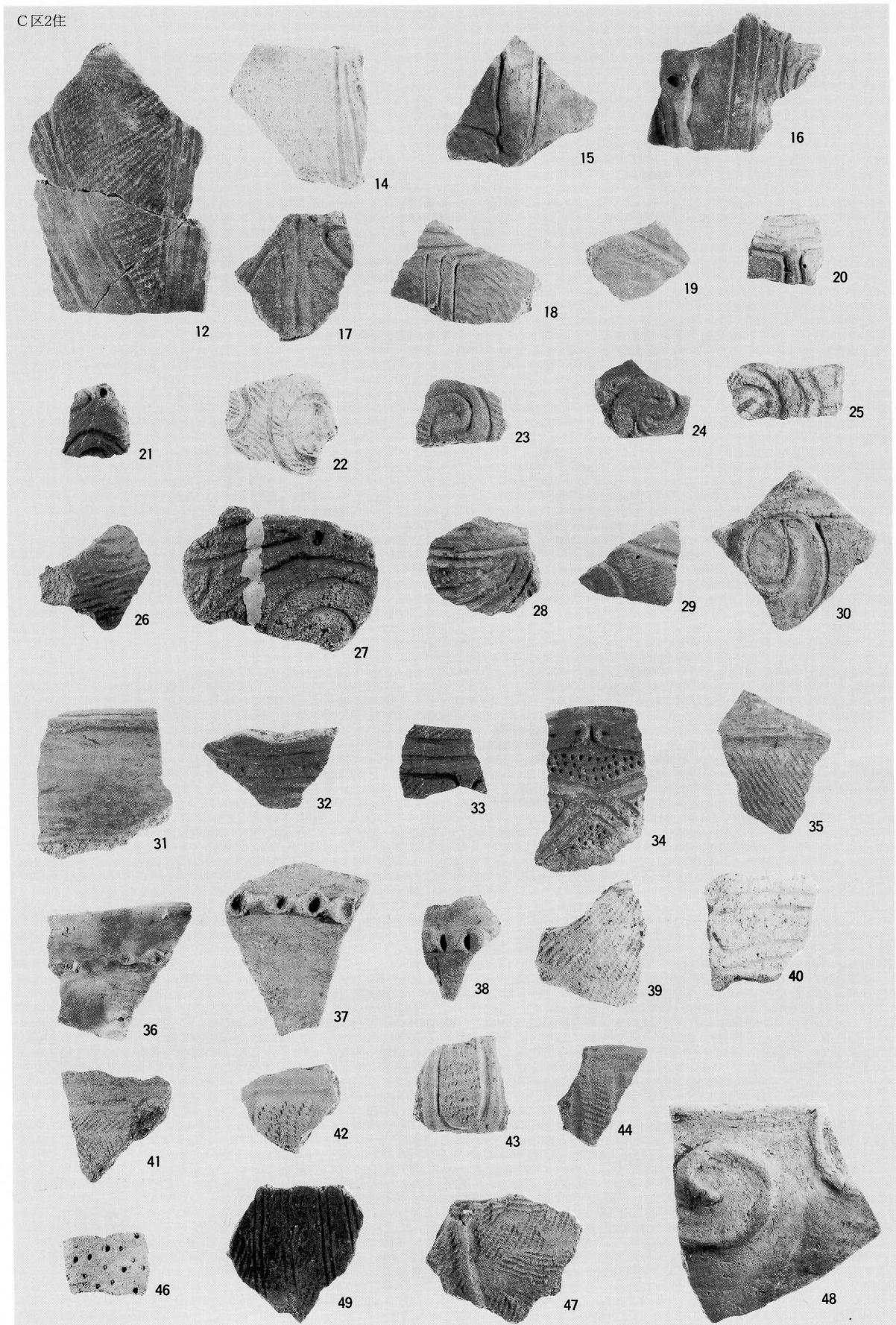


図版14

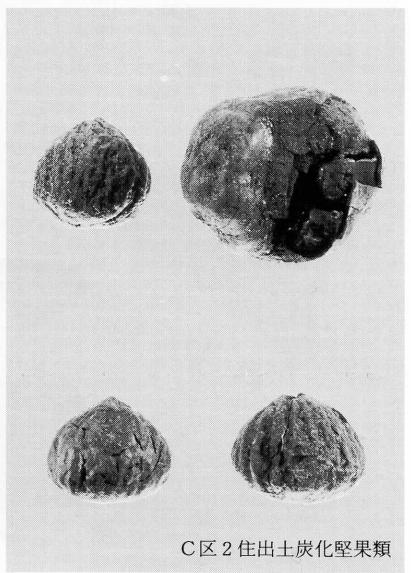
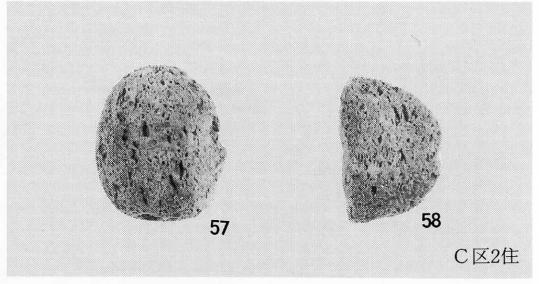
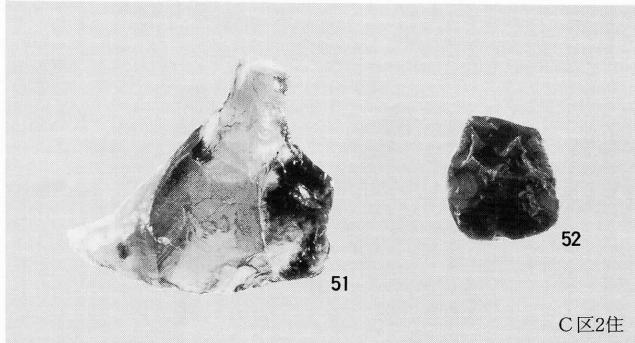
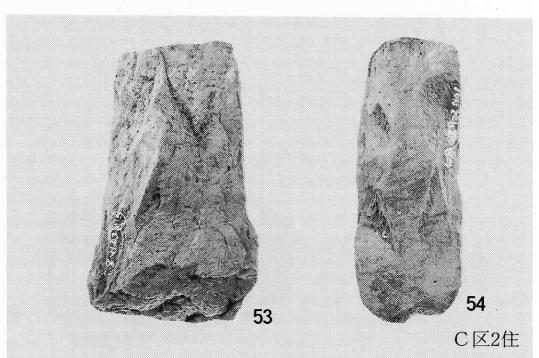
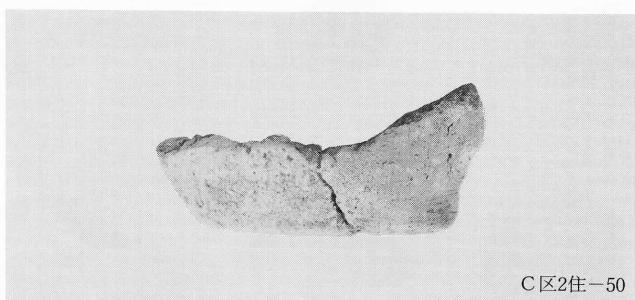
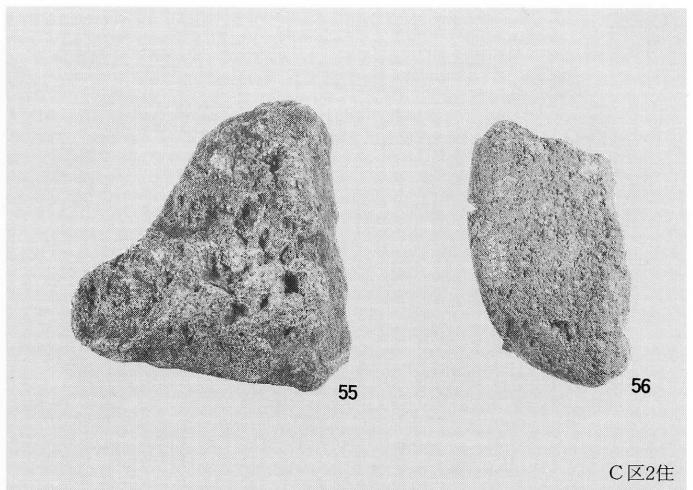
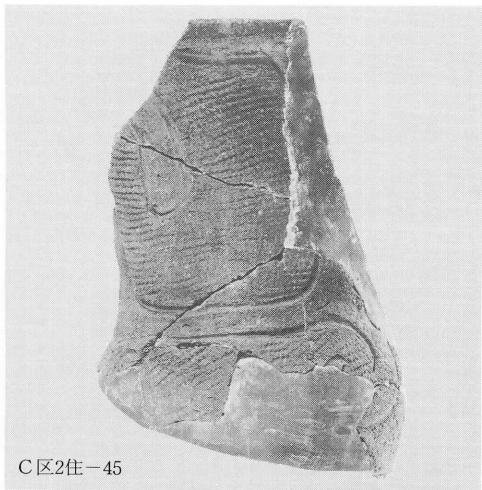


図版15

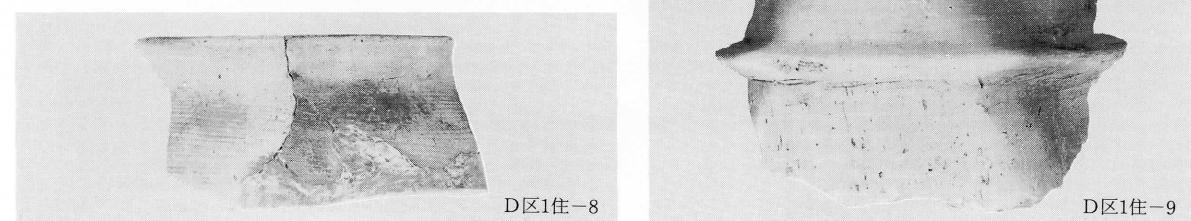
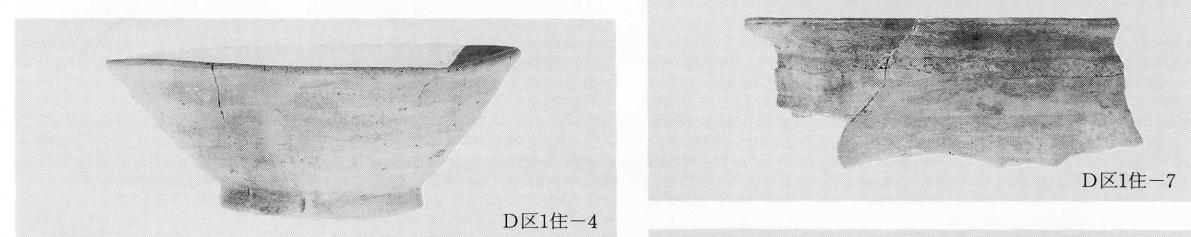
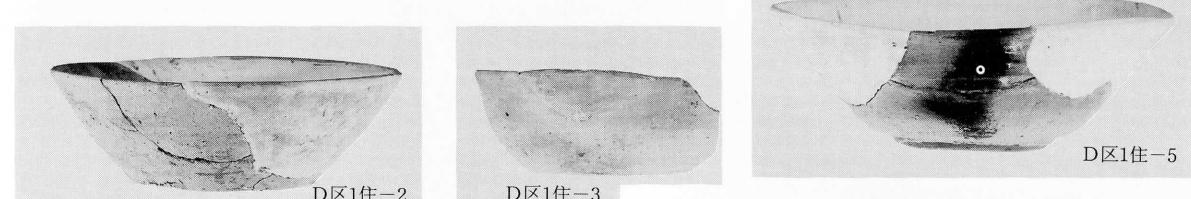
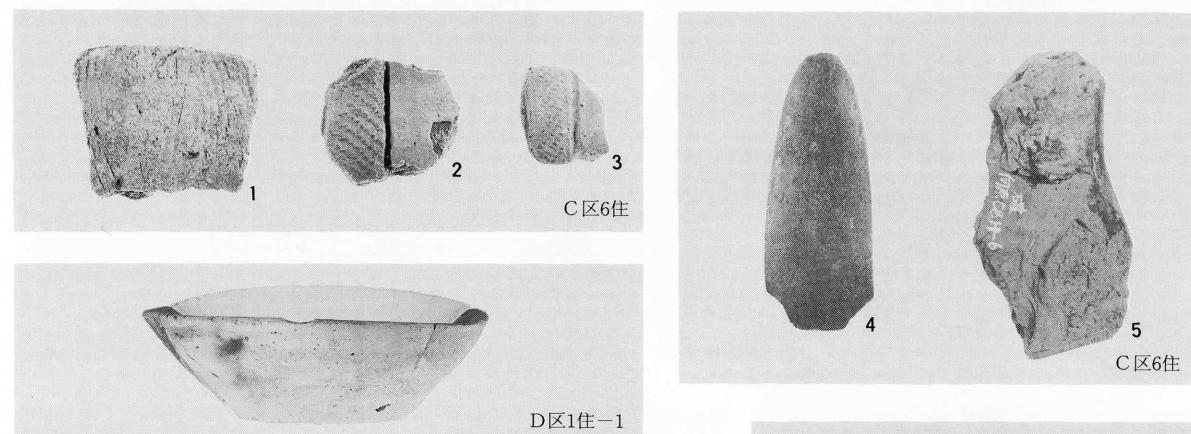
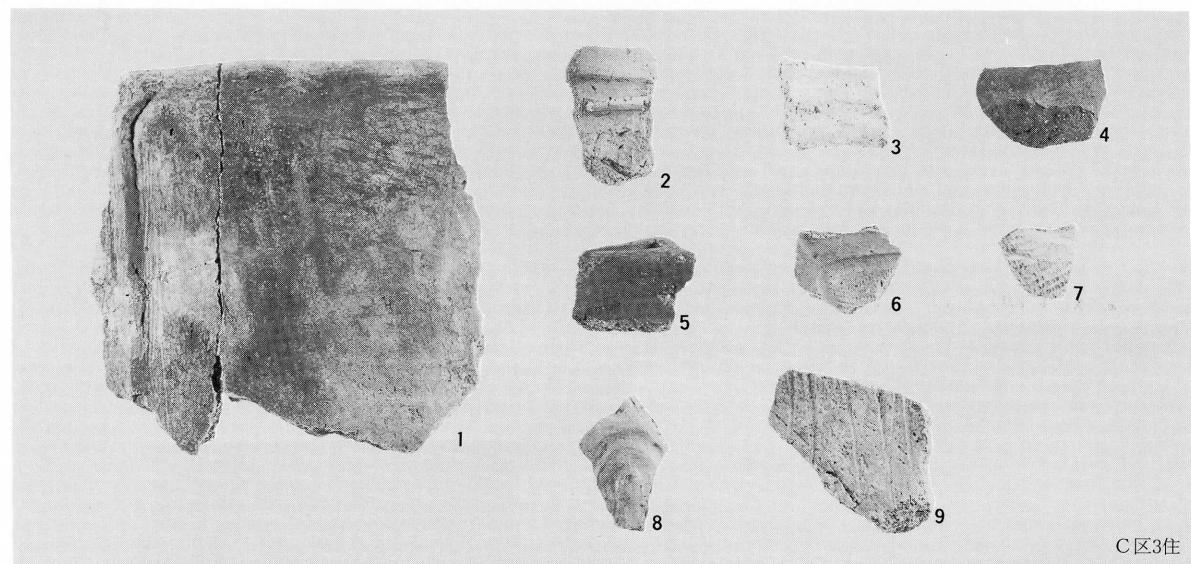
C区2住



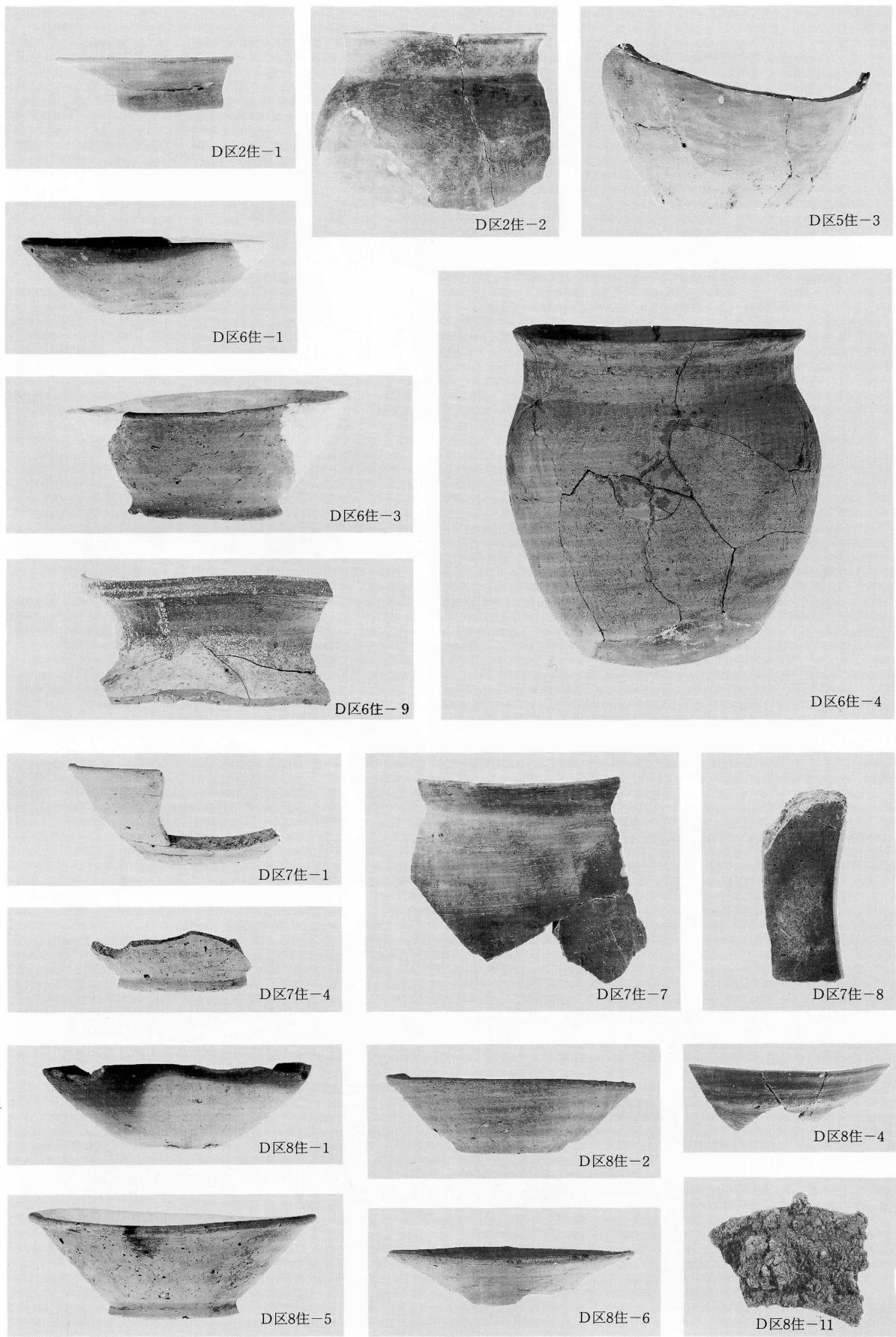
図版16



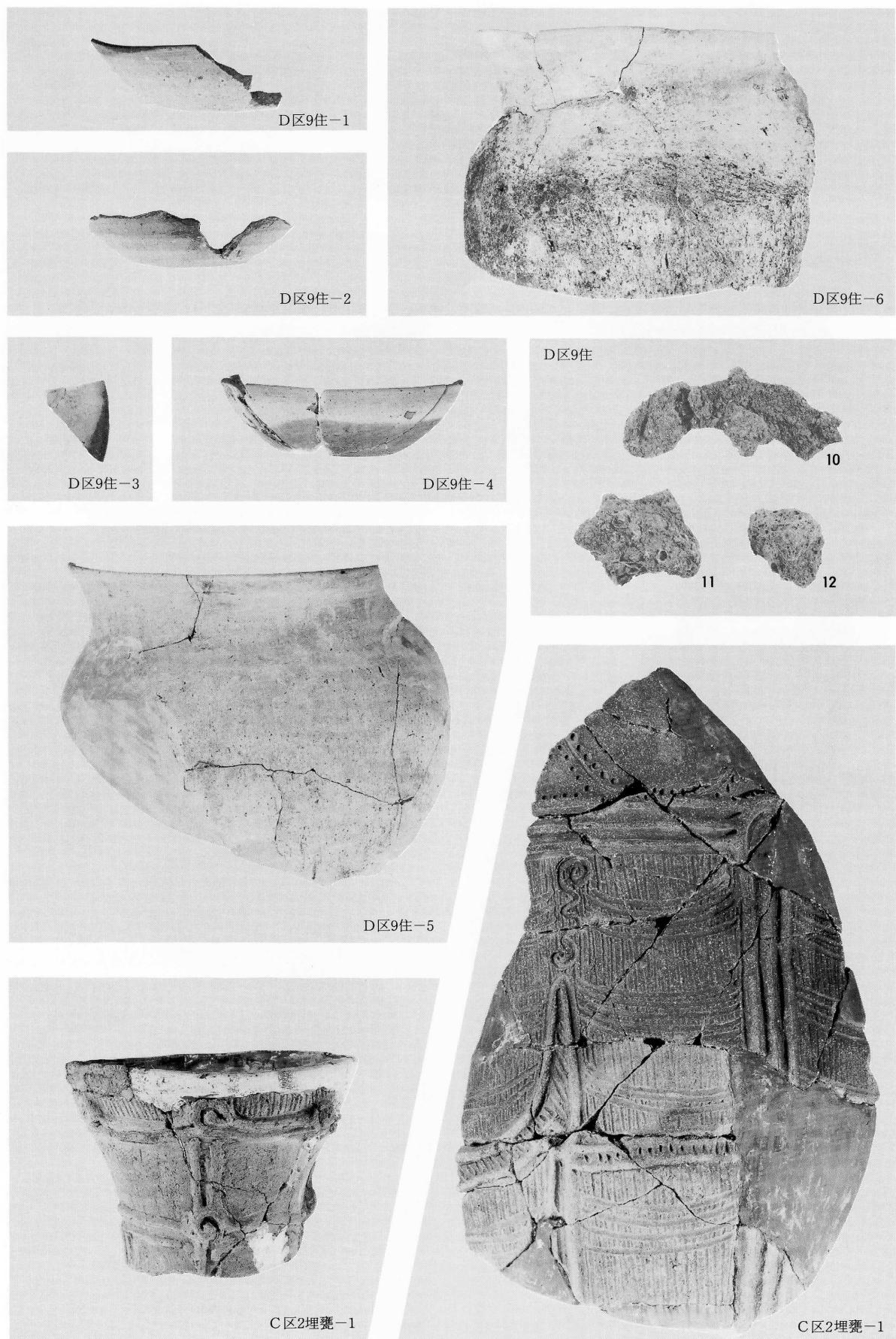
図版17



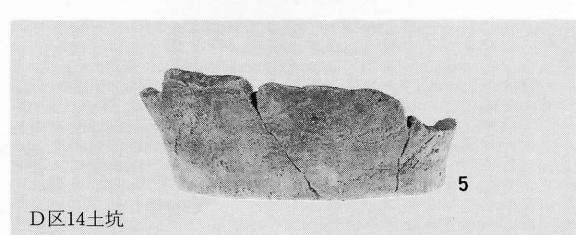
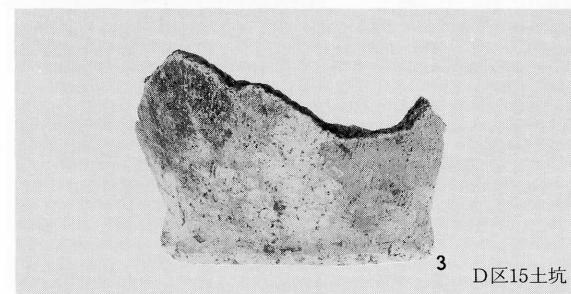
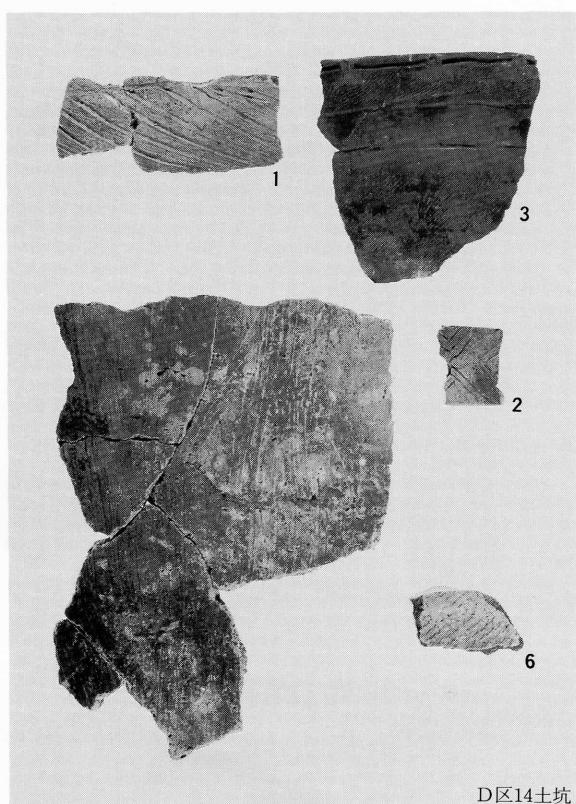
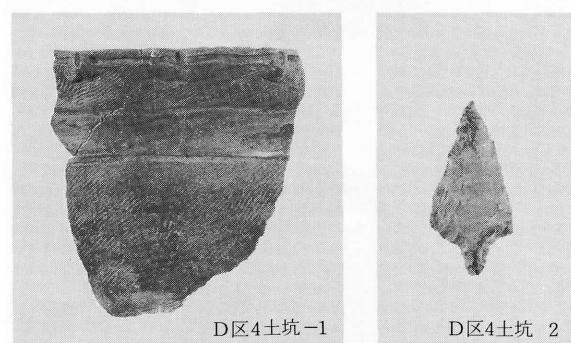
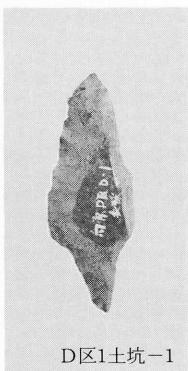
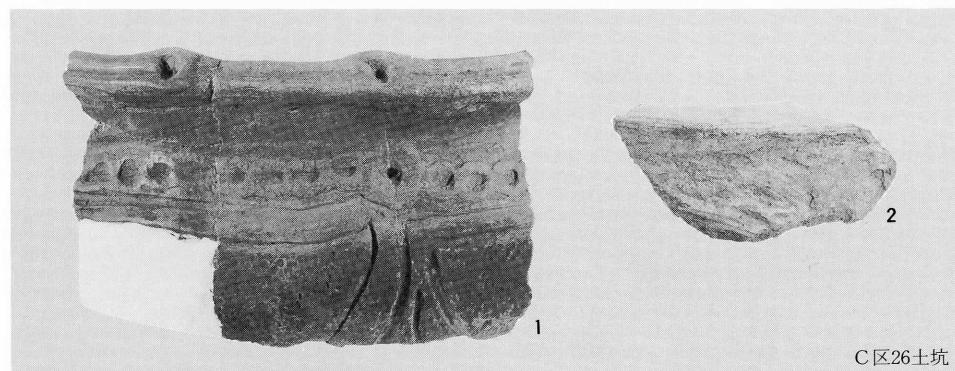
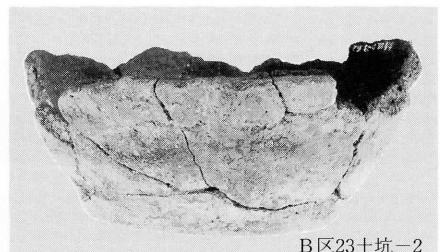
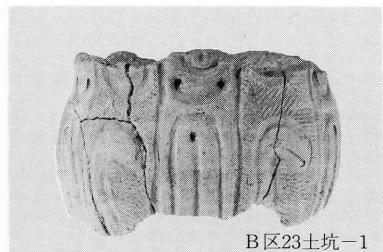
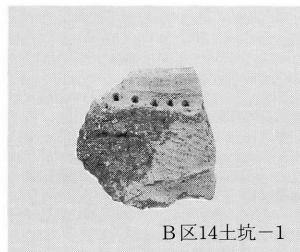
図版18



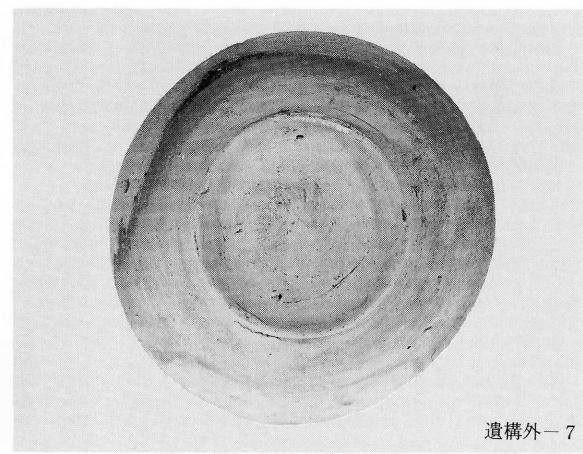
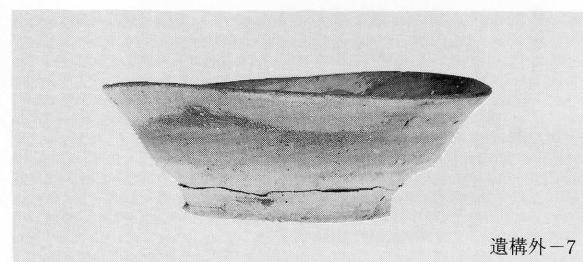
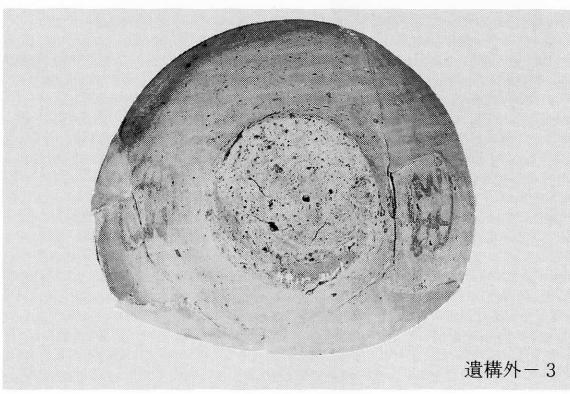
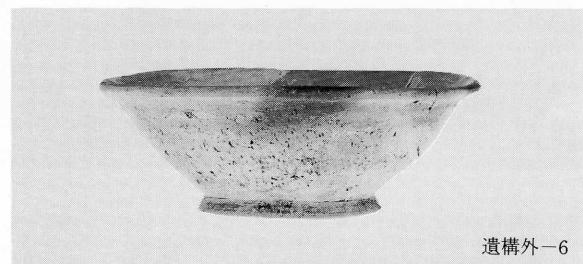
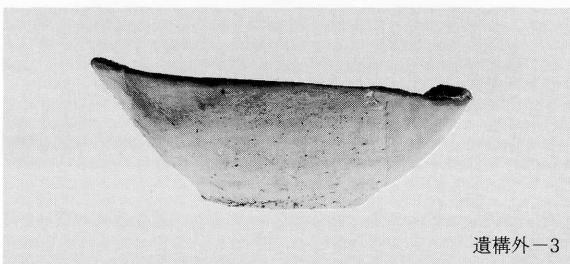
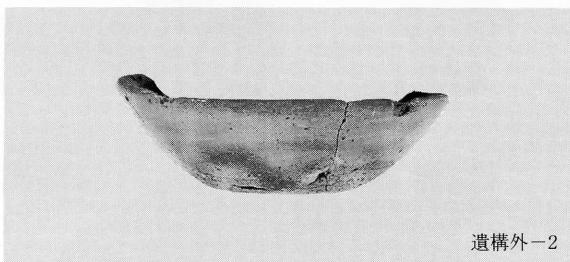
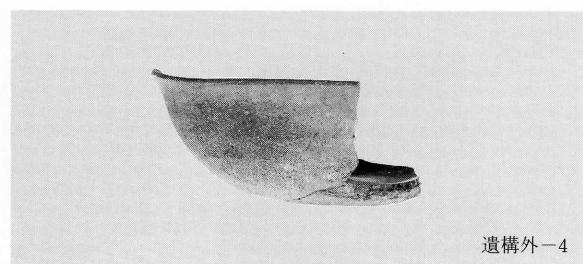
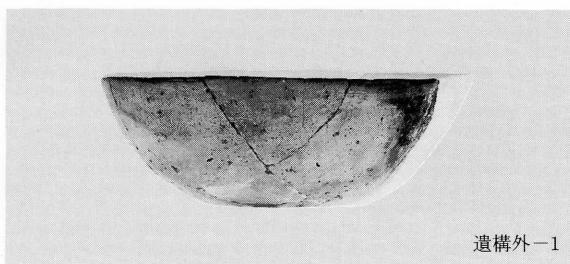
図版19



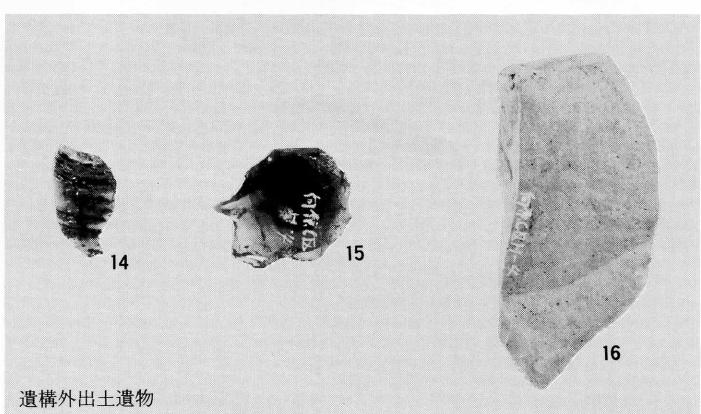
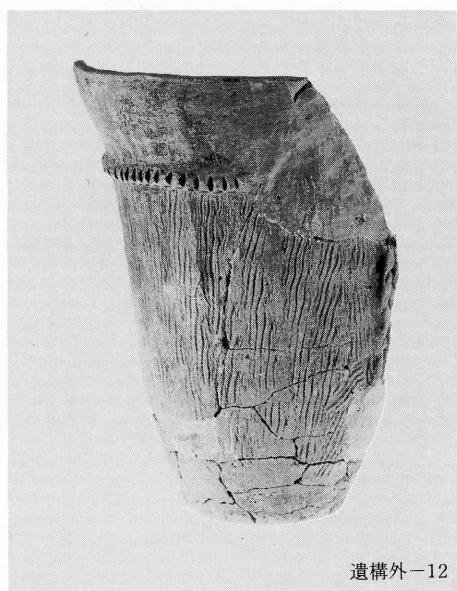
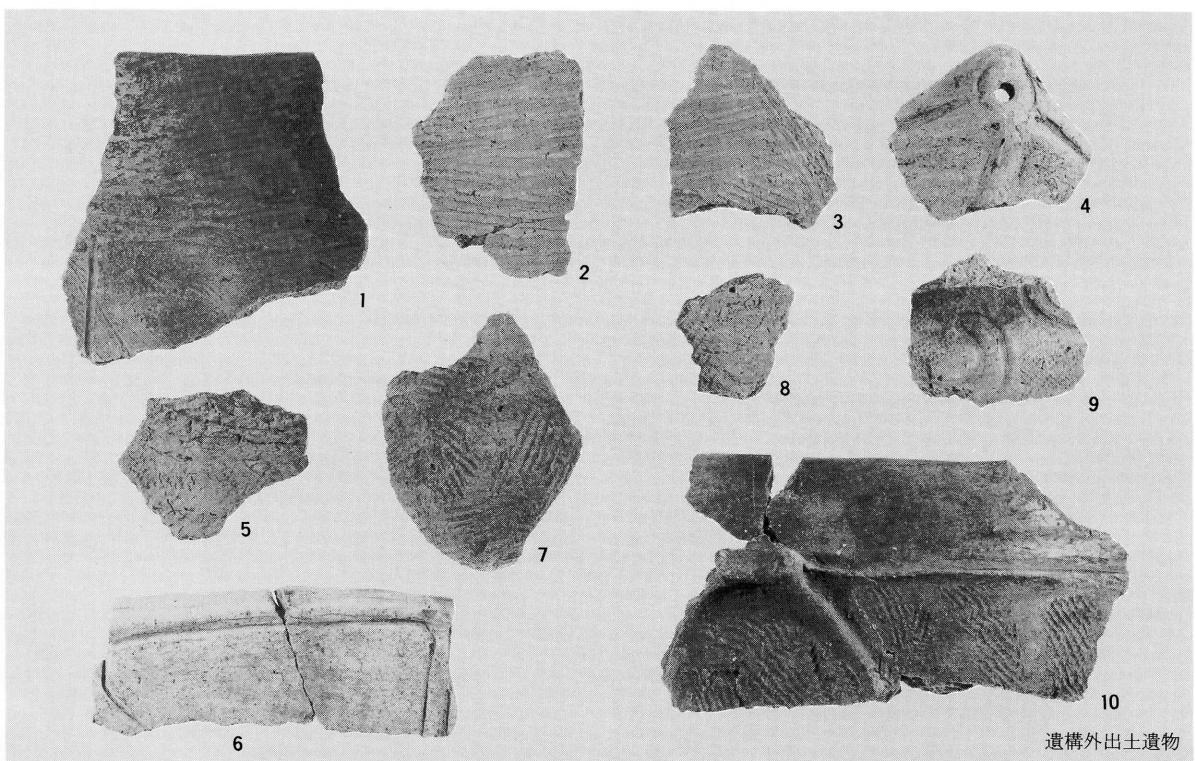
図版20



図版21



図版22



長野原町埋蔵文化財報告書第5集

向原遺跡

発行 平成8年3月31日

編集 長野原町教育委員会
社会教育課

発行者 長野原町教育委員会
〒377-13 群馬県吾妻郡長野原町
大字与喜屋174
TEL 0279-82-4517

印刷所 上海印刷工業株式会社

